

オンライン資格確認等システム 医療機関等向け

資格確認端末セットアップ トラブルシューティング集

別紙 3.11 版

本資料は、オンライン資格確認等システムに接続する資格確認端末のセットアップに係る補助資料です。

セットアップの手順は「オンライン資格確認等システム 医療機関等向け 資格確認端末のセットアップ」を参照してください。

※本マニュアルは、Windows11で作成しています。

2026.02作成

補1	最新のMicrosoft Edge をインストールしたい	3
補2	配信アプリケーションによる自動更新を停止したい	6
補3	配信アプリケーションによる自動更新を再開したい	7
補4	証明書伝達サービス（CertPropSvc）を利用するアプリケーションを利用したい	8
補5	OqsComAppユーザーのパスワードを変更したい	10
補6	アカウントのパスワードを変更したい	19
補7	言語設定を日本語に、地域設定を日本にしたい	20
補8	医療機関コードが変更になった場合	22
補9	顔認証ライブラリ又は連携アプリ利用時の結果データファイルが操作できない	27
補10	ブラウザー（Microsoft Edge）の設定を変更したい	29
補11	ファイルの拡張子を表示したい	30
補12	ファイルを暗号化したい	31
補13	NAS等の共有フォルダーに結果ファイルを出力したい	32
補14	事前にダウンロードが必要な資材を知りたい	33
補15	Windowsの検索機能が利用できない	34
補16	連携アプリケーションから結果が返ってこない	37
補17	配信アプリケーションが動作しない	42

トラブルシューティング集 目次

補18 顔認証付きカードリーダーアプリケーションが動作しない	45	補35 ネットワークアダプターでIPv6のみを利用する場合	72
補19 1つの資格確認端末にて複数のアカウントを使用したい	50	補36 オンライン資格確認等システムへログイン時に資格情報を求めるメッセージが表示される場合	73
補20 顔認証にて出力された結果ファイルを削除したい	52	補37 ブラウザ拡張プラグイン（顔認証ライブラリ含む）のインストール手順について	74
補21 導入アプリケーションの最新バージョン情報について	53	補38 連携アプリケーションのインストール手順について	75
補22 Windows Updateが実施可能であるか確認したい	54	補39 各種アプリケーションのインストール・バージョンアップが正しく行われない	76
補23 ネットワーク接続確認ツールでエラーが表示される	56	補40 医療扶助を受けている被保護者の資格情報を閲覧できない	77
補24 DNSラウンドロビン未対応機器のNTP設定について	58	補41 救急時医療情報が閲覧できない	78
補25 各種アプリケーションのバージョンを今すぐ最新化したい	59	補42 電子証明書の取得サイトURLにアクセスするとエラーとなり、電子証明書がダウンロードできない	79
補26 コンピューター名を変更したい	60	補43 電子カルテ情報共有サービスが利用できない	80
補27 医療機関等が統合した場合	61	補44 臨床情報の閲覧又は同意ができない	81
補28 アプリケーションのインストールに失敗した場合	62	補45 資格確認情報照会（マイナンバーカード）においてスマートフォンのボタンが表示されない	82
補29 連携アプリケーション等で利用するJavaについて	65		
補30 診療情報・手術情報が閲覧できない	66		
補31 電子処方箋管理サービスが利用できない	67		
補32 Webアプリケーションで資格確認した結果をレセコンに取り込みみたい場合	69		
補33 Windows11 Proがインストールされた端末を資格確認端末としてセットアップする場合	70		
補34 資格確認端末のWindows Updateを停止し、自動更新しないようにする	71		

補1 最新のMicrosoft Edge をインストールしたい

Microsoft Edge をインストールします

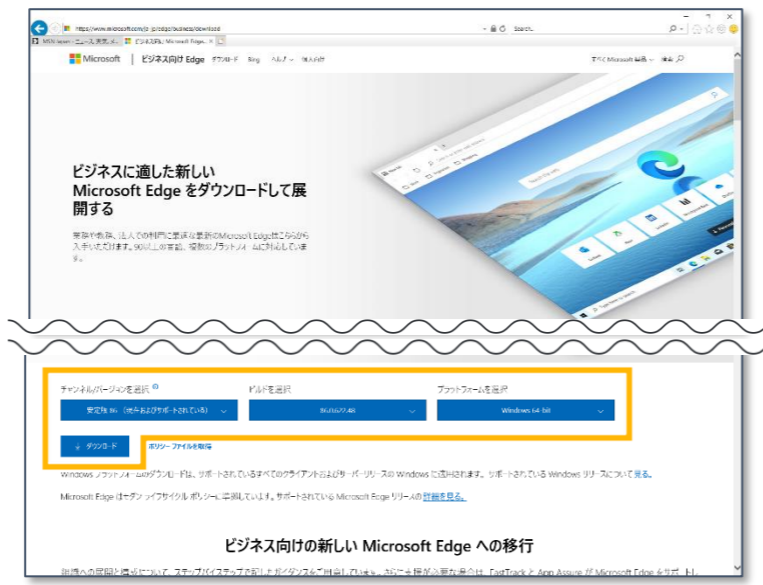
1 以下のサイトにアクセスします。

Microsoft Edgeのダウンロードサイト
<https://www.microsoft.com/ja-jp/edge/business/download>

2 ダウンロードサイトが表示されます。

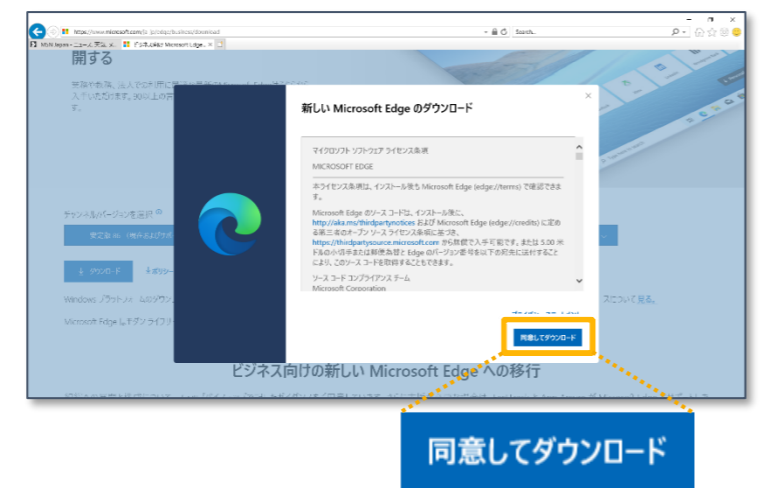
以下の項目を設定し、**ダウンロード**をクリックします。

- チャンネル/バージョンを選択：最新の安定版XX (現在及びサポートされている)
- ビルドを選択：最新のビルド番号
- プラットフォームを選択：Windows 64-bit

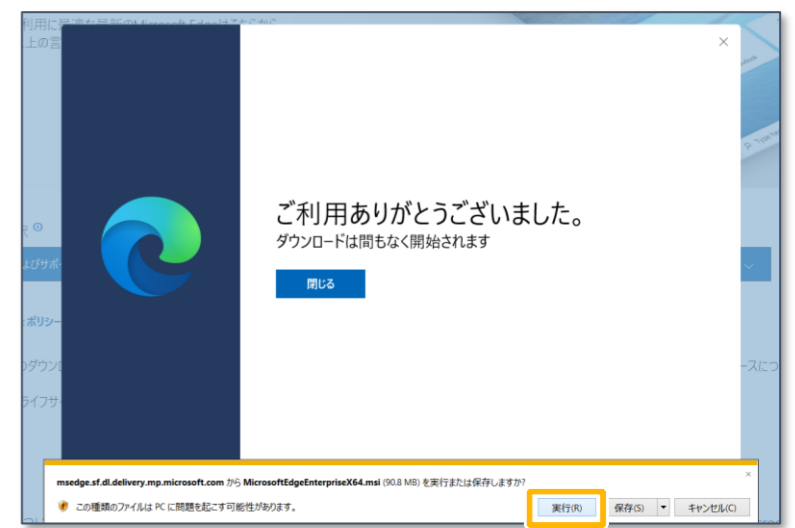


3 新しいMicrosoft Edgeのダウンロードが表示されます。

マイクロソフト ソフトウェアライセンス条項の内容をよく読み、同意する場合は**同意してダウンロード**をクリックします。



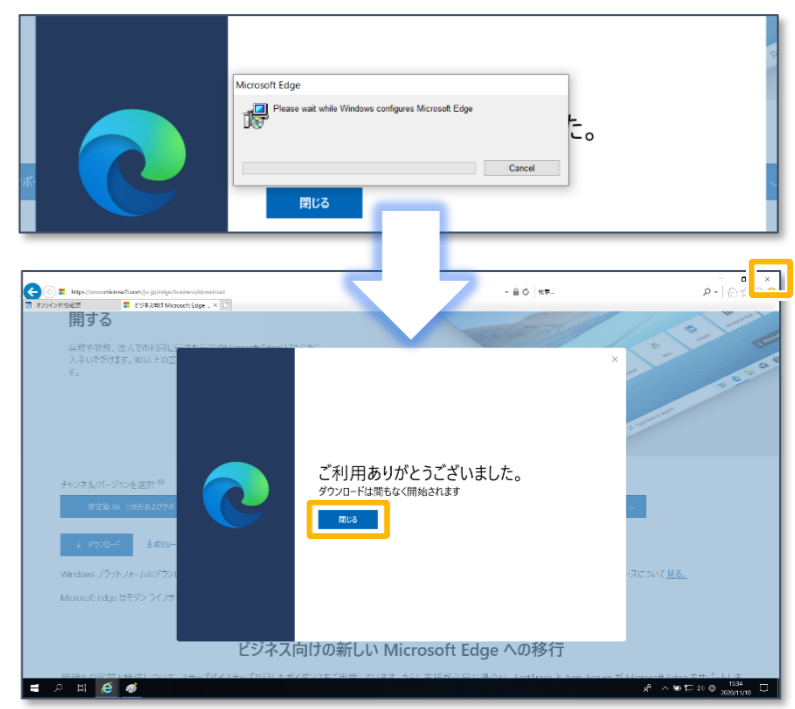
4 通知バーが表示されます。
実行をクリックします。



5 Microsoft Edgeのインストールが開始されます。

こんなときは！
メッセージ画面が表示された場合

「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」というメッセージ画面が表示された場合は、YESボタンをクリックしてインストールを続行します。



インストールの完了後、ブラウザを閉じます。

インストールが完了すると、デスクトップに**Microsoft Edge**のショートカットが表示されます。

レガシー版のアイコンでないことを確認します。



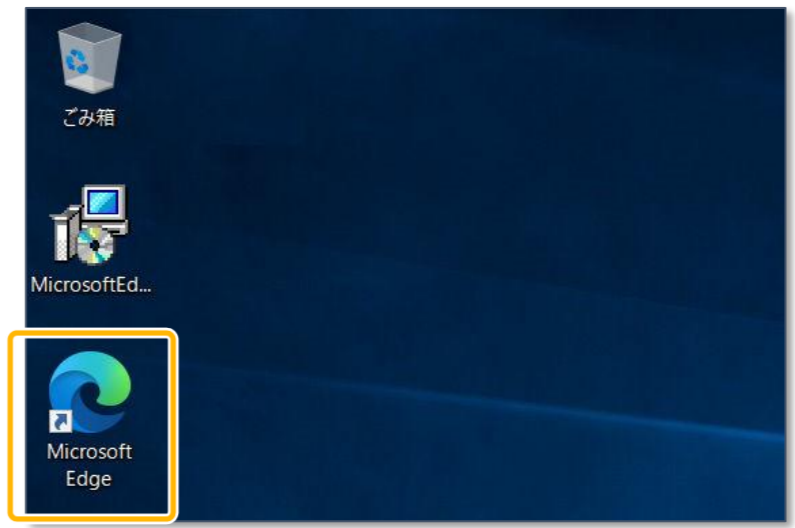
確認



6 へ進む

補1 最新のMicrosoft Edge をインストールしたい (つづき)

6 Microsoft Edgeのアイコンをダブルクリックします。



7 Microsoft Edgeが起動し、Microsoft Edge へようこそが表示されます。

ユーザーデータを使用せずに開始をクリックします。



8 Webをカスタマイズしましょうが表示されます。

Microsoftのエクスペリエンスをより便利なものにするのチェックを外します。

確認して閲覧を開始するをクリックします。

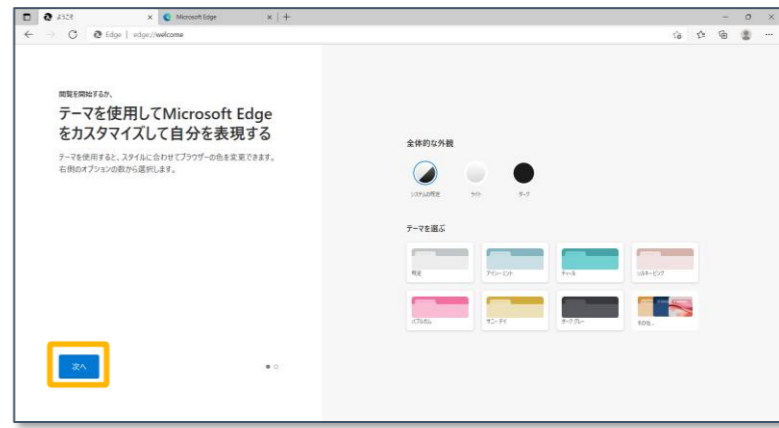


こんなときは!
「Microsoftのエクスペリエンスをより便利なものにする」にチェックを入れた場合
 チェックの有無によって、オンライン資格確認等システムの動作に影響はありません。

9 テーマを使用してMicrosoft Edgeをカスタマイズして自分を表現するが表示されます。

次へをクリックします。

こんなときは!
全体的な外観、テーマを変更したい場合
 選択された全体的な外観、テーマによって、オンライン資格確認等システムの画面表示及び動作に影響はありません。

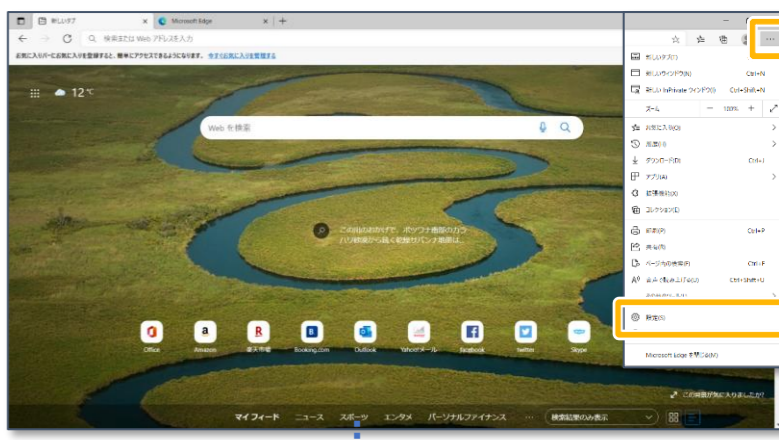


10 **完了**をクリックします。



11 Microsoft Edgeが正しくインストールされたかを確認します。

設定 (設定など) から**設定**をクリックします。

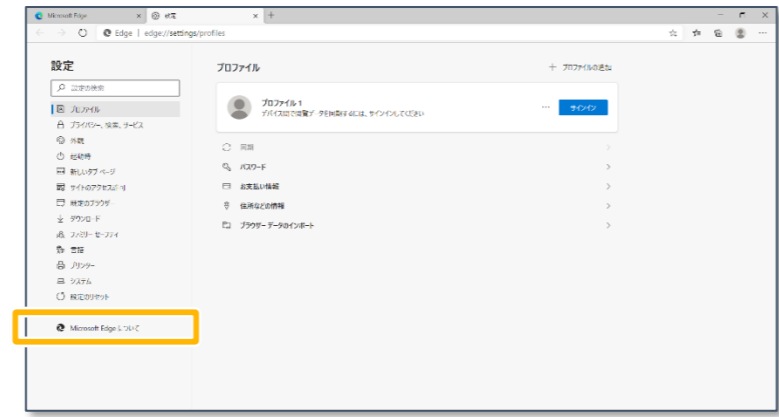


12 へ進む

補1 最新のMicrosoft Edge をインストールしたい (つづき)

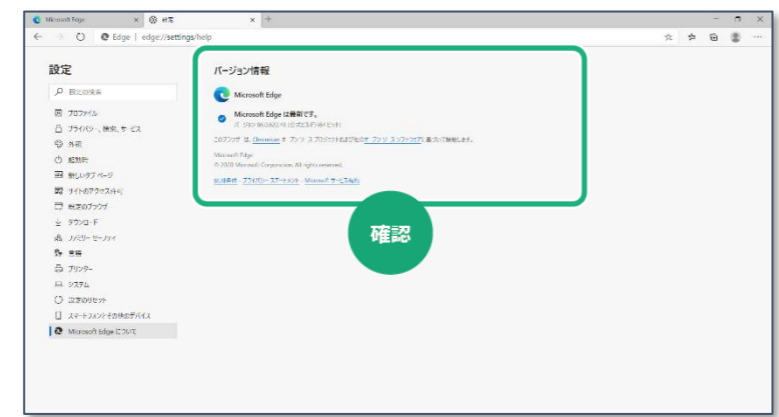
12 設定が表示されます。

Microsoft Edgeについてをクリックします。



13 バージョン情報が表示されます。

このブラウザは Chromium オープンソース... と表示されていることを確認します。

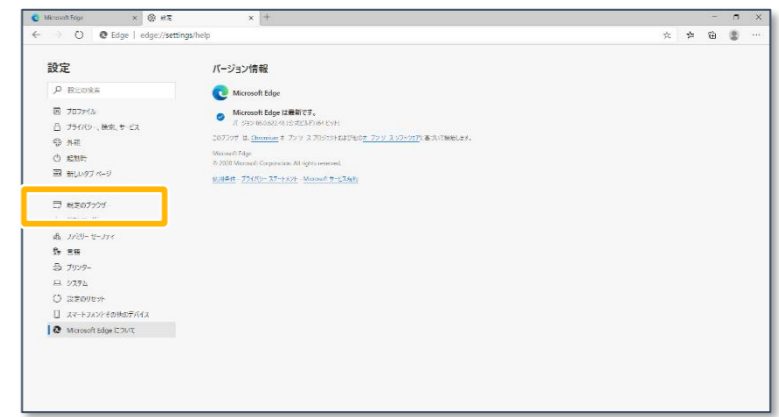


Microsoft Edgeのインストールが完了しました。

Microsoft Edgeを既定のブラウザにします

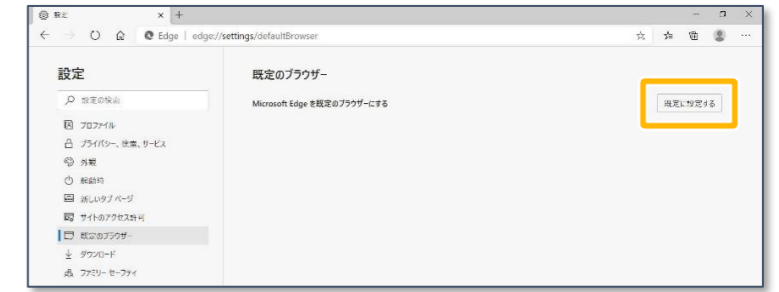
Microsoft Edgeを常に使用するブラウザとして設定します。

1 Microsoft Edgeを起動し、設定画面の既定のブラウザをクリックします。

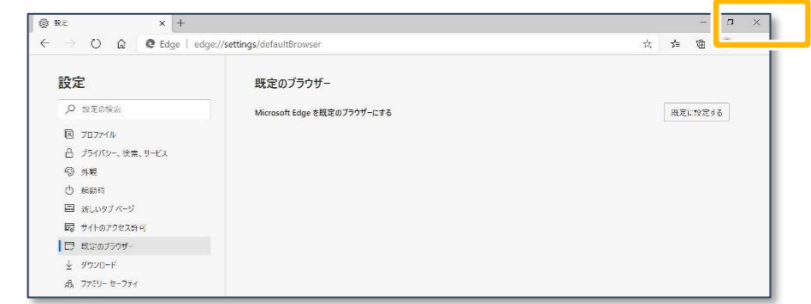


2 既定のブラウザが表示されます。

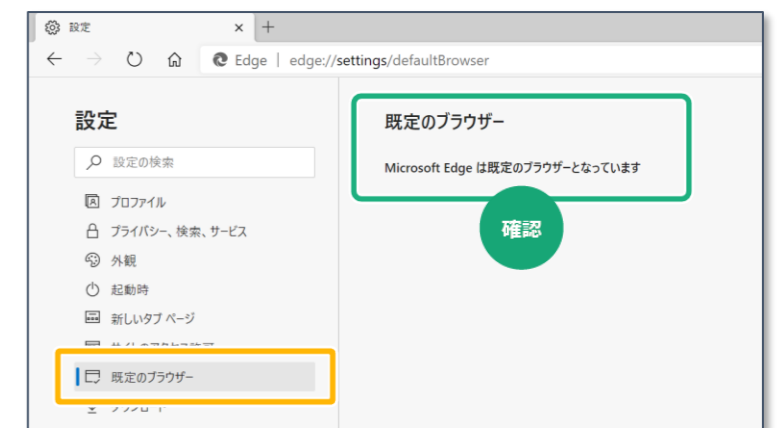
既定に設定するをクリックします。



3 X ボタンをクリックして Microsoft Edgeを閉じます。



4 Microsoft Edgeを起動して設定画面の既定のブラウザをクリックすると、Microsoft Edgeは既定のブラウザとなっています と表示されます。



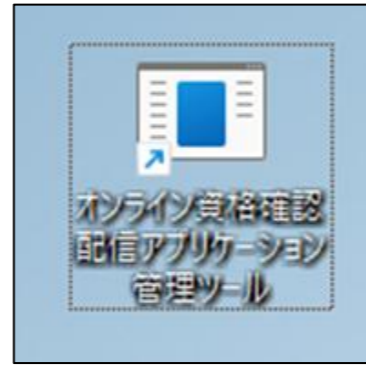
Microsoft Edgeの設定が完了しました。

補2

配信アプリケーションによる自動更新を停止したい

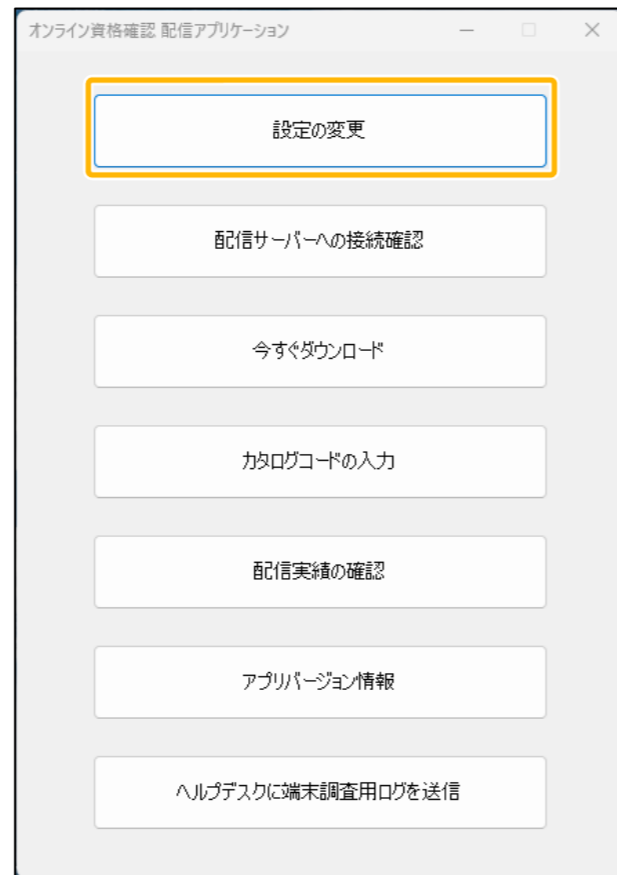
レセプトコンピューターと資格確認端末を兼用する医療機関等の場合、又は資格確認端末のOSがWindows11 Proの医療機関等の場合等で、配信アプリケーションによる自動更新を停止するときは、以下の操作を実施してください。

- 1 スタートメニュー又はショートカットから**オンライン資格確認配信アプリケーション管理ツール**を起動します。



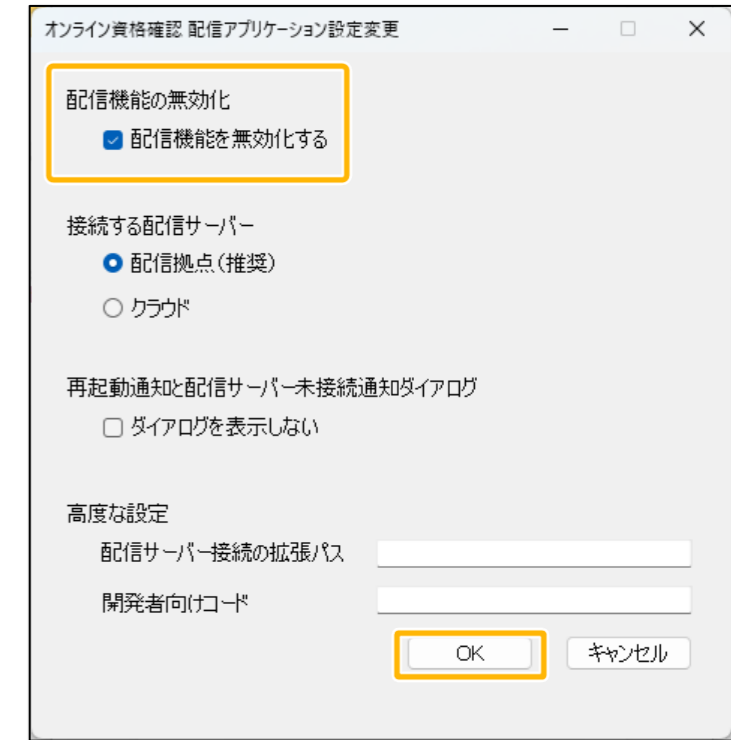
- 2 オンライン資格確認配信アプリケーション管理ツールが表示されます。

設定の変更をクリックします。



- 3 オンライン資格確認配信アプリケーション設定変更が表示されます。

配信機能を無効化するにチェックを入れ、**OK**をクリックします。



- 4 オンライン資格確認配信アプリケーション管理ツールが表示されます。

管理ツール右上の**×** ボタンをクリックし、管理ツールを終了します。

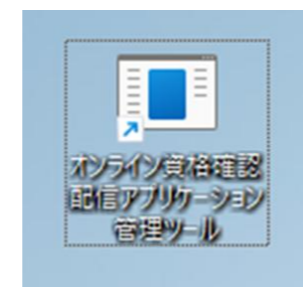


配信アプリケーションによる自動更新を停止できました。

補3 配信アプリケーションによる自動更新を再開したい

レセプトコンピューターと資格確認端末を兼用する医療機関等の場合、又は資格確認端末のOSがWindows11 Proの医療機関等の場合等で、配信アプリケーションによる自動更新を停止後、再度有効にするときは、以下の操作を実施してください。

1 スタートメニュー又はショートカットから**オンライン資格確認配信アプリケーション管理ツール**を起動します。



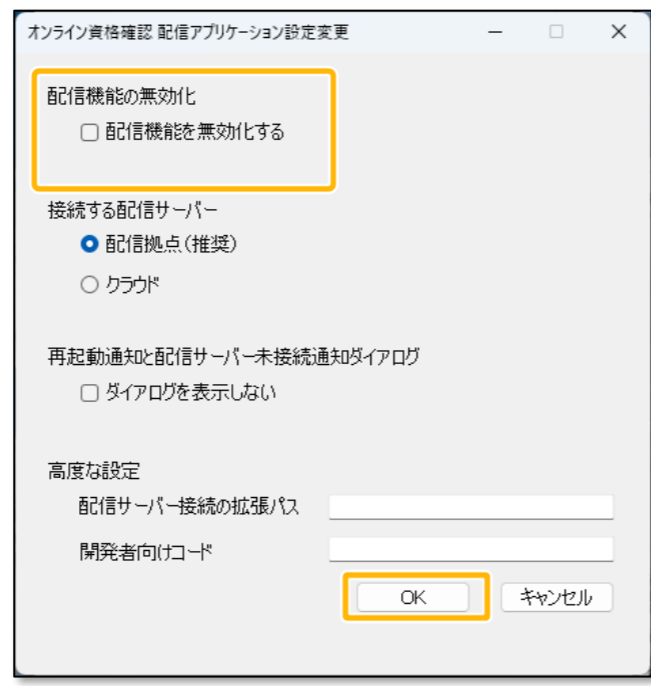
2 オンライン資格確認配信アプリケーション管理ツールが表示されます。

設定の変更をクリックします。



3 オンライン資格確認配信アプリケーション設定変更が表示されます。

配信機能を無効化するのチェックを外し、**OK**をクリックします。



4 **今すぐダウンロード** をクリックします。



5 ダウンロード依頼の受付メッセージを確認し、**OK**をクリックします。



6 オンライン資格確認配信アプリケーション管理ツールが表示されます。

管理ツール右上の **×** ボタンをクリックし、管理ツールを終了します。



配信アプリケーションによる自動更新を再開できました。

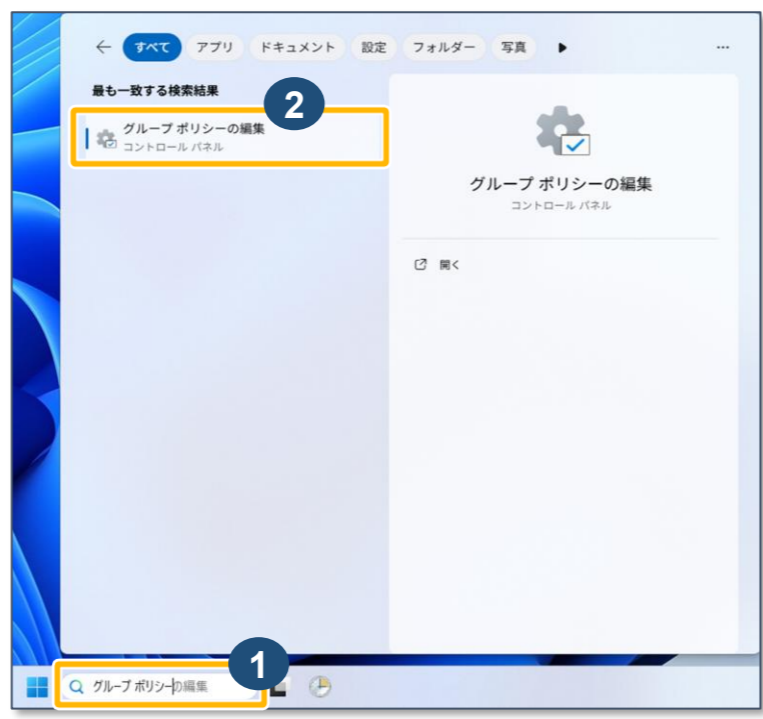
補4 証明書伝達サービス (CertPropSvc) を利用するアプリケーションを利用したい

オンライン資格確認端末で、OQSFaceApp.msiをインストールした場合、**スマートカードからの証明書の伝達をオンにする**のポリシーが無効になっているため有効にするときは、下記の手順でポリシーを設定する必要があります。

オンライン資格確認等システムでは、CertPropSvcサービスを利用しませんが、その他の電子証明書を利用するアプリケーションで、Microsoftの CertPropSvcサービスを利用するアプリケーションを新規にオンライン資格確認端末にインストールして利用する場合にのみ必要となります。例えば、医師の資格確認を行う HPKIアプリケーション等が該当します。

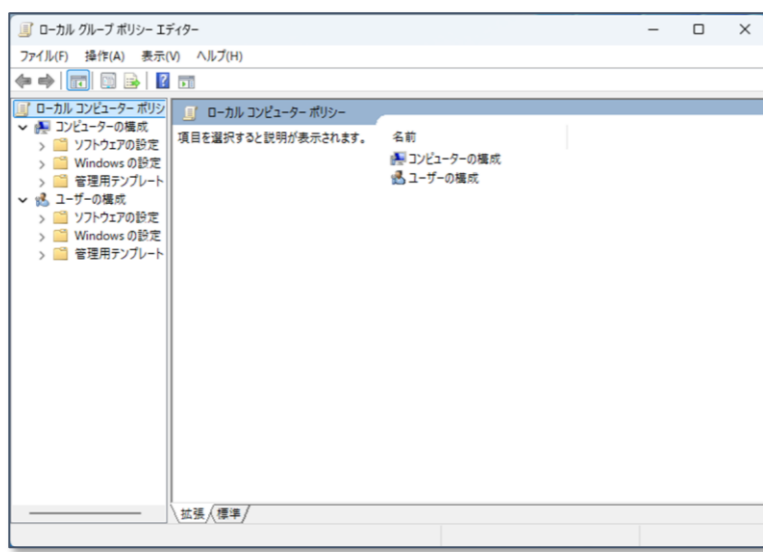
ローカルグループポリシーを編集します

1 タスクバーにある**検索ボックス**をクリックし、検索ボックスに**グループ ポリシー**と入力します。
▲ 半角又は全角スペースを入れてください。

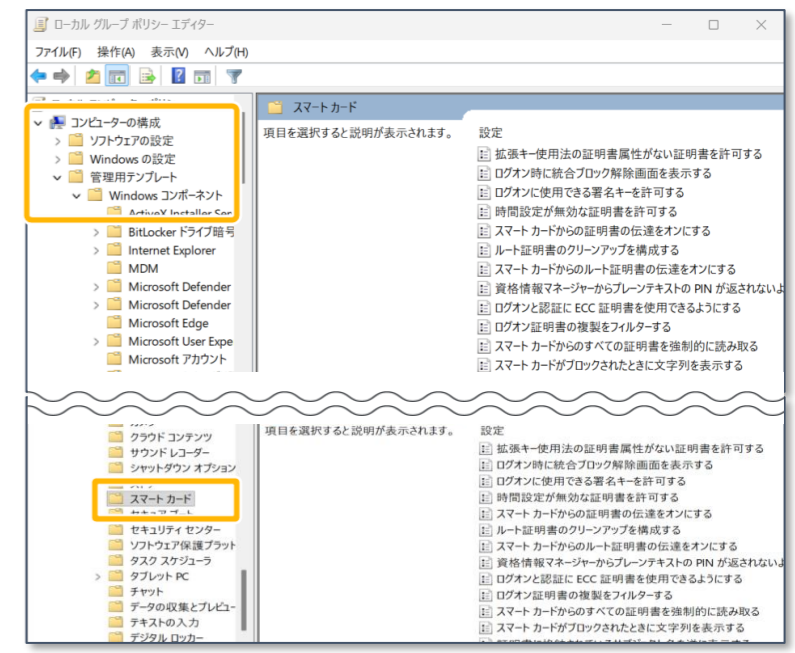


2 検索結果から、**グループ ポリシーの編集**をクリックします。

3 ローカルグループポリシーエディターが表示されます。



4 メニューから、**コンピューターの構成**→**管理用テンプレート**→**Windows コンポーネント**→**スマートカード**の順で選択します。

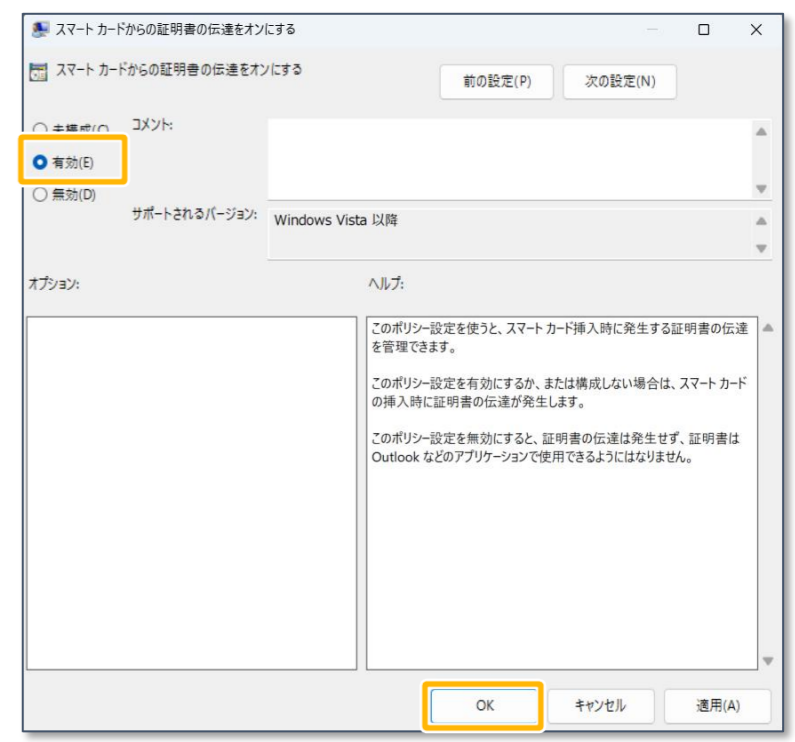


5 スマートカードの**設定**から、**スマートカードからの証明書の伝達をオンにする**をダブルクリックします。



6 スマートカードからの証明書の伝達をオンにするが表示されます。

有効を選択し、**OK**をクリックします。



~~~~~  
ポリシーを編集できました。

**補4** 証明書伝達サービス (CertPropSvc) を利用するアプリケーションを利用したい (つづき)

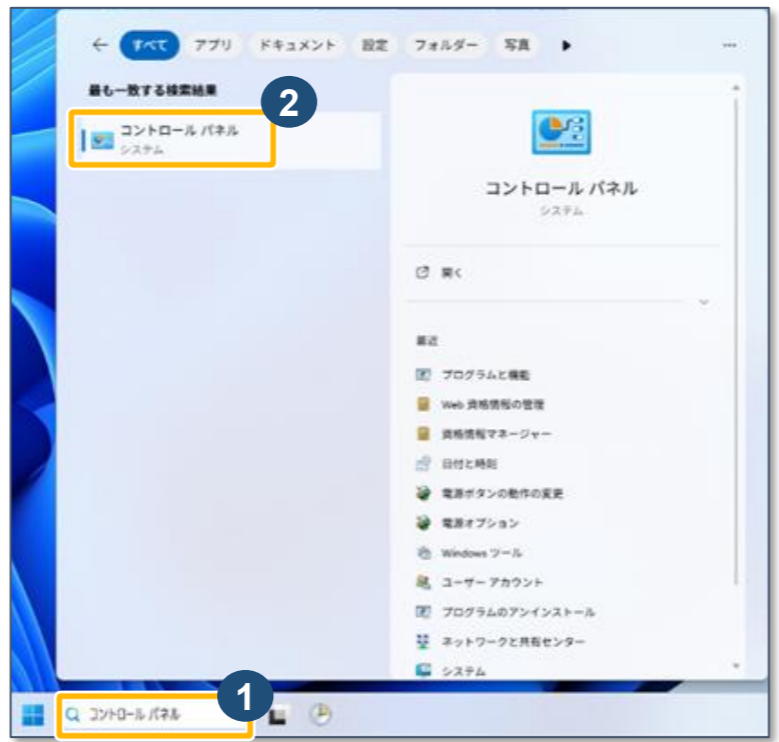
**Certificate Propagationサービスを起動します**

**注意**  
Certificate Propagationサービスは、すでに起動され、実行中の場合があります。本操作の⑥でCertificate Propagationサービスの状態を確認し、「実行中」と表示されている場合、本手順は操作不要です。

① タスクバーにある**検索ボックス**をクリックし、検索ボックスに**コントロールパネル**と入力します。

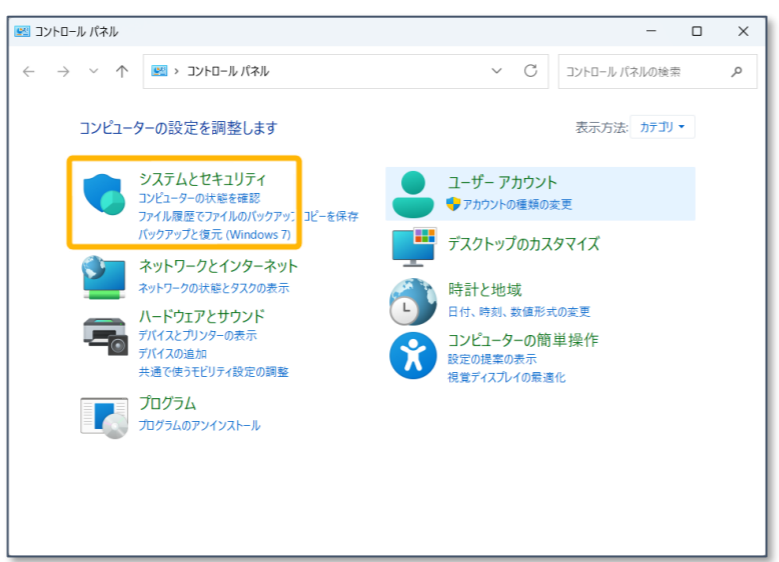
▲ 半角又は全角スペースを入れてください。

② 検索結果から、**コントロールパネル**をクリックします。



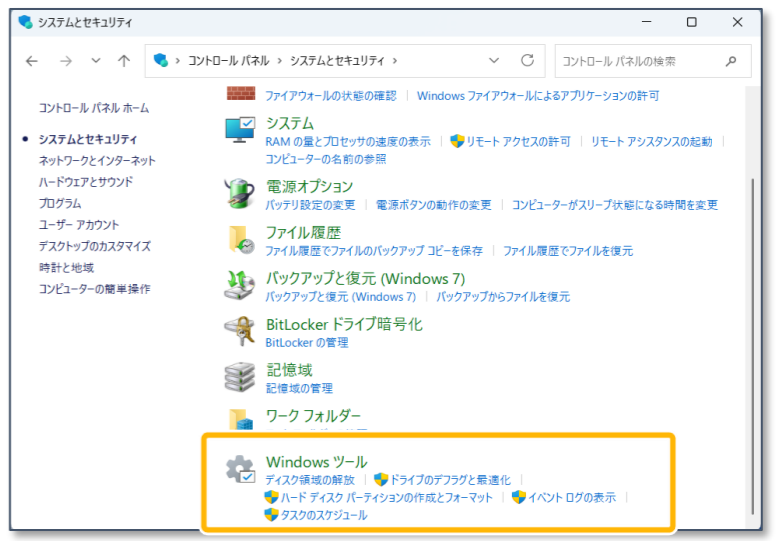
③ **コントロールパネル**が表示されます。

**システムとセキュリティ**をクリックします。



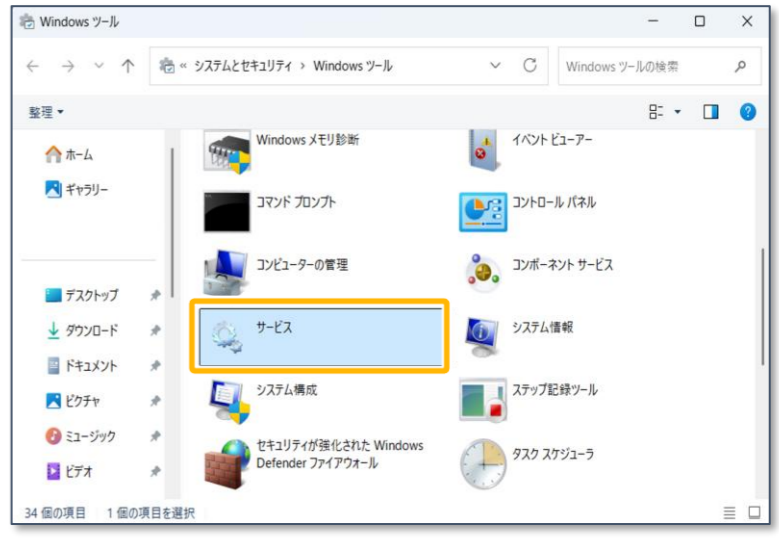
④ **システムとセキュリティ**が表示されます。

**Windows ツール**をクリックします。



⑤ **Windows ツール**が表示されます。

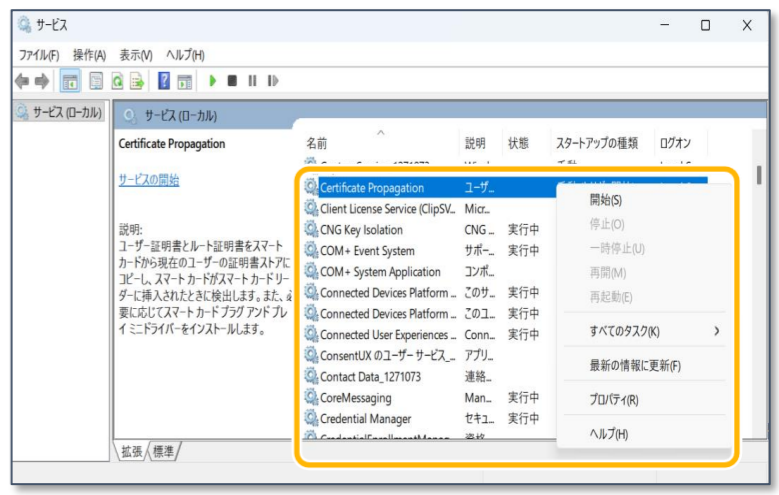
**サービス**をダブルクリックします。



⑥ **サービス**が表示されます。

**Certificate Propagation**を右クリックし、表示されるメニューから**開始**をクリックします。

**こんなときは！**  
**サービスが実行中の場合**  
Certificate Propagation ユーザ... 実行中  
上図のようにサービスの状態が**実行中**の場合、本操作は不要です。



~~~~~ サービスが起動できました。 ~~~~~

補5 OqsComAppユーザーのパスワードを変更したい

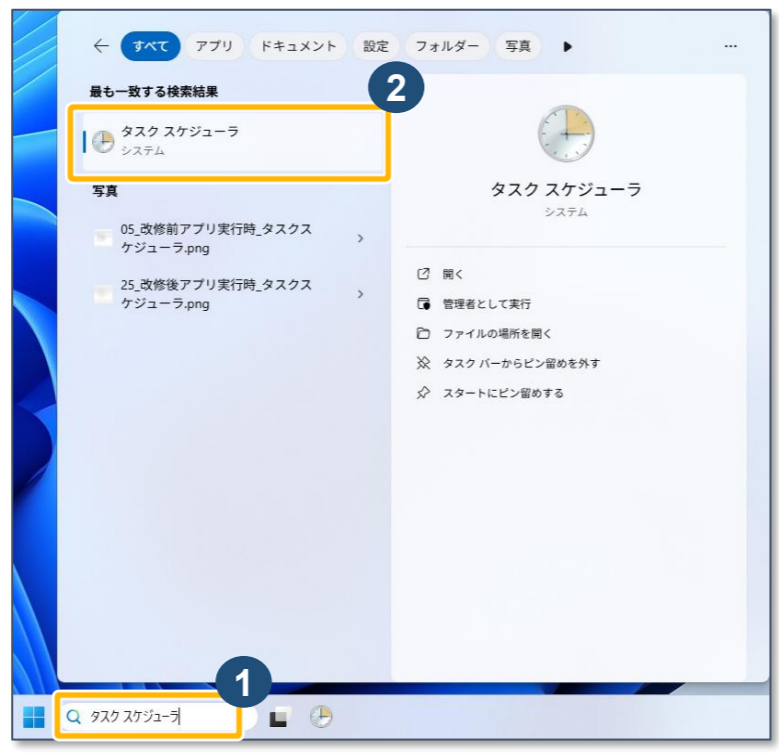
オンライン資格確認等システムを利用するために作成した**OqsComAppユーザー**についてパスワードを変更した場合、以下の作業が必要です。

- 配信アプリケーションのタスクを再設定
- 連携アプリケーションのタスクを再設定 (連携アプリケーションを導入している医療機関等のみ)
- 再起動スケジュールのタスクを再設定
- 電子証明書の再インポート (パスワードリセットを伴う変更を行う場合)
- 資格情報マネージャーの再設定 (パスワードリセットを伴う変更を行う場合)

配信アプリケーションのタスクを再設定します

Windows起動時、パスワード変更後のユーザーで配信アプリケーションが自動起動するようにタスクを再登録します。

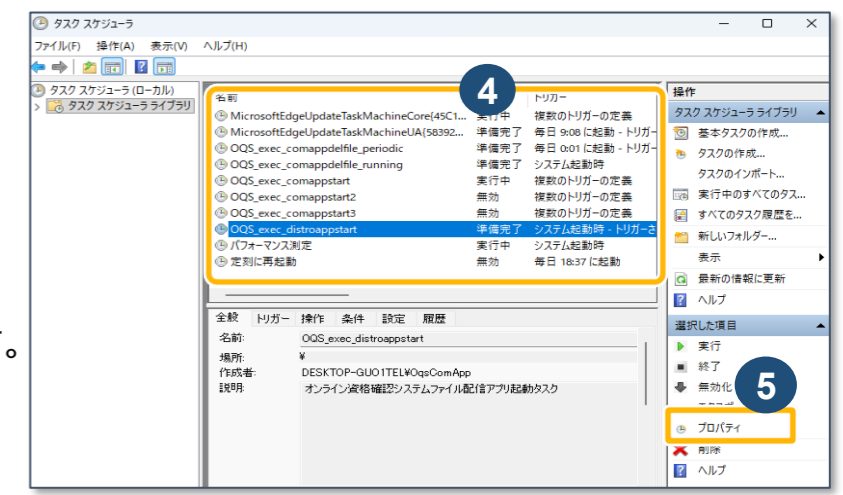
- 1 タスクバーにある**検索ボックス**をクリックし、検索ボックスに**タスク スケジューラ**と入力します。
▲ 半角又は全角スペースを入れてください。
- 2 検索結果から、**タスク スケジューラ**をクリックします。



- 3 **タスク スケジューラ**が表示されます。
左側の領域から、**タスク スケジューラ ライブラリ**をクリックします。

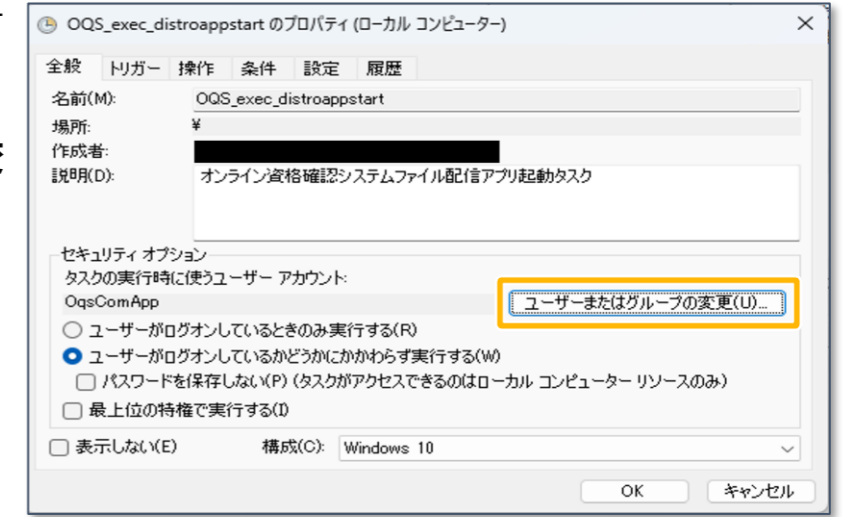


- 4 配信アプリ起動タスクの**OQS_exec_distroappstart**をクリックします。



- 5 **プロパティ**をクリックします。

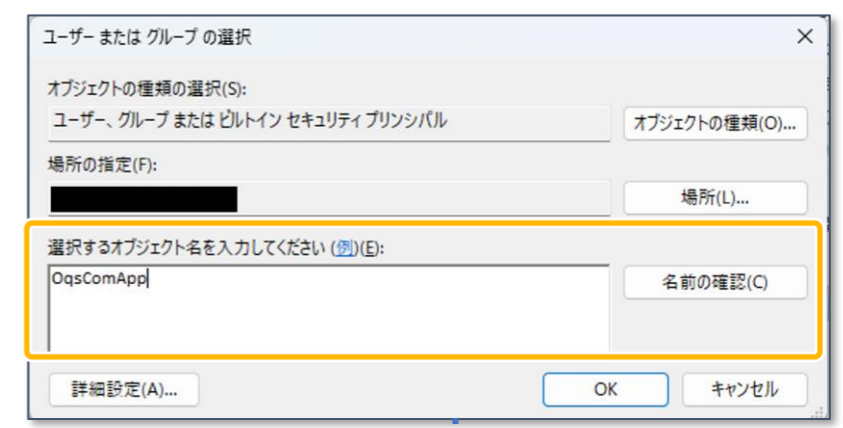
- 6 タスクのプロパティが表示されます。



ユーザーまたはグループの変更をクリックします。

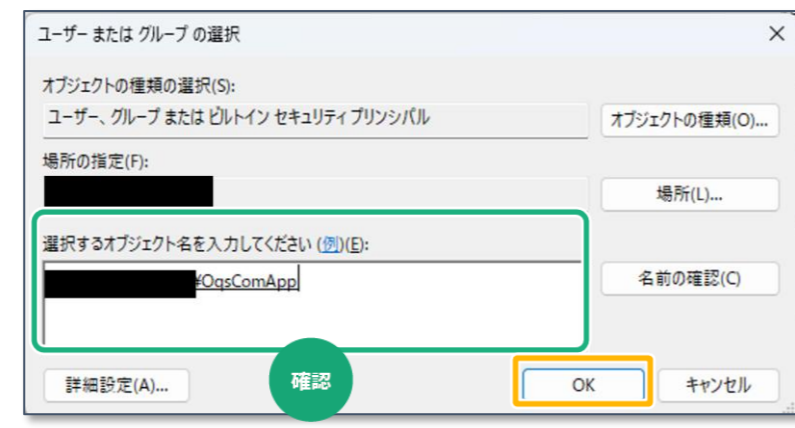
- 7 **ユーザー または グループ**の選択が表示されます。

選択するオブジェクト名を入力してくださいに**OqsComApp**と入力し、**名前の確認**をクリックします。

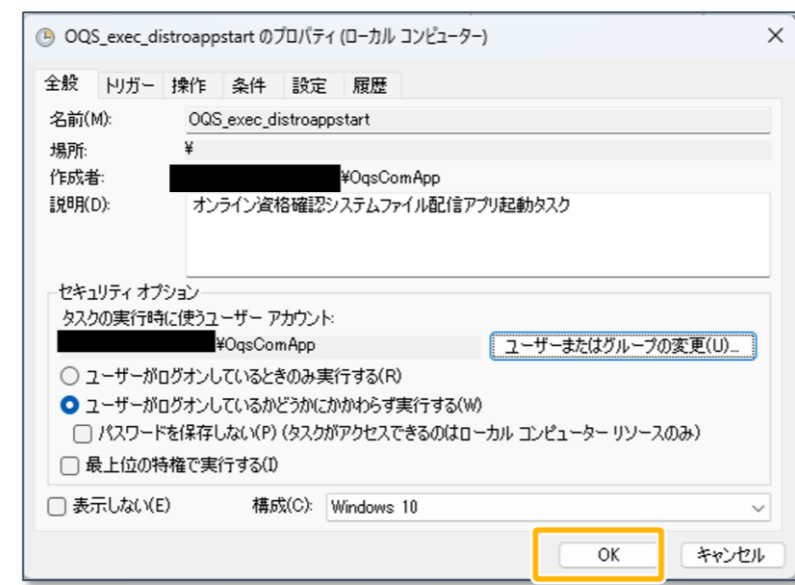


補5 OqsComAppユーザーのパスワードを変更したい (つづき)

8 OqsComAppに下線が表示されたことを確認し、OKをクリックします。



9 タスクの作成が表示されます。OKをクリックします。



10 パスワード入力画面が表示されます。OqsComAppの変更後のパスワードを入力し、OKをクリックします。



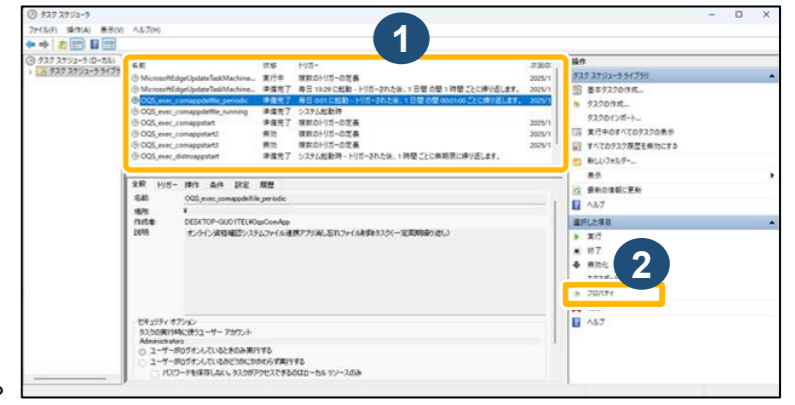
配信アプリケーションのタスクを再設定できました。

連携アプリケーションのタスクを再設定します

本操作は連携アプリケーションを導入している医療機関等のみ実施してください。連携アプリケーションが自動起動するようにタスクを再登録します。以下の表にあるタスク名が作業対象です。

| 名前 | 用途 |
|---------------------------------|-----------------------|
| OQS_exec_comappdelfile_periodic | 消し忘れファイル機能定期実行用タスク |
| OQS_exec_comappdelfile_running | 消し忘れファイル機能PC起動時実行用タスク |
| OQS_exec_comappstart | 連携アプリケーション定期実行用タスク |

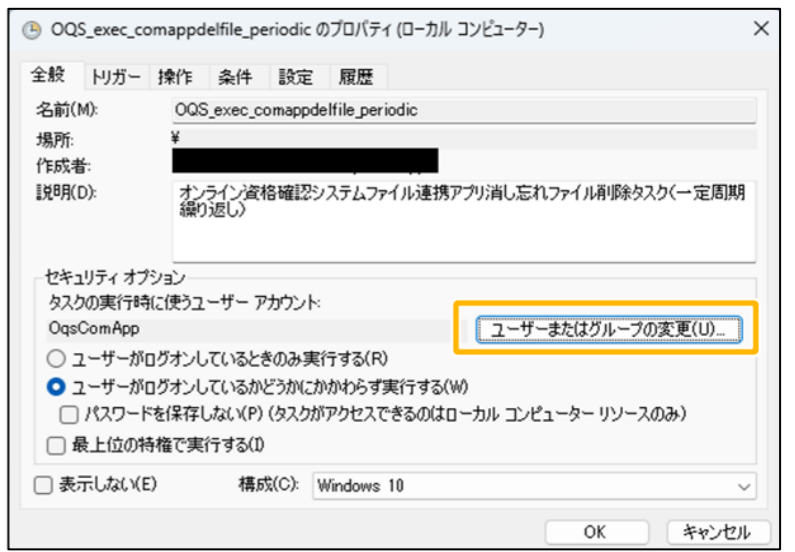
1 消し忘れファイル機能PC起動時実行用タスク OQS_exec_comappdelfile_periodic をクリックします。



2 プロパティをクリックします。

3 タスクのプロパティが表示されます。

ユーザーまたはグループの変更をクリックします。

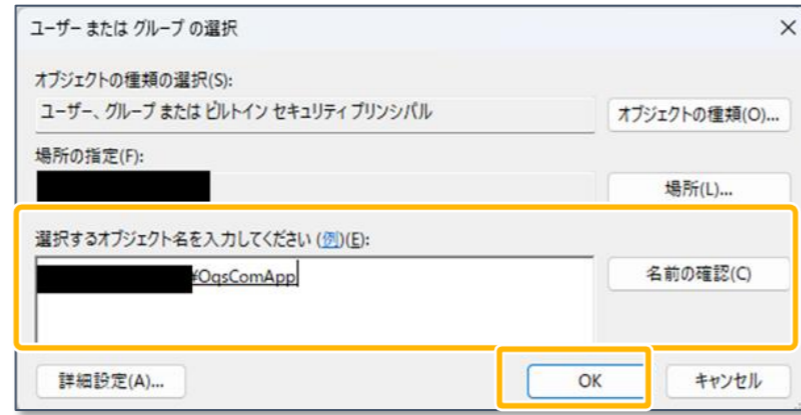


4 へ進む

補5 OqsComAppユーザーのパスワードを変更したい (つづき)

4 ユーザー または グループの選択が表示されます。

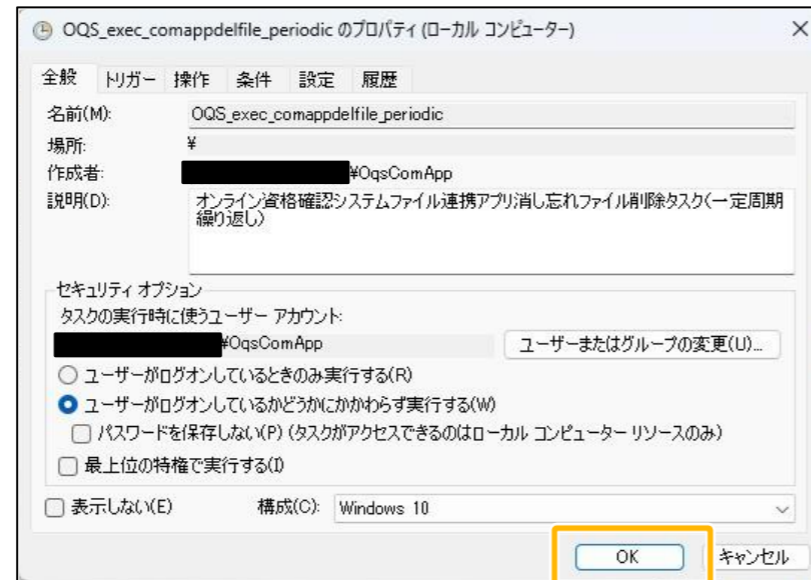
選択するオブジェクト名を入力してください
OqsComAppと入力し、**名前の確認**をクリックします。



5 OKをクリックします。

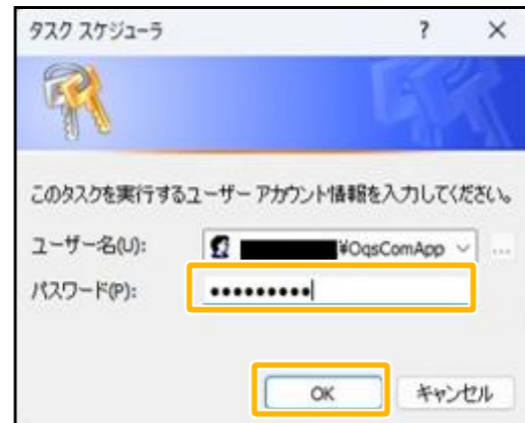
6 タスクのプロパティが表示されます。

OKをクリックします。



7 パスワード入力画面が表示されます。

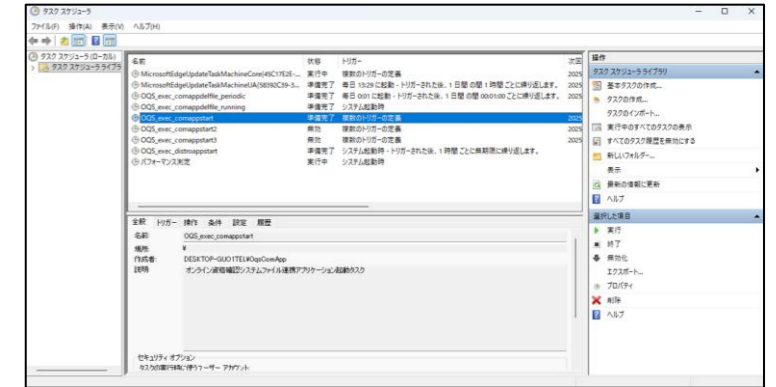
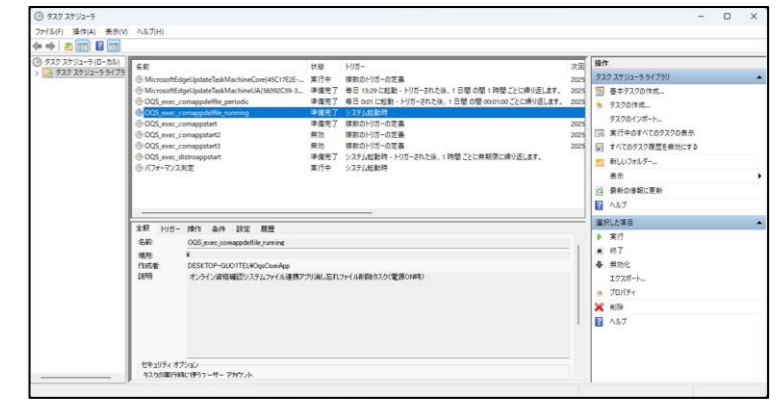
OqsComAppの変更後のパスワードを入力し、**OK**をクリックします。



8 残りの以下2つのタスクに対しても同様に①～⑦を行い、タスクを再設定してください。

・消し忘れファイル機能定期実行用タスク
 OQS_exec_comappdelfile_running

・連携アプリケーション定期実行用タスク
 OQS_exec_comappstart



連携アプリケーションのタスクを再設定できました。

補5

OqsComAppユーザーのパスワードを変更したい (つづき)

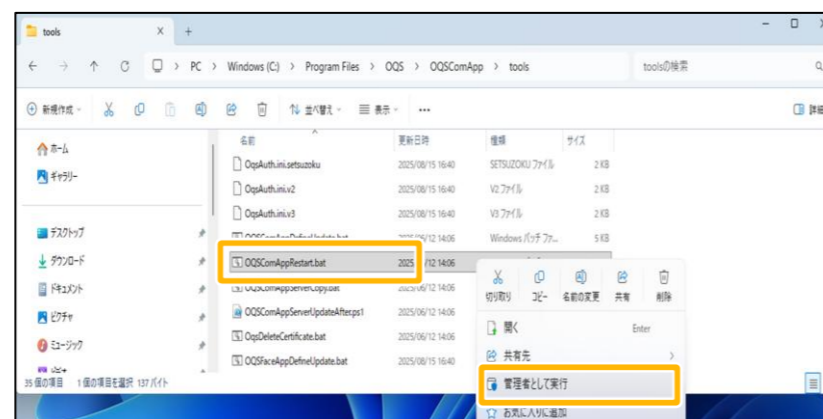
連携アプリケーションを再起動します

- 1 スタートボタンを右クリックし、表示されるメニューから**エクスプローラー**をクリックします。



- 2 以下のフォルダーを開きます。
C¥Program Files¥
OQS¥OQSComApp¥tools¥

フォルダー内にある
OQSComAppRestart.bat
を右クリックし、
管理者として実行をクリック
します。

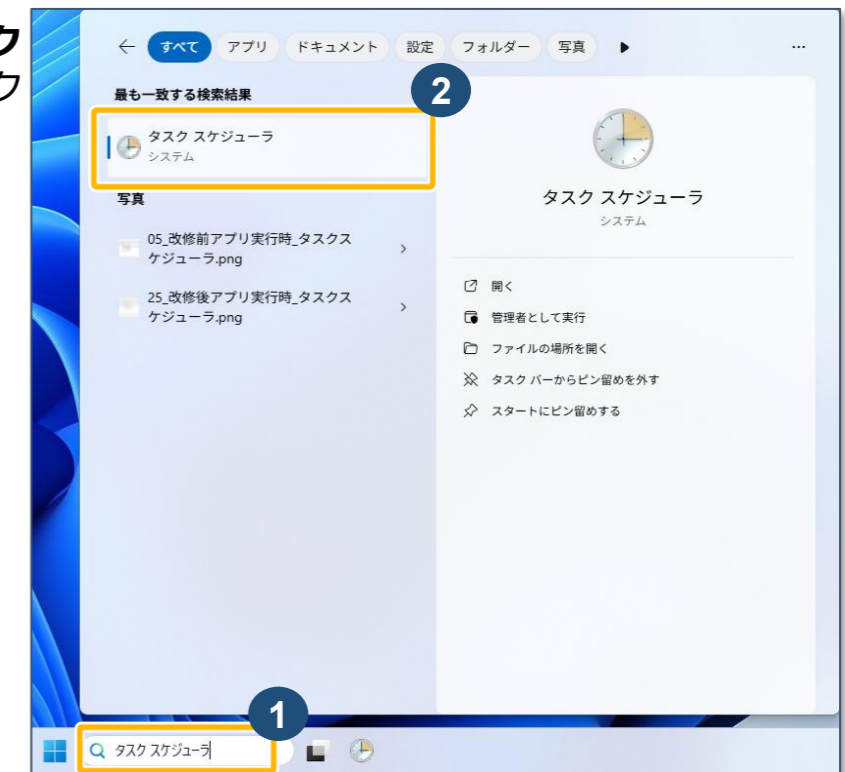


連携アプリケーションを再起動できました。

再起動スケジュールのタスクを再設定します

Windows Updateが定刻に実施されるよう再起動スケジュールのタスクを再登録します。

- 1 タスクバーにある**検索ボックス**をクリックし、検索ボックスに**タスクスケジューラ**と入力します。
▲ 半角又は全角スペースを入れてください。
- 2 検索結果から、**タスクスケジューラ**をクリックします。



- 3 タスクスケジューラが表示されます。

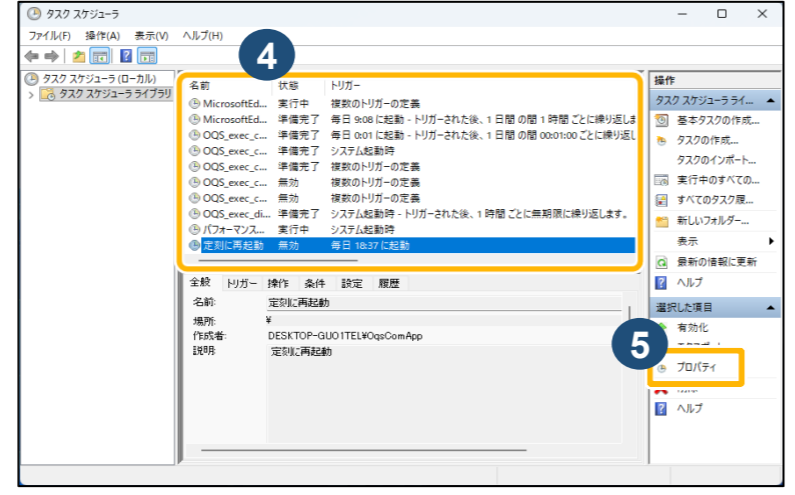
左側の領域から、**タスクスケジューラライブラリ**をクリックします。



4 へ進む

補5 OqsComAppユーザーのパスワードを変更したい (つづき)

4 再起動タスクとして登録した名前が、**定刻に再起動**をクリックします。

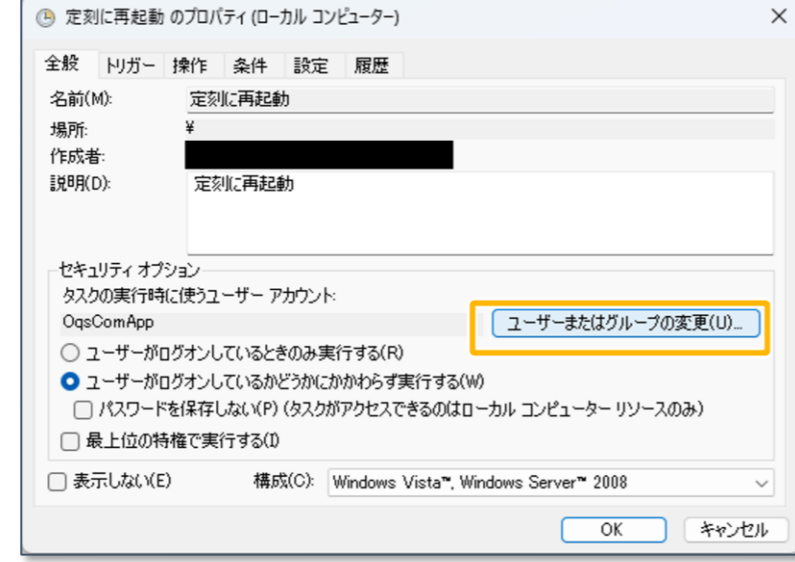


5 プロパティをクリックします。



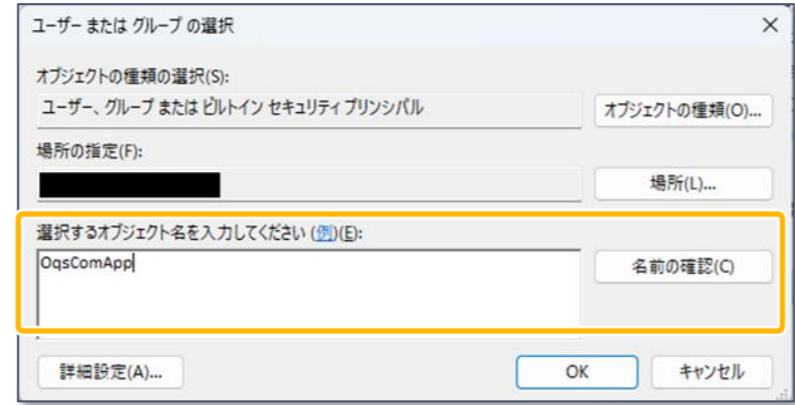
6 タスクのプロパティが表示されます。

ユーザーまたはグループの変更をクリックします。

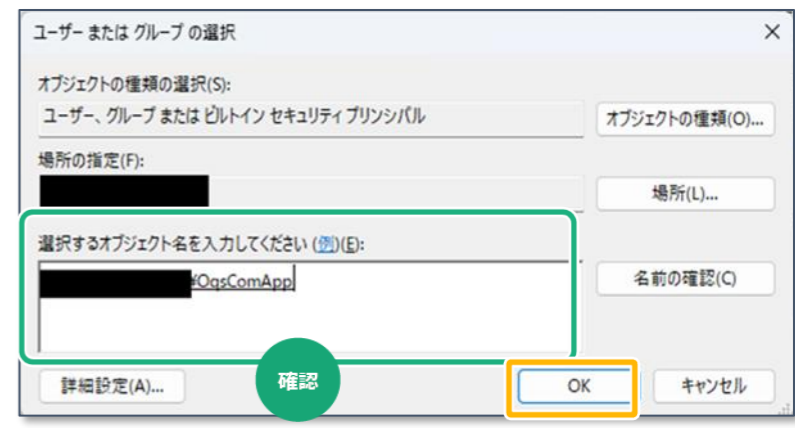


7 ユーザー または グループの選択が表示されます。

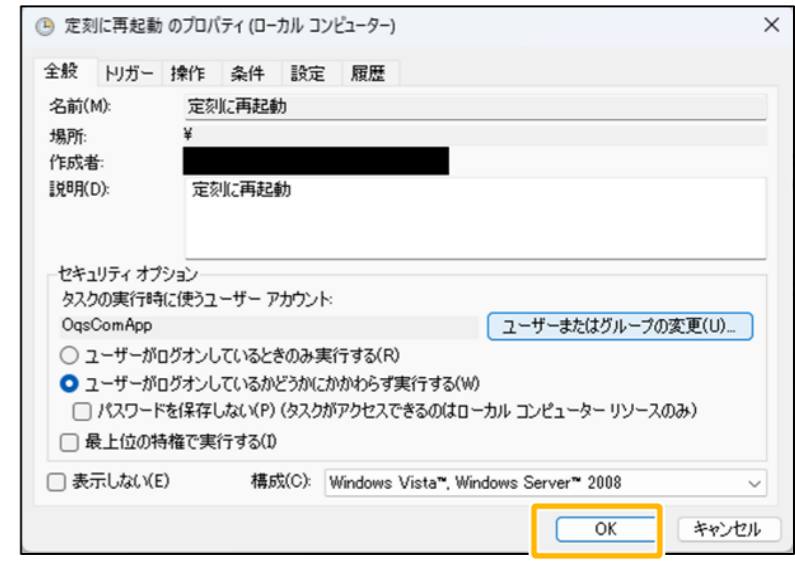
選択するオブジェクト名を入力してください欄に**OqsComApp**と入力し、**名前の確認**をクリックします。



8 OqsComAppに下線が表示されたことを確認し、**OK**をクリックします。



9 タスクの作成が表示されます。
OKをクリックします。



10 パスワード入力画面が表示されます。

OqsComAppの変更後のパスワードを入力し、**OK**をクリックします。



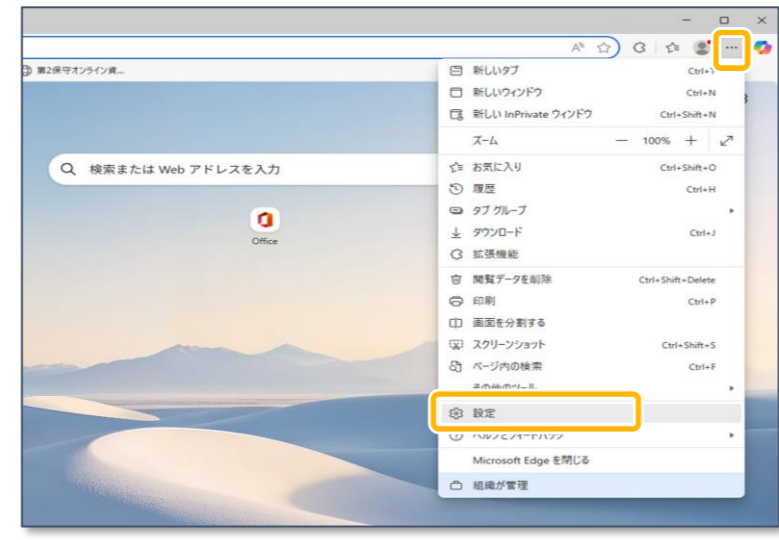
再起動スケジュールのタスクを再設定できました。

補5 OqsComAppユーザーのパスワードを変更したい (つづき)

電子証明書を再インポートします

パスワードリセットを伴う変更を行った場合、電子証明書の再インポートが必要です。すでにインポートされている電子証明書を一度削除してから、インポートを行います。

1 Microsoft Edgeを起動し、**設定** (設定など) から**設定**をクリックします。



2 設定が表示されます。

プライバシー、検索、サービスから**セキュリティ**をクリックします。



3 セキュリティが表示されます。

証明書の管理をクリックします。



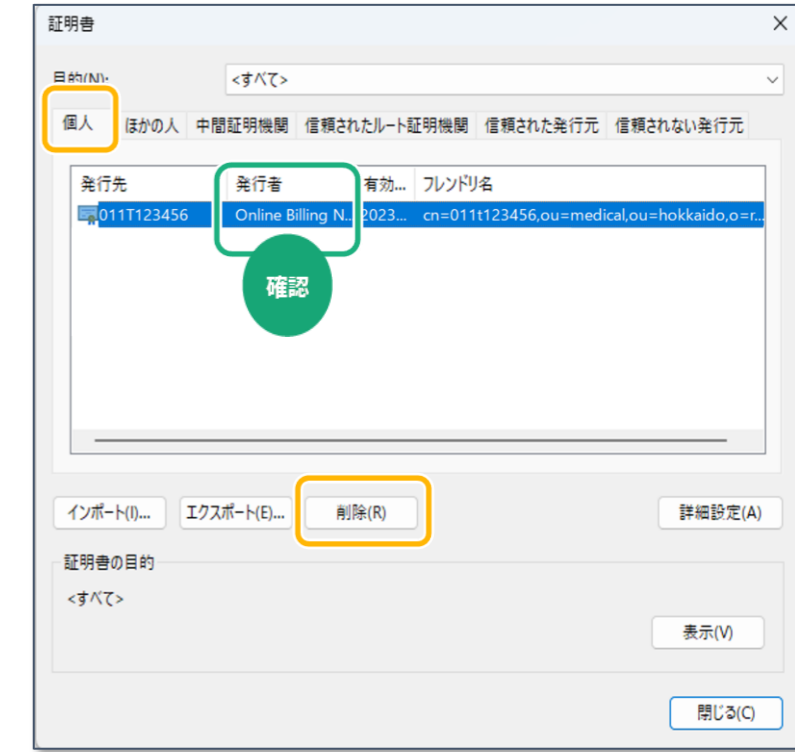
4 **証明書マネージャー**が表示されます。

ローカル証明書から**Windows からインポートされた証明書を管理**をクリックします。



5 証明書が表示されます。

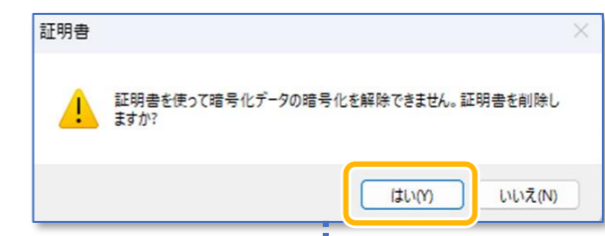
個人タブに、発行者が**Online Billing NW Common Root CA**と表示されている証明書が登録されていることを確認します。



確認後、**削除**をクリックします。

6 確認画面が表示されます。

はいをクリックします。



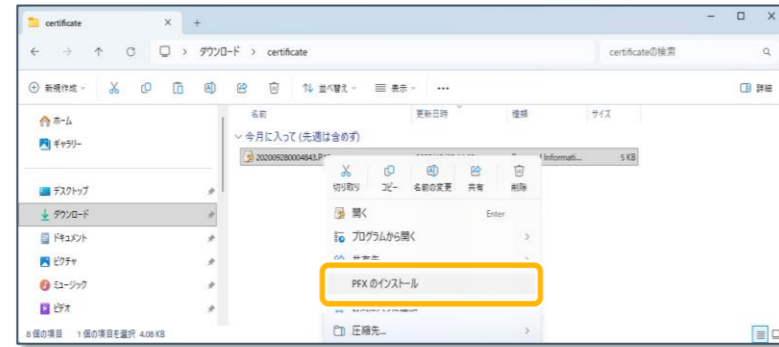
7へ進む

補5

OqsComAppユーザーのパスワードを変更したい (つづき)

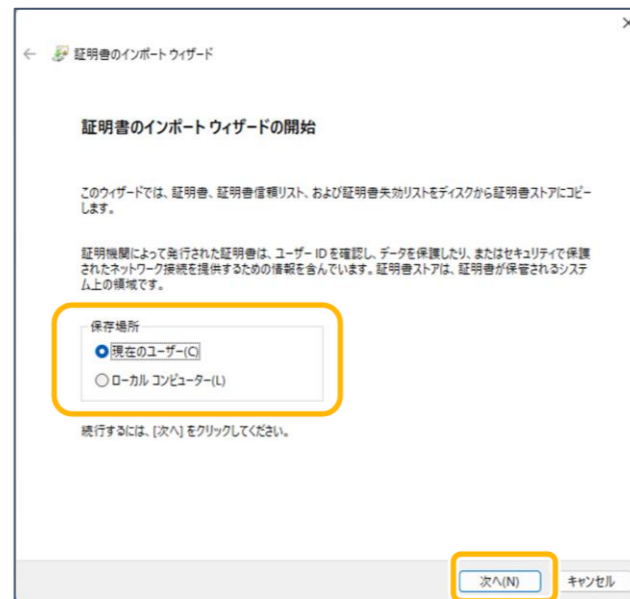
- 7 保存した電子証明書ファイルが保存されているフォルダーを開きます。

電子証明書ファイルを右クリックし、表示されたメニューから**PFXのインストール**をクリックします。



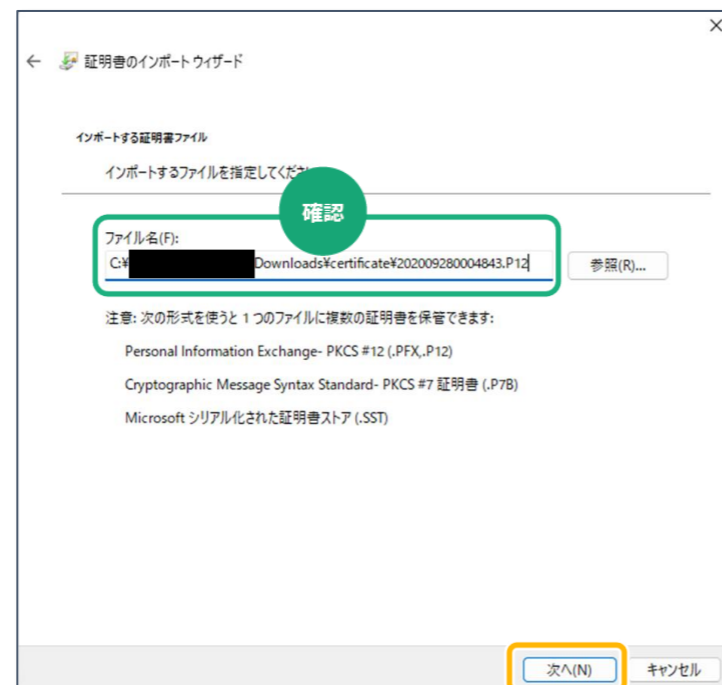
- 8 証明書のインポートウィザードが表示されます。

保存場所は**現在のユーザー**を選択し、**次へ**をクリックします。



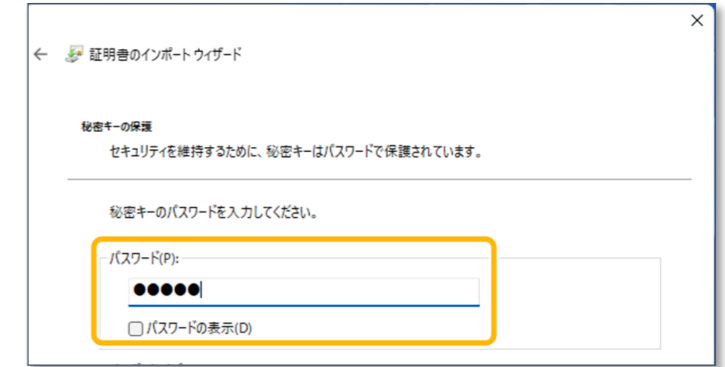
- 9 インポートする証明書ファイルが表示されます。

ファイル名に電子証明書のファイル名が表示されていることを確認し、**次へ**をクリックします。



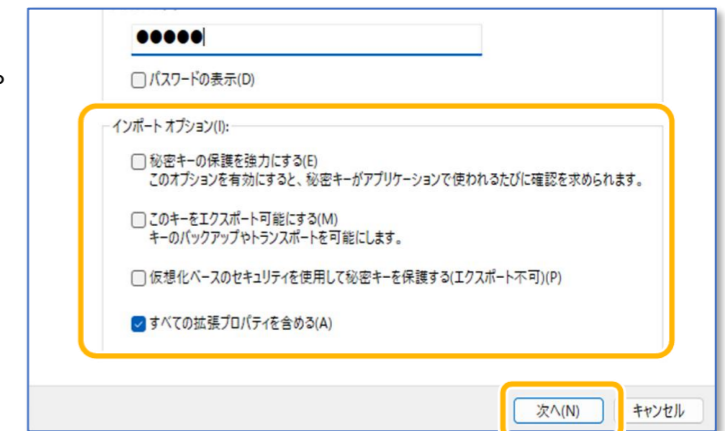
- 10 秘密キーの保護が表示されます。

パスワードに電子証明書ダウンロード時に設定した証明書パスワードを入力します。



- 11 **インポートオプション**について、以下の内容を設定します。設定後、**次へ**をクリックします。

- 秘密キーの保護を強力にする
: チェックをしない
- このキーをエクスポート可能にする
: チェックをしない
- すべての拡張プロパティを含める
: チェックをする



12 へ進む

💡 **こんなときは!**

秘密キーの保護を強力にするのチェックをする場合又はチェックを外せない場合

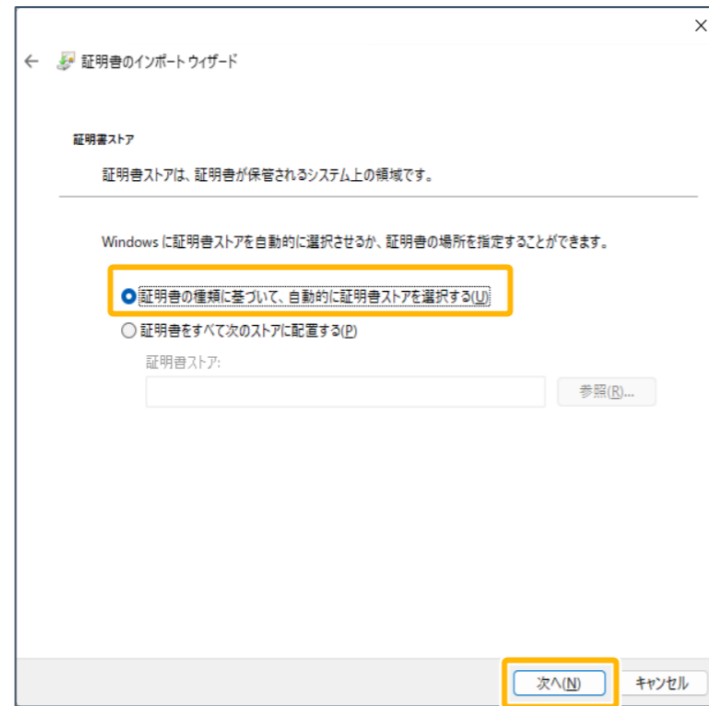
オンライン請求ネットワーク関連システム共通認証局ユーザーマニュアルを参照し、パスワードを設定します。

補5

OqsComAppユーザーのパスワードを変更したい (つづき)

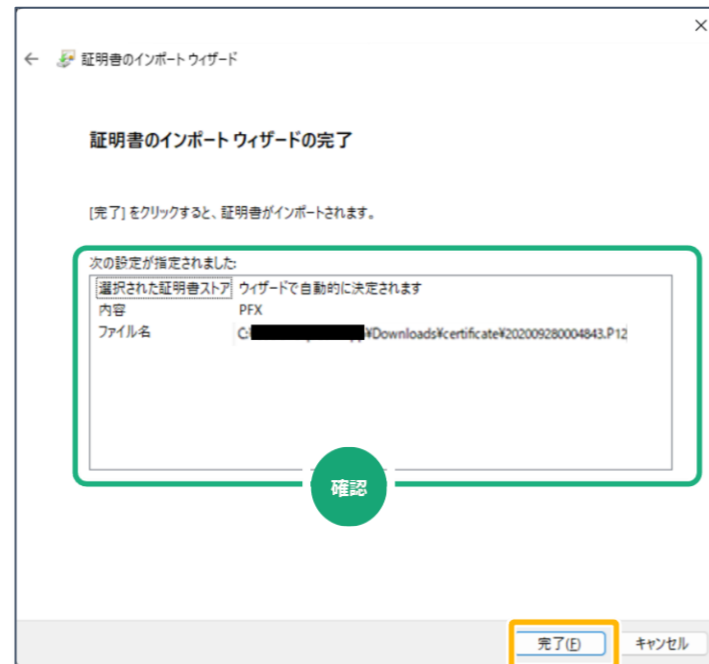
12 証明書ストアが表示されます。

証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択するを選択し、次へをクリックします。



13 証明書のインポートウィザードの完了が表示されます。

電子証明書のファイル名等を確認し、完了をクリックします。



14 セキュリティ警告が表示されます。

※本画面が表示されず正しくインポートされました画面が表示された場合は、次に進んでください。

Windowsの信頼されたルート証明機関に証明書発行者 (認証局) の証明書を登録するため、はい をクリックします。

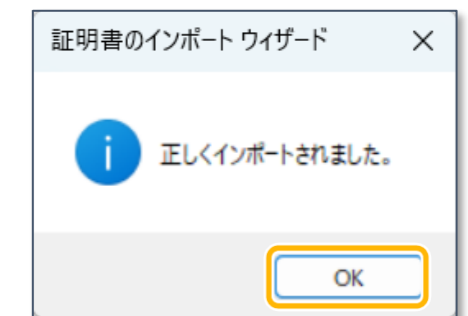


注意

いいえ をクリックした場合は、インストール中止となり、電子証明書がセットアップされません。電子証明書のインストールを再度実施する必要があります。
7に戻り、再セットアップしてください。

15 正しくインポートされました。が表示されます。

OKをクリックします。



電子証明書を再インポートできました。

💡 こんなときは!

新しい秘密交換キーをインポートします が表示された場合

11の「秘密キーの保護を強力にする」にチェックした場合、右図の画面が表示されることがあります。この場合は、オンライン請求ネットワーク関連システム 共通認証局ユーザーマニュアルを参照してください。

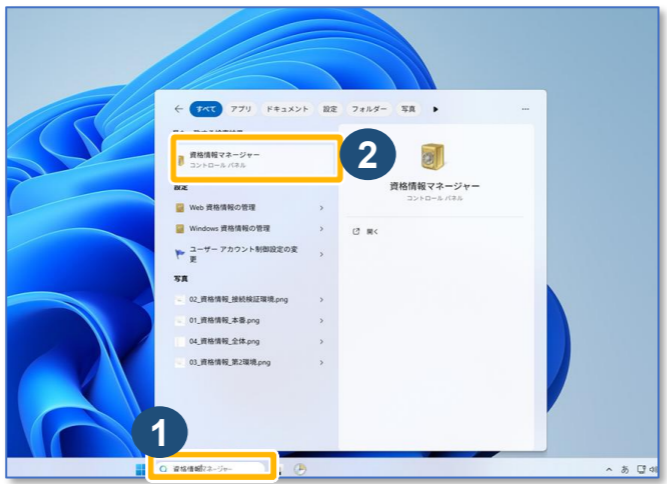


補5 OqsComAppユーザーのパスワードを変更したい (つづき)

資格情報マネージャーを再登録します

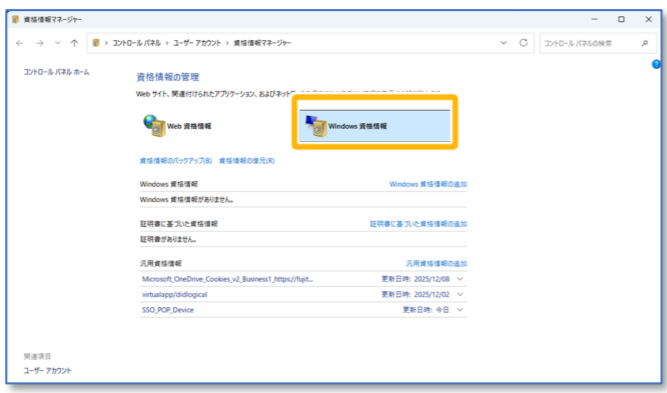
パスワードリセットに伴う変更を行った際、資格情報マネージャーがクリアされている場合があります。資格情報マネージャーの状態を確認し、クリアされている場合、資格情報マネージャーの再登録を行います。

1 タスクバーにある**検索ボックス**をクリックし、検索ボックスに**資格情報マネージャー**と入力します。

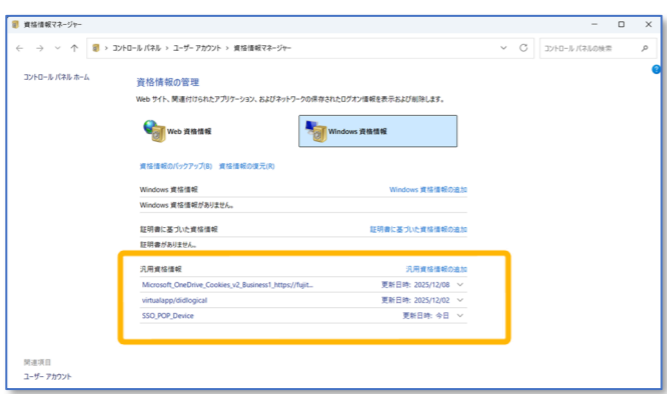


2 検索結果が表示されます。
資格情報マネージャーをクリックします。

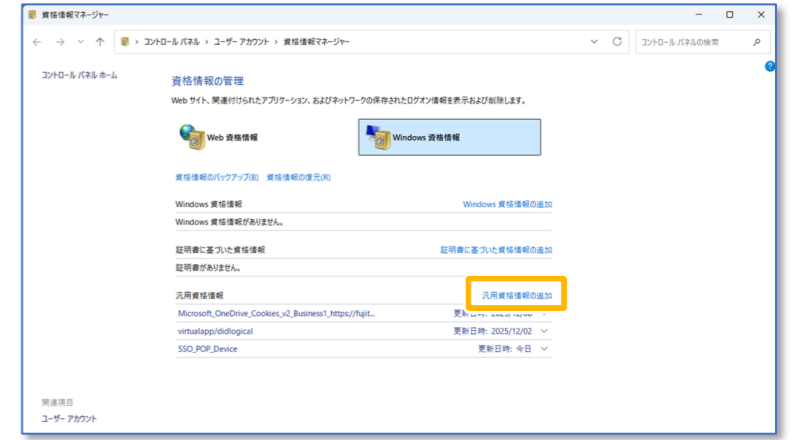
3 資格情報マネージャーが表示されます。
Windows 資格情報をクリックします。



4 資格情報がクリアされていないか確認します。
汎用資格情報に右の表の資格情報が存在しない場合、以降の手順を行ってください。



5 汎用資格情報の追加 をクリックします。



6 資格情報を入力します。
入力後、**OK** をクリックします。



以下の表に示す4つの「設定内容」の、「インターネットまたはネットワークのアドレス」、「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、OKをクリックして各設定内容を登録してください。

| 設定内容 | インターネットまたはネットワークのアドレス | ユーザー名 | パスワード | 必須 |
|---------------------------------|------------------------------|--|--|----|
| 連携アプリケーション用アカウントのID、パスワード | OQS_LOGIN_KEY | 連携アプリケーション用アカウントのID (R0又はR1から始まるアカウントID) を設定する | 連携アプリケーション用アカウントのパスワードを設定する | ○ |
| 医療機関コード | OQS_MEDICAL_INSTITUTION_CODE | OQS_Admin | 数字10桁の医療機関コード | ○ |
| 要求データファイルの復号、結果データファイルの暗号化パスワード | OQS_CRYPT_PASS | OQS_Admin | ・半角英数字
・12桁以内
※記号など半角英数字以外の文字を含めると連携アプリケーションによる資格確認の際にエラーとなります | × |
| 共用フォルダーのパスワード管理 | OQS_NAS_LOGIN_KEY | 共用フォルダーにアクセスするユーザー名を入力する | 共用フォルダーにアクセスするユーザーのパスワードを入力する | × |

資格情報マネージャーを再登録できました。

補6

アカウントのパスワードを変更したい

オンライン資格確認等システムに、一定期間マスタアカウントでログインしていなかった場合、パスワード変更のメッセージ画面が表示されますので、パスワードの変更を行ってください。連携アプリケーション用アカウント、顔認証用アカウント等を変更した場合、各種設定の再設定が必要になるため、併せて対応してください。

参照先

操作マニュアル（一般利用者・医療情報閲覧者編）
- 第1章 システムの基本的な使い方
- 4 パスワードを変更する

注意

マスタアカウントリセット用アカウントのパスワードの初期化については、実施機関にて行います。実施機関までご連絡ください。

連携アプリケーション用アカウントのパスワード変更

資格確認端末内資格情報マネージャーの「OQS_LOGIN_KEY」を再設定してください。

参照先

連携アプリケーション導入手順書
- 4.1 資格情報マネージャーの設定

顔認証用アカウントのパスワード変更

顔認証ベンダーアプリケーションにてアカウントの再設定が必要です。

参照先

利用している顔認証機器ベンダーのマニュアル

WebAPI用アカウントのパスワード変更

オンライン資格確認等システムにアクセスするシステムにて、接続設定の変更が必要です。ご利用のレセコン、電カルベンダーにお問い合わせください。

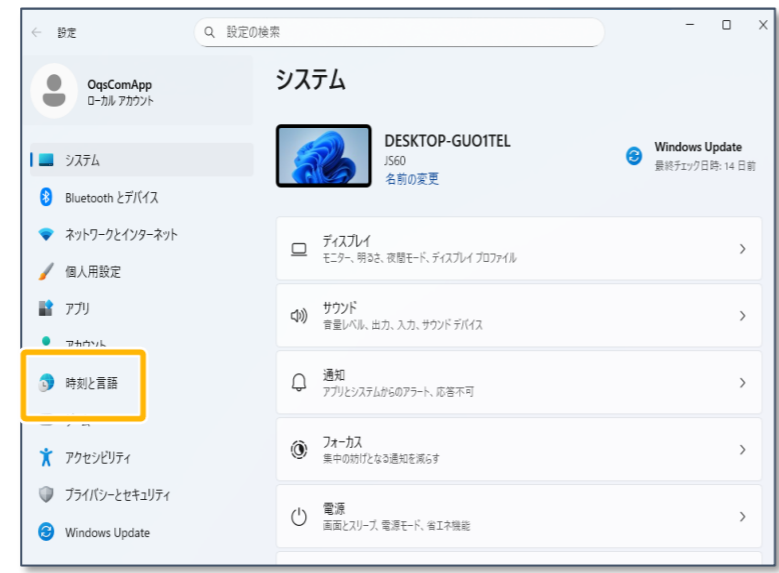
補7 言語設定を日本語に、地域設定を日本にしたい

資格確認端末の言語設定が日本語でない、又は地域設定が日本でない場合、顔認証付きカードリーダーを使用した資格確認を行ったときに、クエスチョンマーク (?) などが表示され、正しく表示できないことがあります。以下の設定により正しく表示できるようになります。

1 スタートボタンを右クリックし、表示されるメニューから**設定**をクリックします。



2 Windowsの設定が表示されます。
時刻と言語をクリックします。



3 時刻と言語が表示されます。
言語と地域をクリックします。



4 言語と地域が表示されます。
Windowsの表示言語が日本語になっているか確認します。



日本語と表示されていない場合は、**言語の追加**をクリックします。

5 インストールする言語の一覧から**日本語**を選択し、**次へ**をクリックします。



6 **インストール**をクリックします。



7 へ進む

補7 言語設定を日本語に、地域設定を日本にしたい (つづき)


7 地域の国または地域は、**日本**を選択します。

地域設定の現在の形式は、**日本語(日本)**を選択します。

こんなときは!

Window10の場合
地域 をクリックします。

地域が表示され、**日本語(日本)**を選択します。




時刻と言語 > 言語と地域

言語

Windows の表示言語
 設定や Windows フォーラムなど Windows 機能は、この言語で表示されます。 日本語

優先する言語
 Microsoft Store アプリは、この一覧で最初にサポートされている言語で表示されます。 言語の追加

日本語
 電話、メール、音声合成、音声認識、手書き、音声の入力

地域

国または地域
 Windows やアプリでは、お住まいの国または地域に対応したコンテンツを提供するために、この情報を利用することがあります。 日本

地域設定
 Windows と一部のアプリは、地域の形式に基づいて数値、通貨、日付と時刻を表示します。
 ●一部のアプリは、表示形式の変更を反映するために、閉じてから再開することが必要な場合があります。 日本語(日本)

デバイスのセットアップ地域
 デバイスのセットアップ中に選択された国または地域。 日本

地域設定、言語設定を変更できました。

補8

医療機関コードが変更になった場合

オンライン資格確認等システムを利用している医療機関等の医療機関コードが変更となる場合、現在登録している以下の情報の更新作業等が必要です。

更新作業等を実施する前に、オンライン資格確認等システムへ医療機関コードの変更申請を実施してください。

① 認証局の電子証明書をインストール

医療機関コードの変更に伴い、**新しい電子証明書**を認証局から取得し、資格確認端末にインストールを行います。

「①認証局の電子証明書をインストール」の手順に従って、インストールを行ってください。

② 資格情報マネージャーの再設定

資格情報マネージャーに登録されている以下の内容について、**変更後の医療機関コード(10桁)**で再設定を行います。

「②資格情報マネージャーの再設定」の手順に従って、再設定を行ってください。

| 設定内容 | インターネットまたはネットワークのアドレス | ユーザー名 | パスワード |
|---------|------------------------------|-----------|----------------|
| 医療機関コード | OQS_MEDICAL_INSTITUTION_CODE | OQS_Admin | 変更後の医療機関コード10桁 |

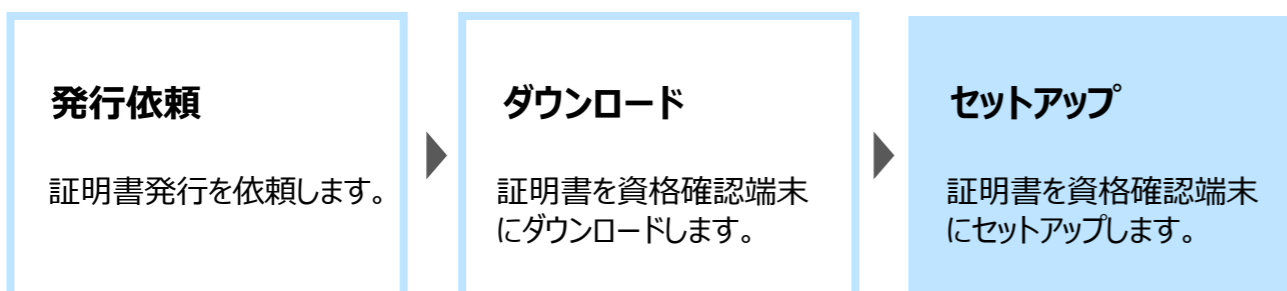
③ 顔認証機器の再設定

顔認証機器の再設定が必要です。設定方法については、ご利用されている顔認証機器のマニュアルを元に機器の再登録をしてください。

① 認証局の電子証明書をインストール

医療機関コードの変更に伴い、新しい電子証明書をインストールします。電子証明書はお使いの端末が、資格確認端末としてセットアップされていることを証明するために必要です。電子証明書をまだ取得していない場合は、以下のサイトから発行依頼又はダウンロードを行い、セットアップしてください。セットアップは以下の流れで行います。

- 電子証明書発行申請サイトURL : <https://cert.obn.managedpki.ne.jp/p/rcr>
- 電子証明書の取得サイトURL : <https://cert.obn.managedpki.ne.jp/p/rcd>



※本資料で説明します

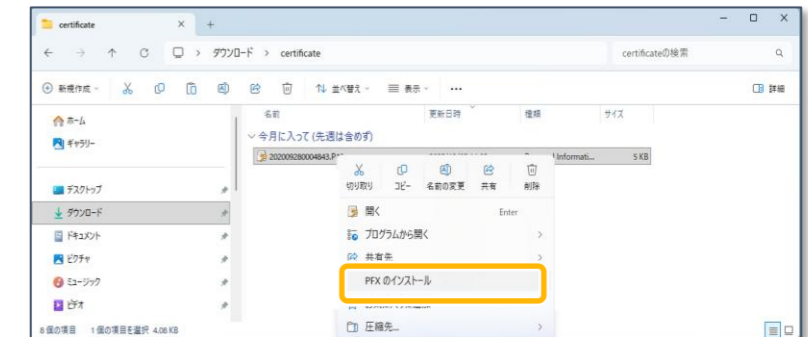
証明書の発行依頼については、**オンライン請求ネットワーク関連システム共通認証局電子証明書の発行等申請の手引き**を、証明書の取得、更新等の手順については、**オンライン請求ネットワーク関連システム共通認証局ユーザーマニュアル**を参照してください。

01 セットアップ

電子証明書を資格確認端末にセットアップします。

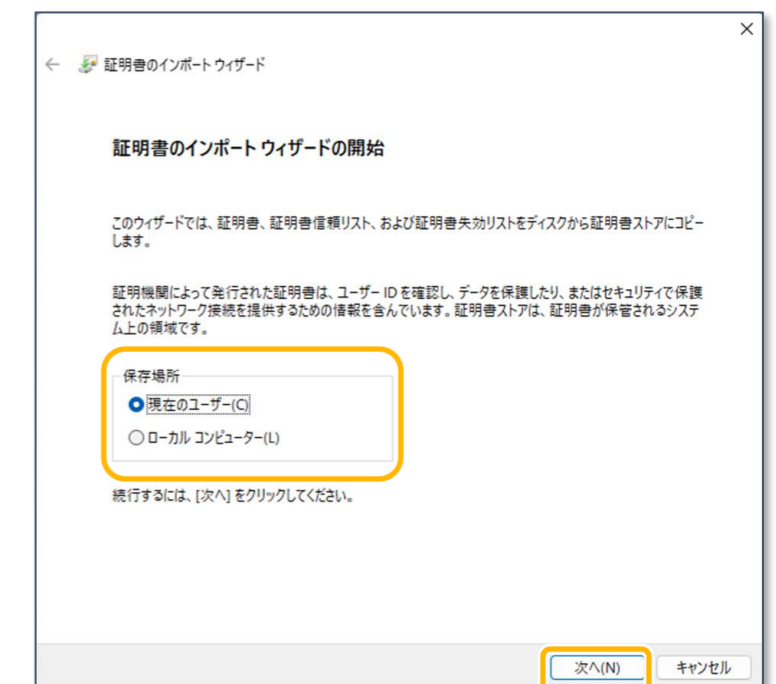
- 1 保存した電子証明書ファイルが保存されているフォルダーを開きます。

電子証明書ファイルを右クリックし、表示されたメニューから**PFXのインストール**をクリックします。



- 2 証明書のインポートウィザードが表示されます。

保存場所は現在のユーザーを選択し、**次へ**をクリックします。



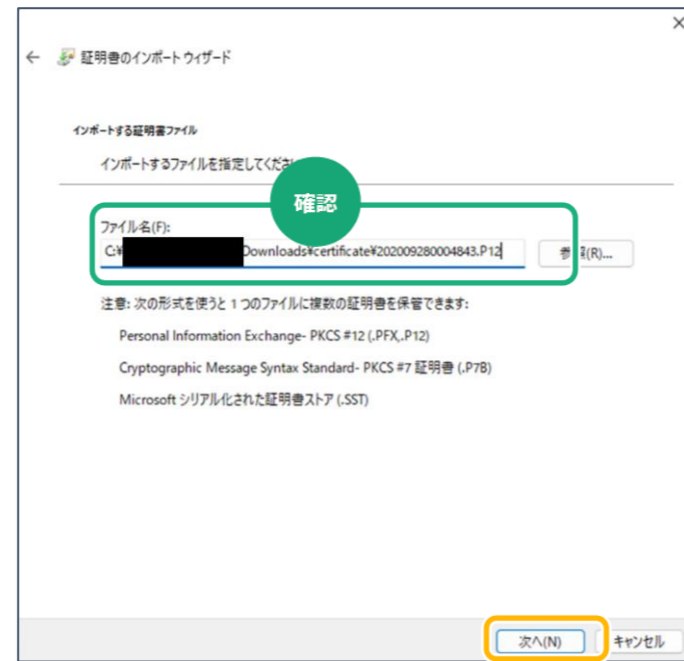
3へ進む

補8

医療機関コードが変更になった場合 (つづき)

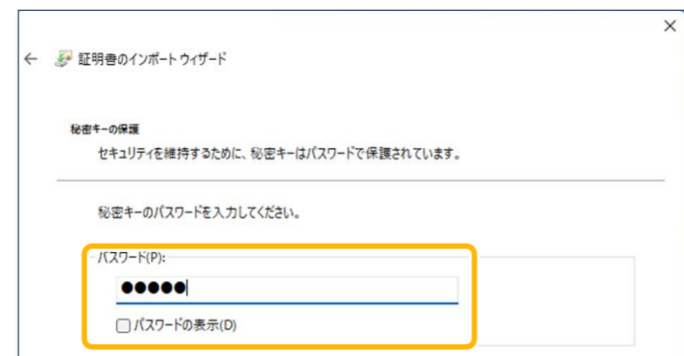
- 3 インポートする証明書ファイルが表示されます。

ファイル名に電子証明書のファイル名が表示されていることを確認し、次へをクリックします。



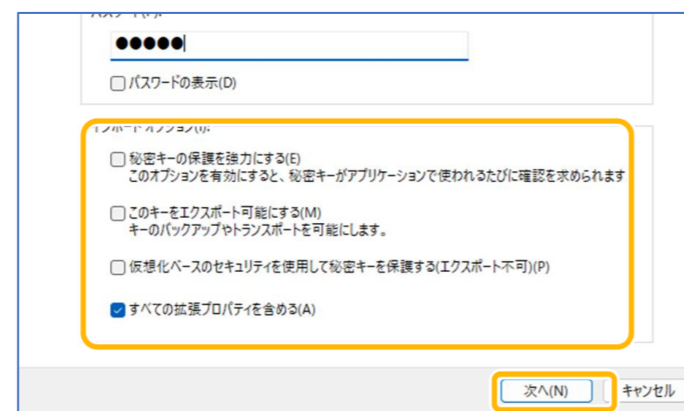
- 4 秘密キーの保護が表示されます。

パスワードに電子証明書ダウンロード時に設定した証明書パスワードを入力します。



- 5 インポートオプションについて、以下の内容を設定します。設定後、次へをクリックします。

- 秘密キーの保護を強力にする
: チェックをしない
- このキーをエクスポート可能にする
: チェックをしない
- すべての拡張プロパティを含める
: チェックをする



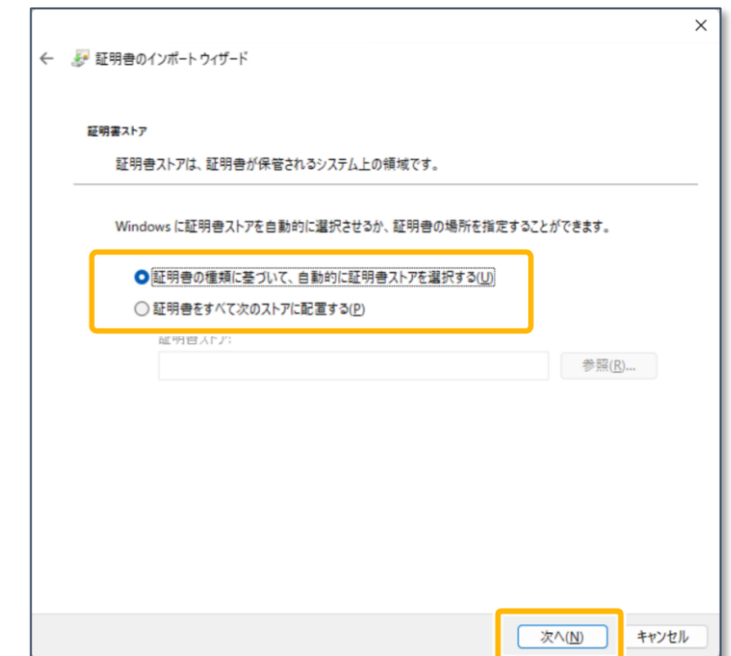
💡 こんなときは！

秘密キーの保護を強力にするのチェックをする場合又はチェックを外せない場合

オンライン請求ネットワーク関連システム共通認証局ユーザーマニュアルを参照し、パスワードを設定します。

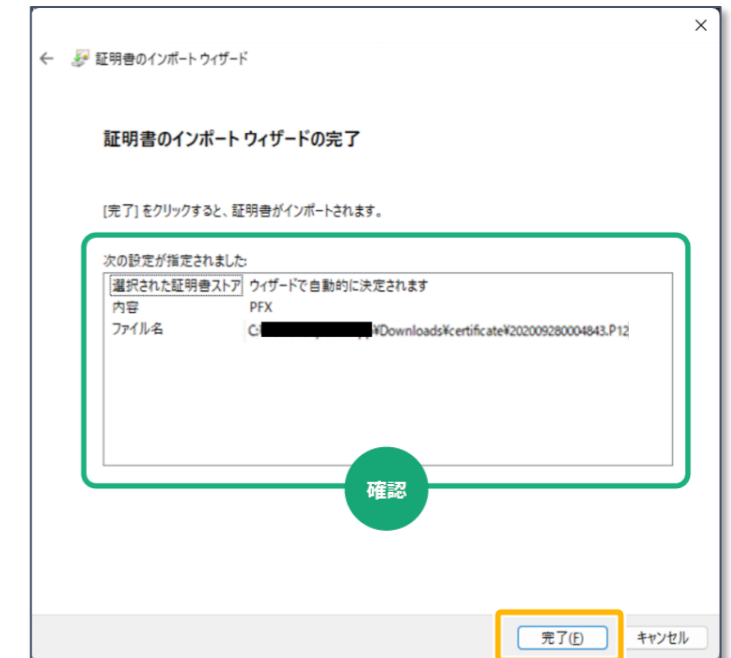
- 6 証明書ストアが表示されます。

証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択するを選択し、次へをクリックします。



- 7 証明書のインポートウィザードの完了が表示されます。

電子証明書のファイル名等を確認し、完了をクリックします。



💡 こんなときは！

新しい秘密交換キーをインポートしますが表示された場合

5の「秘密キーの保護を強力にする」にチェックした場合、右図の画面が表示されることがあります。この場合は、オンライン請求ネットワーク関連システム共通認証局ユーザーマニュアルを参照してください。



補8 医療機関コードが変更になった場合 (つづき)

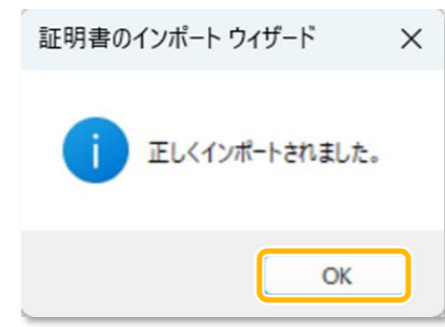
8 セキュリティ警告が表示されます。
 ※本画面が表示されず正しくインポートされました画面が表示された場合は、次に進んでください。



Windowsの信頼されたルート証明機関に証明書発行者 (認証局) の証明書を登録するため、**はい**をクリックします。

注意
 いいえ をクリックした場合は、インストール中止となり、電子証明書がセットアップされません。電子証明書のインストールを再度実施する必要があります (「01 セットアップ」の ① に戻り、再セットアップしてください。)

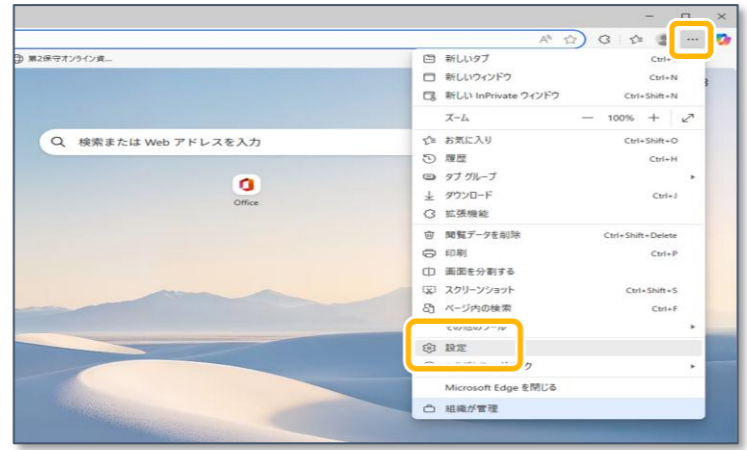
9 正しくインポートされましたが表示されます。
 OKをクリックします。



02 セットアップ結果の確認

電子証明書が、ブラウザに正しく登録されたかを確認します。

1 Microsoft Edgeを起動し、**設定** (設定など) から**設定**をクリックします。



2 設定が表示されます。

プライバシー、検索、サービスから**セキュリティ**をクリックします。



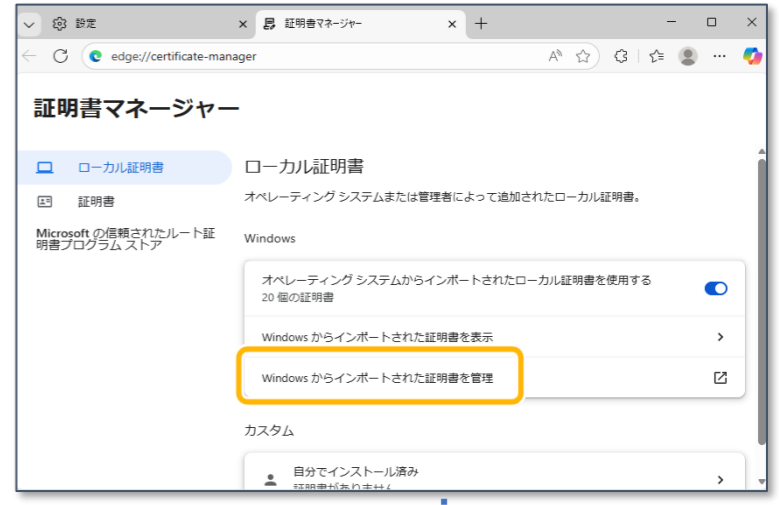
3 セキュリティが表示されます。

証明書の管理をクリックします。



4 証明書マネージャーが表示されます。

ローカル証明書から**Windows からインポートされた証明書を管理**をクリックします。



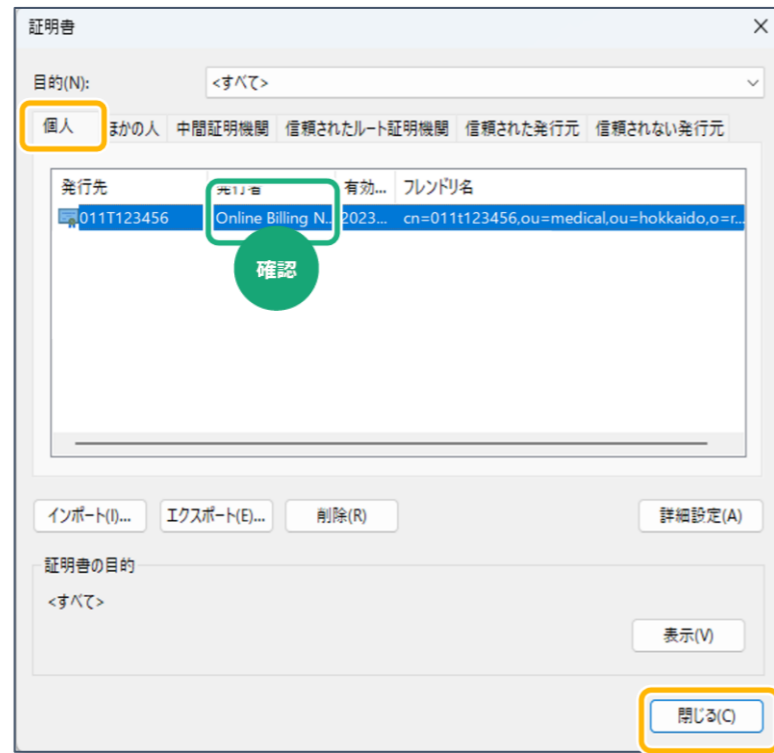
5 へ進む

補8 医療機関コードが変更になった場合 (つづき)

5 証明書が表示されます。

個人タブに、発行者が **Online Billing NW Common Root CA**と表示されている証明書が登録されていることを確認します。

確認後、**閉じる**をクリックします。



注意

職員ごとにWindowsのログインIDを切り替えて使用する場合は、同一の証明書を利用している全てのユーザーの証明書を、同様に更新してください。

電子証明書をセットアップできました。

② 資格情報マネージャーの再設定

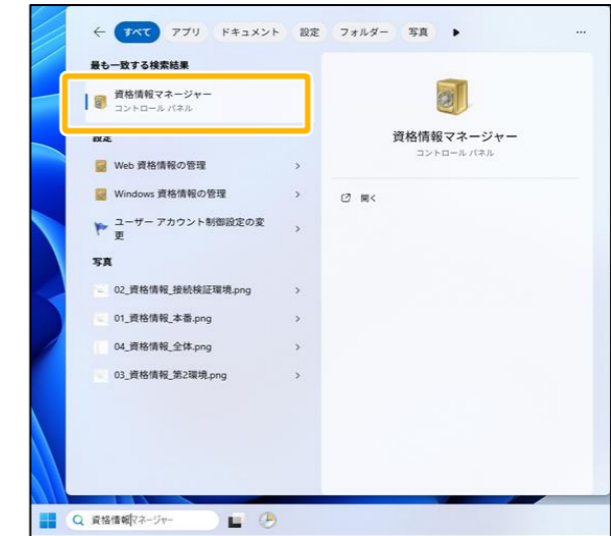
資格情報マネージャーに登録されている以下の内容について、**変更後の医療機関コード (10桁)**で再設定を行います。

| 設定内容 | インターネットまたはネットワークのアドレス | ユーザー名 | パスワード |
|---------|------------------------------|-----------|----------------|
| 医療機関コード | OQS_MEDICAL_INSTITUTION_CODE | OQS_Admin | 変更後の医療機関コード10桁 |

- 1 タスクバーにある**検索ボックス**をクリックし、検索ボックスに**資格情報マネージャー**と入力します。



資格情報マネージャーを選択します。



- 2 資格情報マネージャーが表示されます。

Windows 資格情報を選択します。

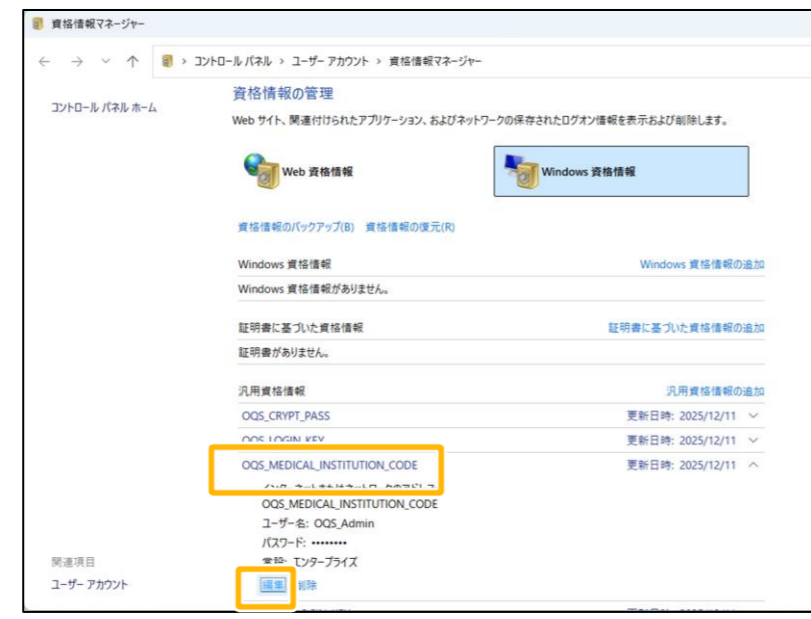


3へ進む

補8 医療機関コードが変更になった場合 (つづき)

3 変更対象の情報を選択します。
OQS_MEDICAL_INSTITUTION_CODE を選択します。

編集を選択します。



4 パスワードに**変更後の医療機関コード (10桁)**を入力し、**保存(S)**をクリックします。



5 資格情報マネージャーの画面に戻ります。
✕ ボタンをクリックして閉じます。

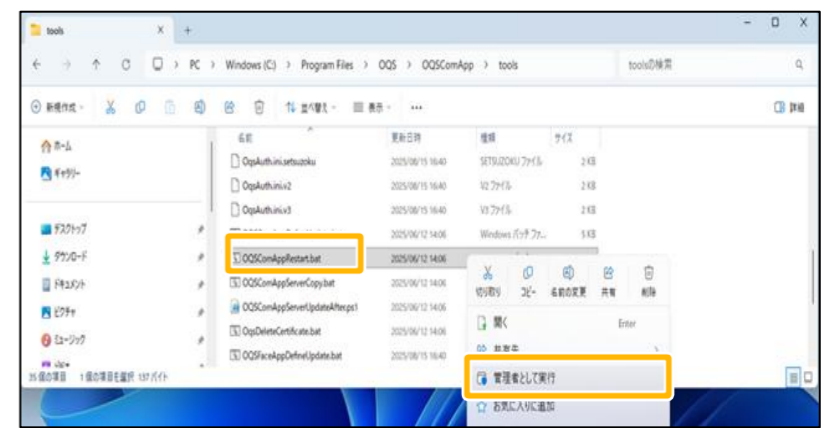


6 資格情報を変更した場合、**連携アプリケーションを再起動**する必要があります。
以下のフォルダーに保存されている**バッチファイル**を**管理者権限**で実行し、再起動を行います。

バッチファイルの保存フォルダー
C¥Program Files¥OQS¥OQSComApp¥tools¥

実行するバッチファイル
OQSComAppRestart.bat

バッチファイルを右クリックして表示されたメニューから**管理者として実行**をクリックします。



💡 こんなときは!
メッセージ画面が表示された場合

「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか?」というメッセージ画面が表示された場合は、YESボタンをクリックしてインストールを続行します。



資格情報マネージャーの再設定ができました。

補9

顔認証ライブラリ又は連携アプリケーション利用時の結果データファイルが操作できない

顔認証機器を導入する医療機関等又はHIS等の既存システムから接続する上で連携アプリケーションを設定する場合、結果データファイルが共有フォルダーに表示されないときや移動、削除ができないときは、オンライン資格確認用端末の作業フォルダーへのアクセス権限が設定されていない可能性があります。



以下のフォルダーのアクセス許可に、医療機関で個別に決定したレセプトコンピューターからアクセスするアカウント名を追加してあるか確認してください。

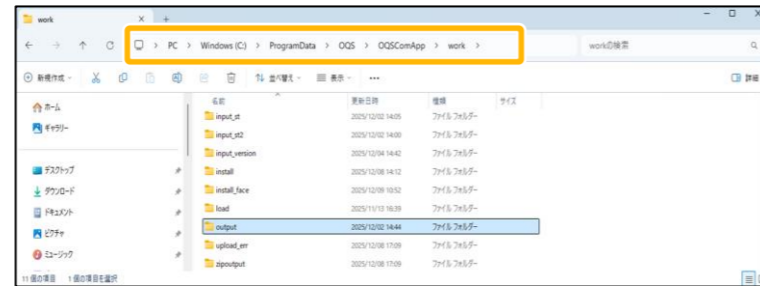
対象フォルダー： C:\ProgramData\OQS\OQSComApp\work\output

C:\ProgramData\OQS\OQSComApp\work\zipoutput

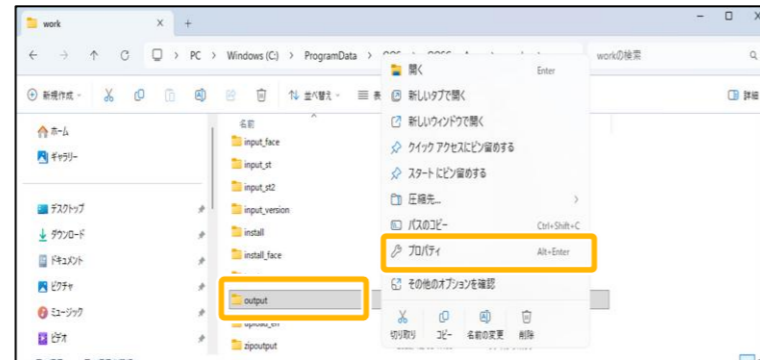
フォルダーへのアクセス権限がない場合、アクセス許可を追加します

- 1 エクスプローラーで、以下のフォルダーを開きます。

C:\ProgramData\OQS\OQSComApp\work

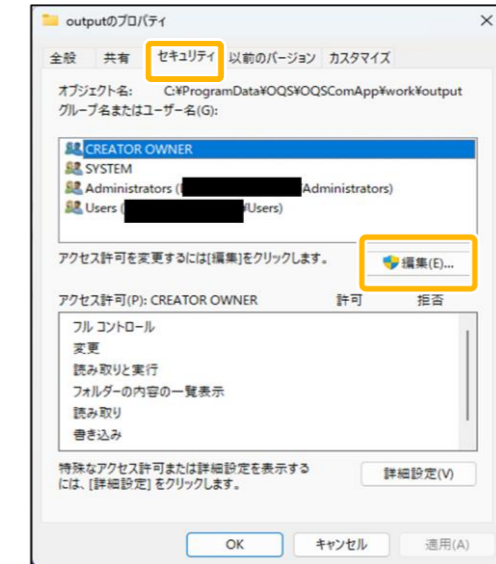


- 2 outputフォルダーを右クリックし、表示されるメニューからプロパティをクリックします。

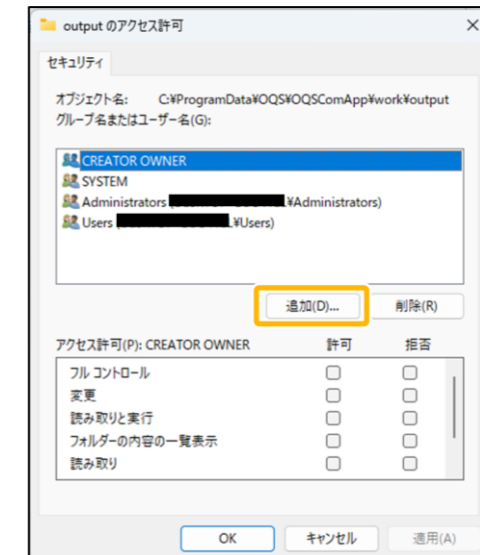


- 3 プロパティが表示されます。
セキュリティタブをクリックします。

続いて、編集をクリックします。

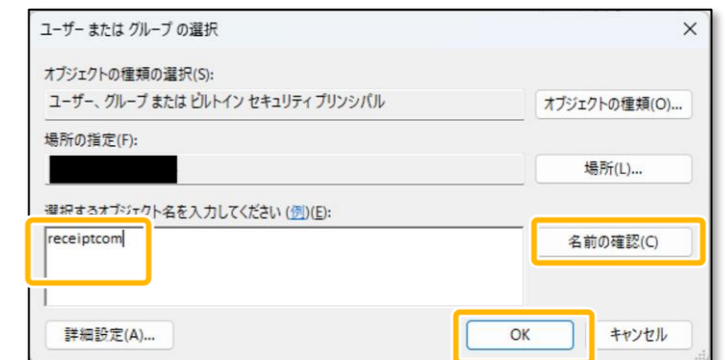


- 4 アクセス許可が表示されます。
追加をクリックします。



- 5 ユーザーまたはグループの選択が表示されます。

選択するオブジェクト名を入力してくださいに
医療機関で個別に決定したレセプトコンピューターからアクセスするアカウント名を入力し、名前の確認をクリックします
例としてreceiptcomを設定



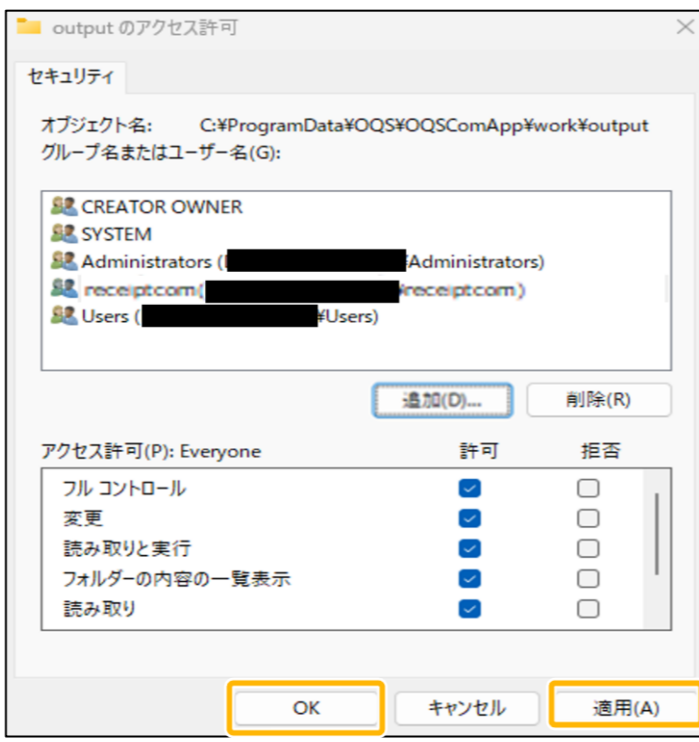
6 へ進む

receiptcom に下線が表示されたことを確認します。

OKをクリックします。

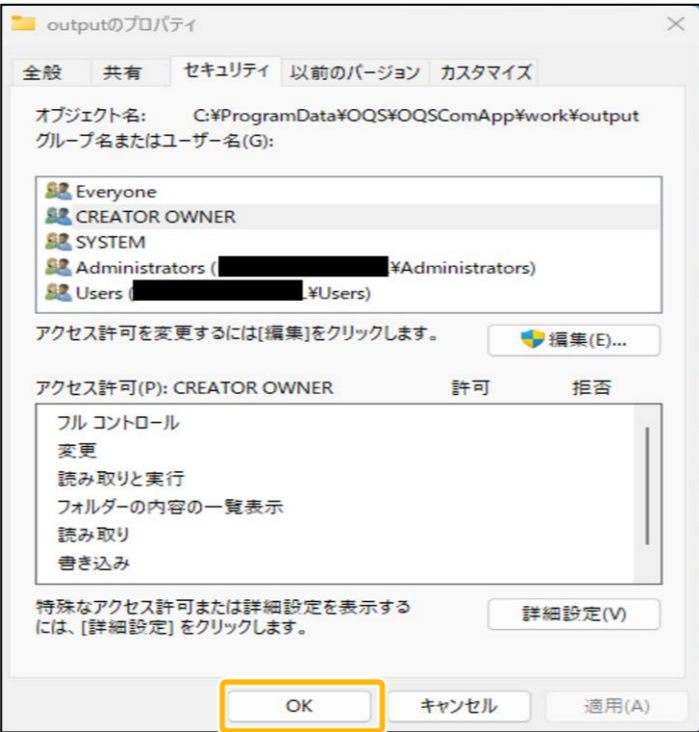
補9 顔認証ライブラリ又は連携アプリケーション利用時の結果データファイルが操作できない (つづき)

- 6 アクセス許可が表示されます。
receiptcomが追加されたことを確認します。
適用をクリックします。
OKをクリックします。



注意
アクセス許可については、医療機関での用途に合わせてチェックを入れてください。
例) 結果データファイルの読み取りのみ → 読み取りのみにチェックを入れる
結果データファイルの読み取り変更削除 → フル コントロールにチェックを入れる

- 7 プロパティが表示されます。
OKをクリックします。
zipoutputフォルダーについても同様に②～⑦を実施する。

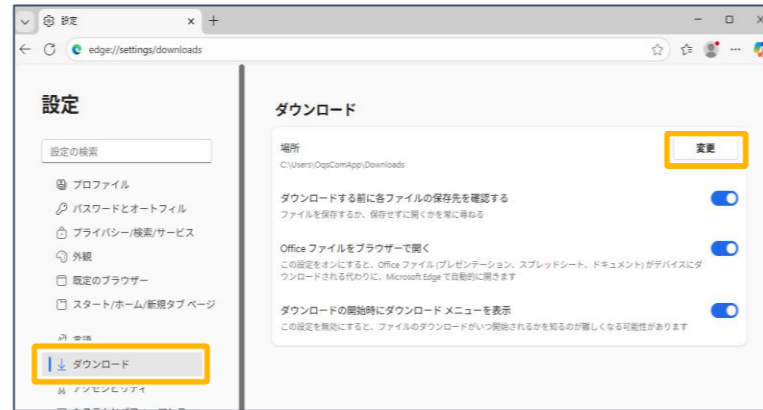


補10 ブラウザー (Microsoft Edge) の設定を変更したい

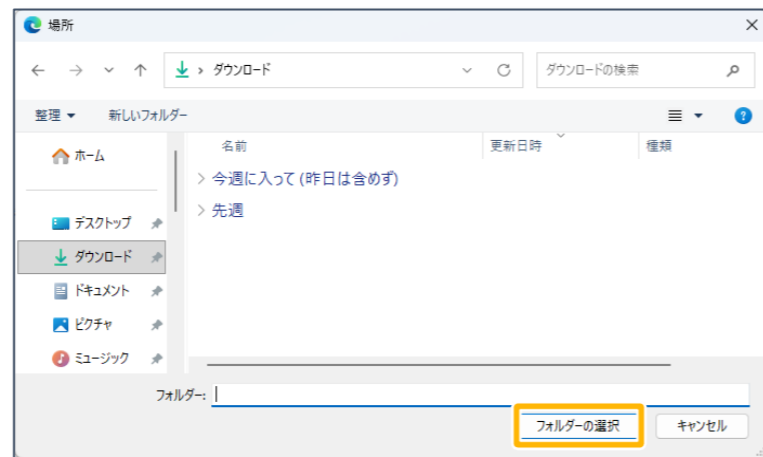
Microsoft Edgeでは、ダウンロードしたファイルは**ダウンロードフォルダー**に保存されます。**ダウンロードフォルダー以外の場所に保存する場合は、以下の手順を実施してください。**

ダウンロードするファイルの保存場所を指定します

1 設定を表示します。
ダウンロードから場所の変更をクリックします。



2 場所が表示されます。
ファイルのダウンロード先とするフォルダーを選択し、**フォルダーの選択**をクリックします。



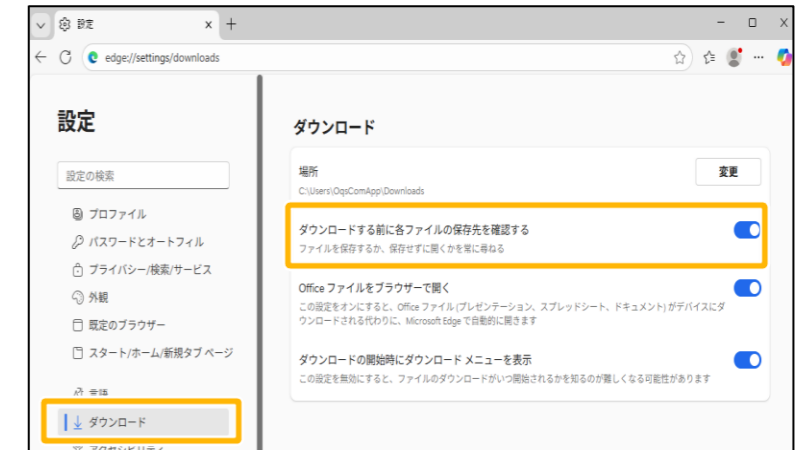
3 設定が表示されます。
場所に指定したダウンロード先が表示されます。



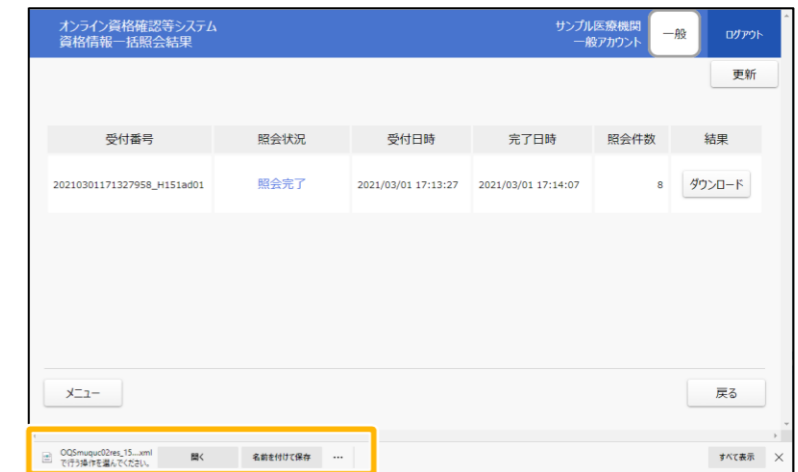
ダウンロードするファイルの保存場所を毎回確認するを有効にします

ダウンロード時に**毎回**保存場所を設定したい場合は、以下の設定を行ってください。

1 設定を表示します。
ダウンロードからダウンロードする前に各ファイルの保存先を確認するの設定を有効 (トグルボタンが右側にある) にします。

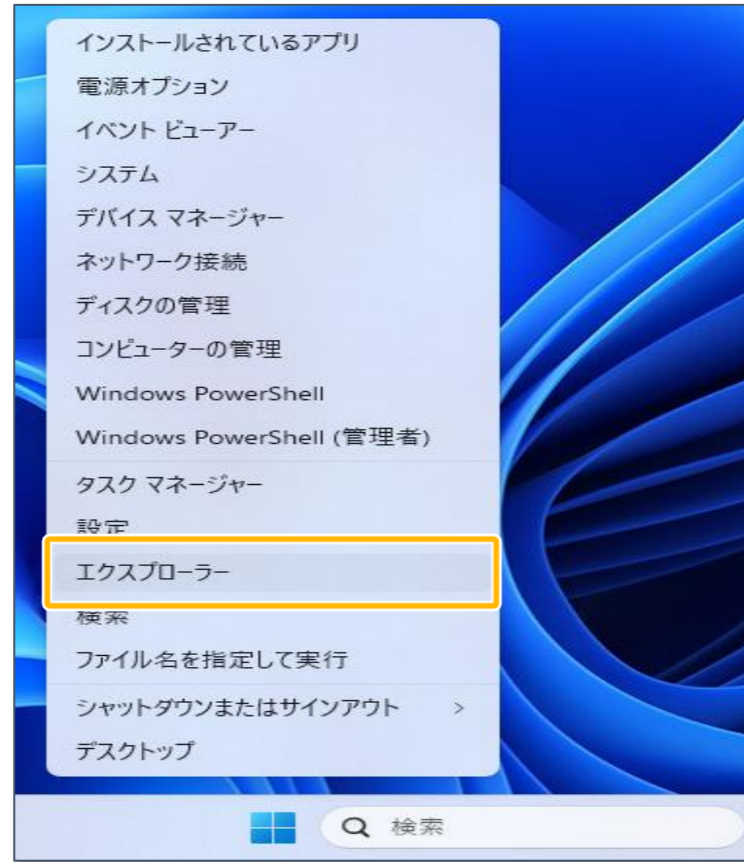


資格情報一括照会結果等のダウンロード時に次に行う操作の**選択メッセージ**が表示されます。

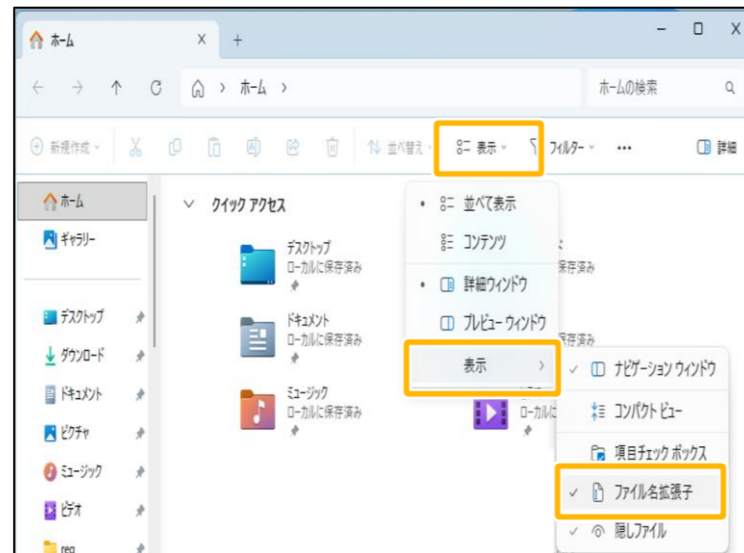


補11 ファイルの拡張子を表示したい

- 1 スタートボタンを右クリックし、表示されるメニューから**エクスプローラー**をクリックします。



- 2 **表示**をクリックし、表示されるメニューの**表示**から**ファイル名拡張子**にチェックを入れます。



ファイルの拡張子の表示を設定できました。

補12 ファイルを暗号化したい

連携アプリケーション又は顔認証にて、暗号化したファイルを扱うことができます。
利用する場合は、以下の設定を変更してください。

連携アプリケーションの場合

連携アプリケーション導入手順書を参照し、設定を変更してください。

- 参照先** 連携アプリケーション導入手順書
- 4.1 資格情報マネージャーの設定
 - 4.2 暗号化識別ファイルの設定

顔認証の場合

顔認証DLL定義説明書を参照し、設定を変更してください。

- 参照先** 顔認証DLL定義説明書
- 2.1 資格情報マネージャーの設定
 - 2.2 暗号化識別ファイルの設定

注意

資格情報マネージャーの設定は、連携アプリケーションと顔認証ともに共通になります。

補13 NAS等の共有フォルダーに結果ファイルを出力したい

連携アプリケーション又は顔認証にて、結果ファイルをNAS等の共有フォルダーに出力することができます。
利用する場合は、以下の設定を変更してください。

連携アプリケーションの場合

連携アプリケーション導入手順書を参照し、設定を変更してください。

参照先 連携アプリケーション導入手順書
- 4.4 ユーザー定義ファイルの設定

顔認証の場合

顔認証DLL定義説明書を参照し、設定を変更してください。

参照先 顔認証DLL定義説明書
- 2.4 ユーザー定義ファイルの設定

補14 事前にダウンロードが必要な資料を知りたい

閉域環境ではインターネットからインストーラーや証明書等の資料をダウンロードすることができません。
事前に、以下の資料をインターネットから入手してください。

Microsoft Edge



Microsoft Edge
レガシー版

左側のアイコンの場合は、
旧版のMicrosoft Edgeであるため最新の
バージョンのインストールを実施してくだ
さい。

▶▶ [トラブルシューティング 補1](#)

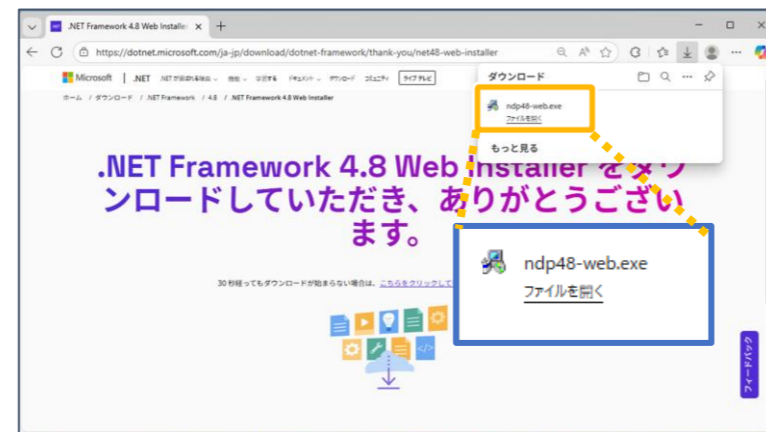
.NET Framework4.8

- 1 Microsoft Edgeを起動し、以下のMicrosoftのダウンロードサイトに接続します。

.NET Frameworkのダウンロードサイト

<https://dotnet.microsoft.com/download/dotnet-framework/thank-you/net48-web-installer>

- 2 .NET Framework4.8のインストールファイルのダウンロードが開始されます。

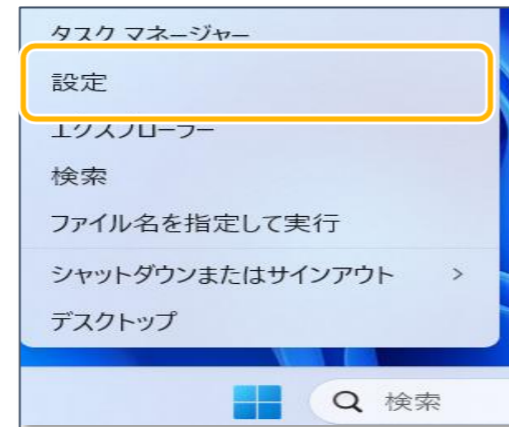


補15 Windowsの検索機能が利用できない

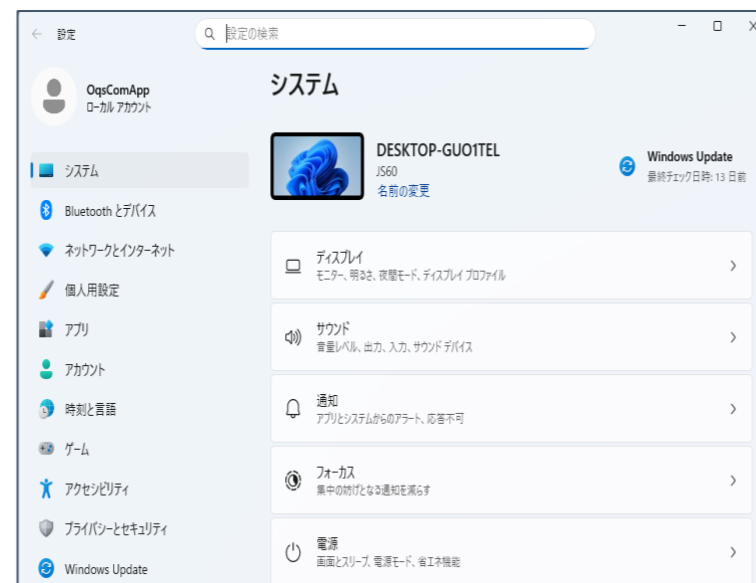
閉域環境ではWindowsの検索機能が使用できない場合があります。
セットアップ手順にてWindowsの検索機能を利用する手順の代替手順を以下に記載します。

Windowsの設定の表示

- 1 スタートメニューを右クリックし、表示されるメニューから**設定**をクリックします。

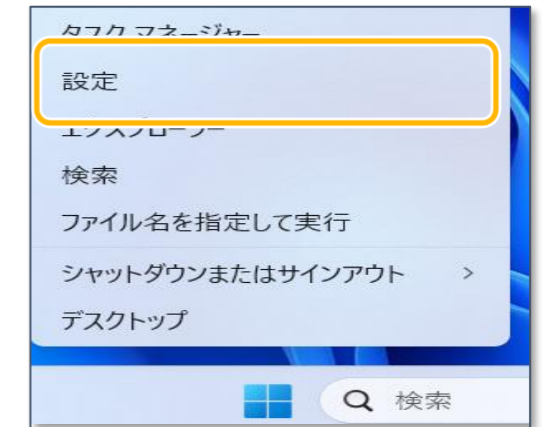


- 2 Windowsの設定が表示されます。



アカウントの管理の表示

- 1 スタートメニューを右クリックし、表示されるメニューから**設定**をクリックします。



- 2 Windowsの設定が表示されます。

アカウントをクリックします。



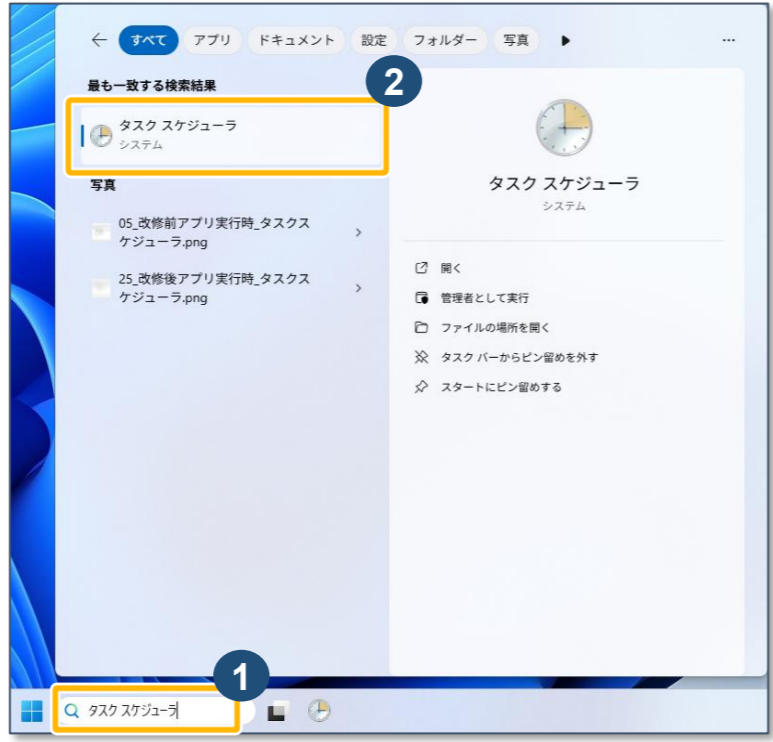
- 3 アカウントの管理が表示されます。



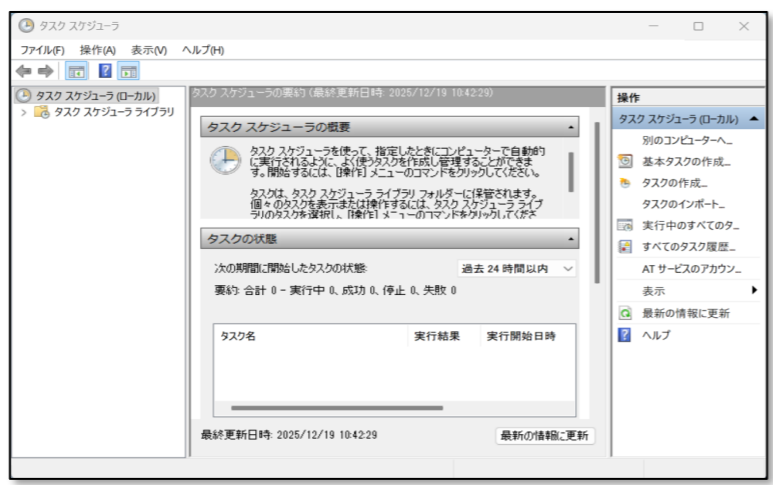
補15 Windowsの検索機能が利用できない (つづき)

タスクスケジューラの表示

- 1 タスクバーにある**検索ボックス**をクリックし、検索ボックスに**タスクスケジューラ**と入力します。
▲ 半角又は全角スペースを入れてください。
- 2 検索結果から、**タスクスケジューラ**をクリックします。

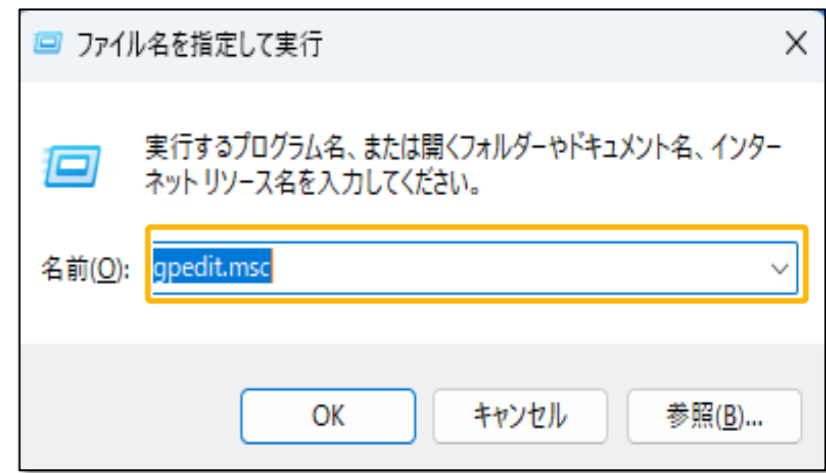


- 3 **タスクスケジューラ**が起動されます。

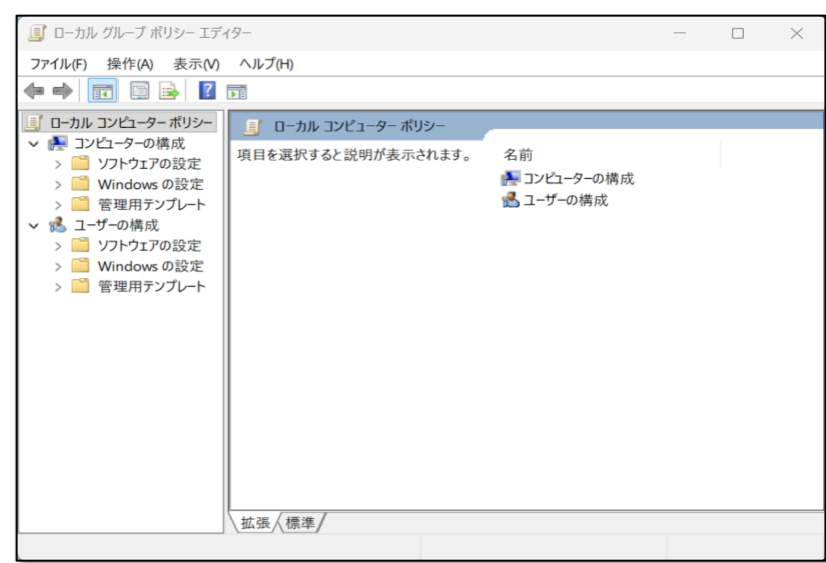


グループポリシーの表示

- 1 **[Windows キー] + [R]** キーを押します。
- 2 ファイル名を指定して実行が表示されます。
名前に「**gpedit.msc**」と入力し、**OK**をクリックします。



- 3 **ローカルグループポリシーエディター**が表示されます。



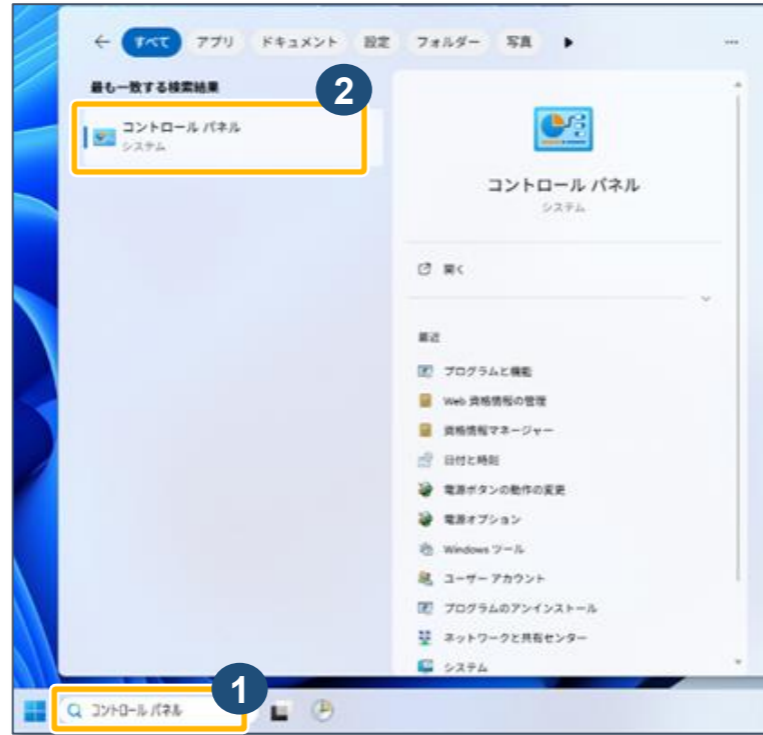
補15 Windowsの検索機能が利用できない (つづき)

資格情報マネージャーの表示

1 タスクバーにある**検索ボックス**をタップし、検索ボックスに**コントロールパネル**と入力します。

▲ 半角又は全角スペースを入れてください。

2 検索結果から、**コントロールパネル**をクリックします。



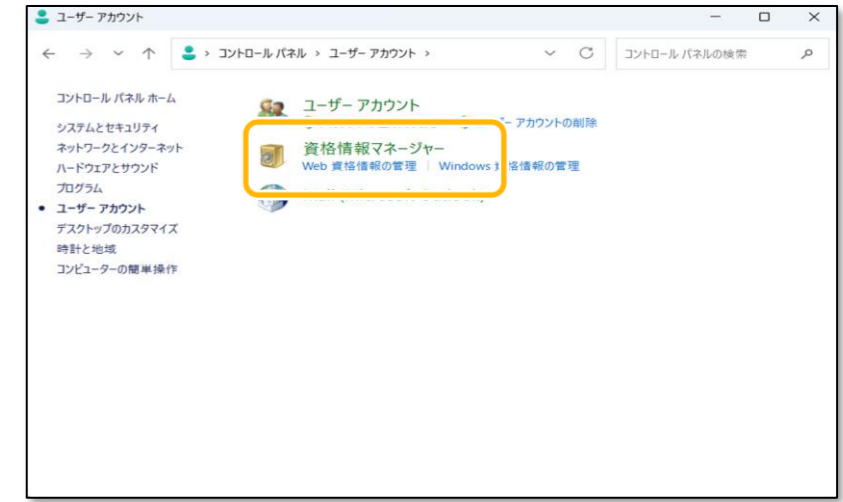
3 **コントロール パネル**が起動されます。

ユーザーアカウントをクリックします。

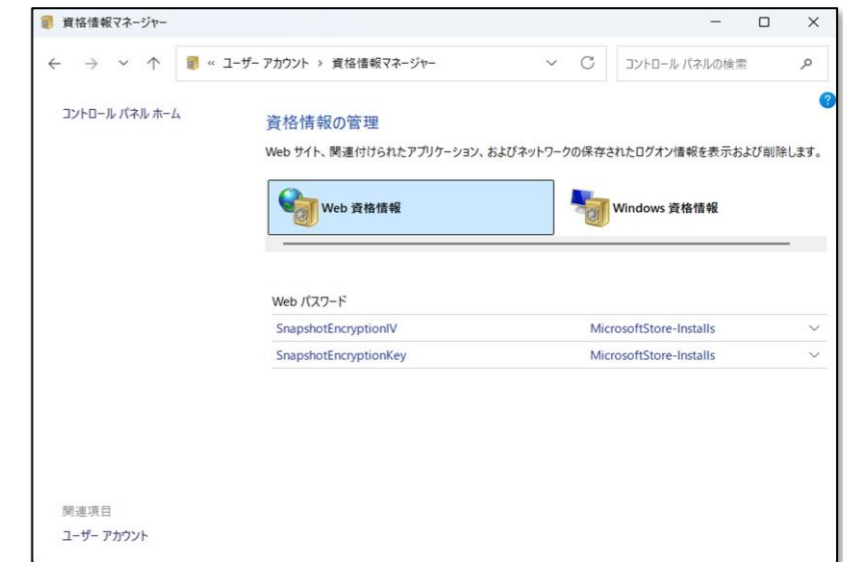


4 **ユーザー アカウント**が表示されます。

資格情報マネージャーをクリックします。



5 **資格情報マネージャー**が表示されます。



補16 連携アプリケーションから結果が返ってこない

連携アプリケーションが正常に動作できていない可能性があります。以下の設定の見直しを行ってください。

アカウントの設定が誤っている

連携アプリケーションは専用のアカウントが必要です。アカウントのユーザーIDはR0又はR1から始まります。操作マニュアル(管理者編)を参照いただき、連携アプリケーションのアカウントが作成されているかご確認ください。

- 参照先**
- 操作マニュアル(管理者編)
 - 第2章 アカウントを管理する
 - 3 アカウントを更新する

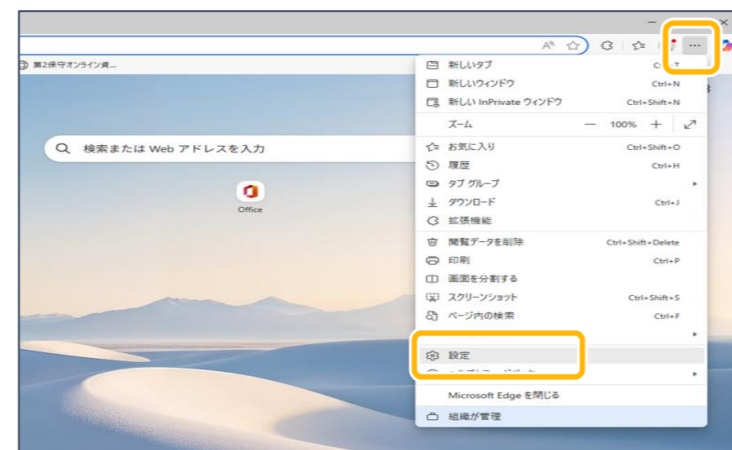
連携アプリケーション専用のアカウントが作成されていない場合は、作成いただき資格確認端末内資格情報マネージャーの「OQS_LOGIN_KEY」に設定してください。

- 参照先**
- 連携アプリケーション導入手順書
 - 4.1 資格情報マネージャーの設定

電子証明書の有効期限が切れている

連携アプリケーションを利用するに当たり、電子証明書が有効である必要があります。期限が切れていないかご確認ください。

- 1** Microsoft Edgeを起動し、**...** (設定など) から**設定**をクリックします。



- 2** 設定が表示されます。

プライバシー、検索、サービスから**セキュリティ**をクリックします。



- 3** セキュリティが表示されます。

証明書の管理をクリックします。



- 4** 証明書マネージャーが表示されます。

ローカル証明書から Windows からインポートされた証明書を管理をクリックします。



補16

連携アプリケーションから結果が返ってこない（つづき）

3 証明書が表示されます。

個人タブに、発行者が**Online Billing NW Common Root CA**と表示されている証明書が登録されており、**有効期限**が切れていないことを確認します。

確認後、**閉じる** をクリックします。



証明書が存在しない場合、期限が切れている場合は、医療機関等向けセットアップ手順書（資格確認端末編）を参照し設定してください。

参照先

医療機関等向けセットアップ手順書（資格確認端末編）
- 操作6 認証局の電子証明書をインストールする

連携アプリケーションの接続先が誤っている

連携アプリケーションは本番環境と接続検証環境の2つの接続先があります。資格確認端末環境切替え手順書を参照いただき、接続先の確認と切替えを行ってください。

参照先

資格確認端末環境切替え手順書
- 接続先の確認
- 連携アプリケーションの環境切替え

資格情報マネージャーに設定する値が誤っている

資格確認端末内資格情報マネージャーに設定した値が正しいかご確認ください。

特に、「OQS_MEDICAL_INSTITUTION_CODE」は10桁の数字を設定いただく必要があります。10桁の数字以外を設定された場合は、連携アプリケーション導入手順書を参照いただき、設定をお願いいたします。

参照先

連携アプリケーション導入手順書
- 4.1 資格情報マネージャーの設定

ネットワークが正しく設定されていない

以下の設定をご確認ください。

- LANが抜けていないか
- 医療機関等向け総合ポータルサイト上のお知らせを確認いただき、オンライン資格確認等システムに障害が発生していないか

補16 連携アプリケーションから結果が返ってこない (つづき)

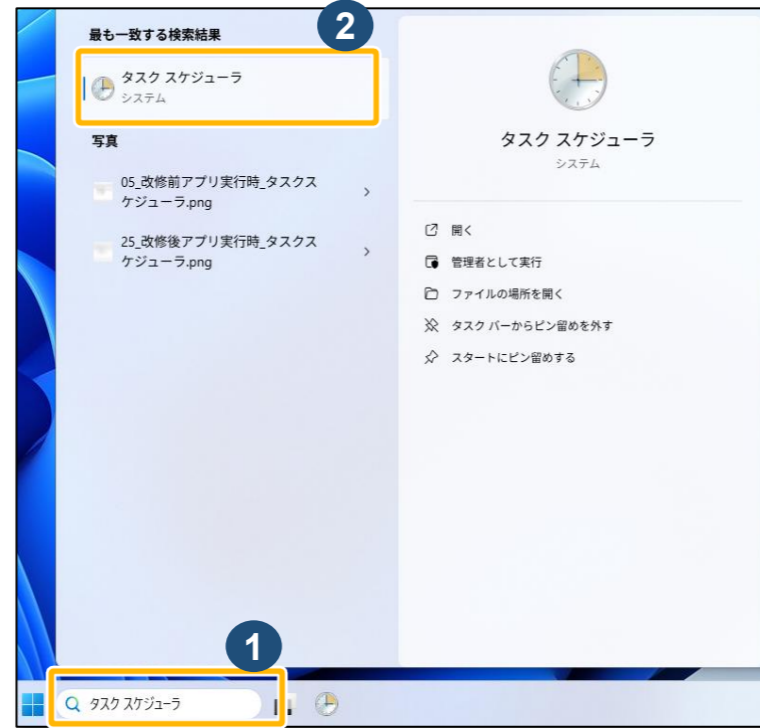
タスクの遅延起動が設定されていない

タスクスケジューラにて、“スタートアップ時” (システム起動時) のトリガーを登録しているタスクが複数登録されている場合、それらのタスクがランダムに実行失敗する場合があります。タスクの設定をご確認ください。

1 タスクバーにある**検索ボックス**をクリックし、検索ボックスに**タスクスケジューラ**と入力します。

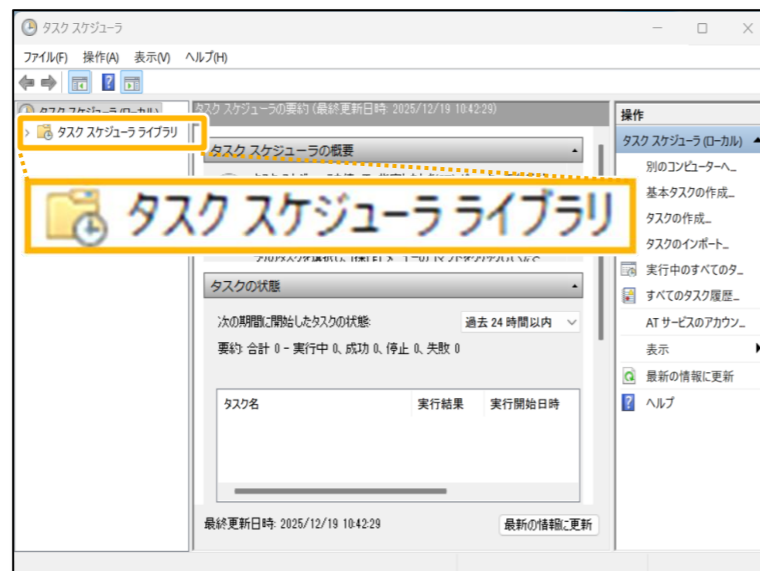
▲ 半角又は全角スペースを入れてください。

2 検索結果から、**タスクスケジューラ**をクリックします。



3 タスクスケジューラが表示されます。

左側の領域から、**タスクスケジューラライブラリ**をクリックします。



4 PC起動時の消し忘れファイル機能起動タスクの**OQS_exec_comappdelfile_running**をクリックします。

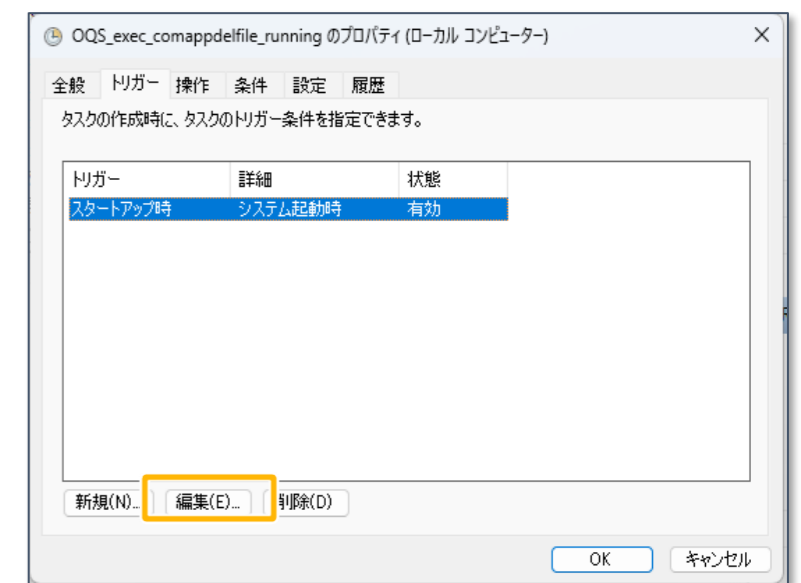
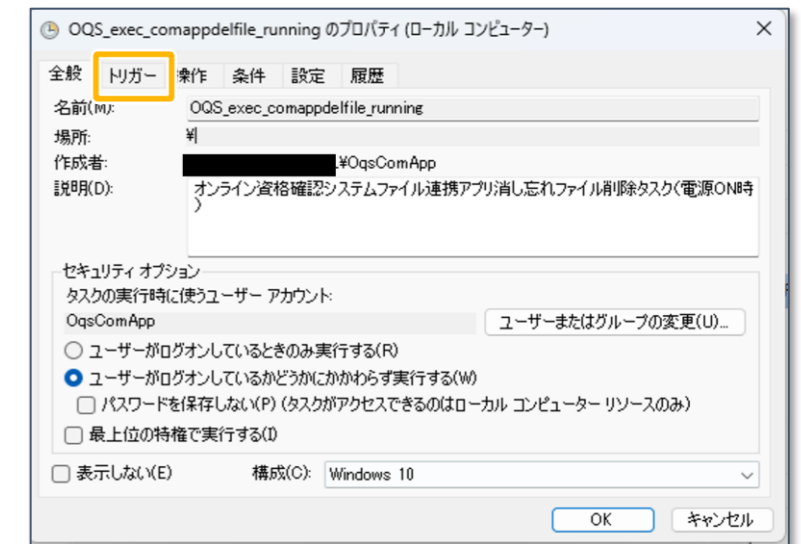
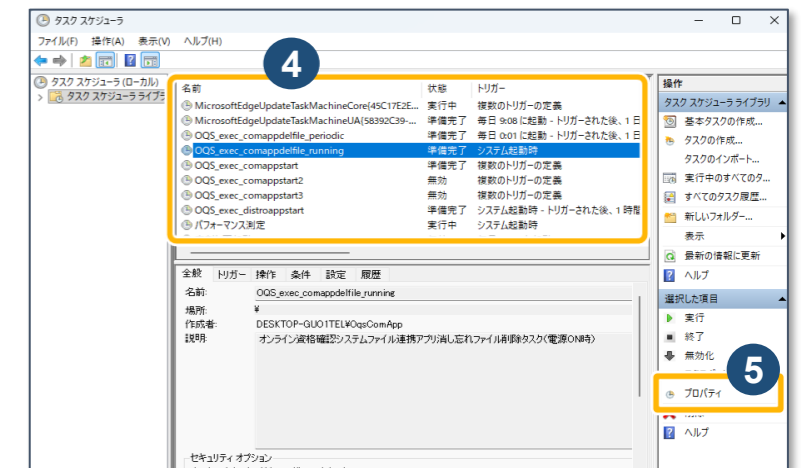
5 **プロパティ** をクリックします。

6 タスクのプロパティが表示されます。

トリガータブをクリックします。

7 **トリガー**が表示されます。

編集をクリックします。



補16 連携アプリケーションから結果が返ってこない (つづき)

- 8 トリガーの編集が表示され
ます。

遅延時間を指定するにチェッ
クが入っているか確認します。

入っていない場合は**チェック
を入れ、30秒間**を選択します。

- 9 OKをクリックします。

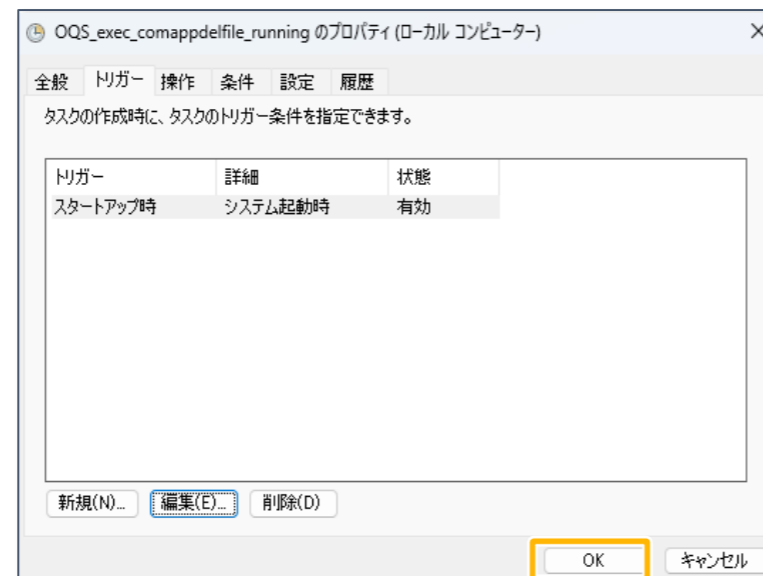
- 10 トリガーが表示されます。

OKをクリックします。

- 11 タスクを実行する実行アカウ
ントの入力が表示されます。

ユーザー名とパスワードを入
力します。

- 12 OKをクリックします。



注意

設定後はPCの再起動を実施してください。
再起動後に本変更が正しく設定されているか再度ご確認ください。

連携アプリケーションのタスクが無効化されている

コンピューター名を変更した場合、連携アプリケーション関連のタスクスケジューラのタスクが無効化される場合があります。下記を参照ください。

参照先 別紙 トラブルシューティング 補26 コンピューター名を変更したい

補16 連携アプリケーションから結果が返ってこない（つづき）

連携アプリケーションのバージョンが古い

連携アプリケーションのバージョンが1.1.0以降となっているかご確認ください。

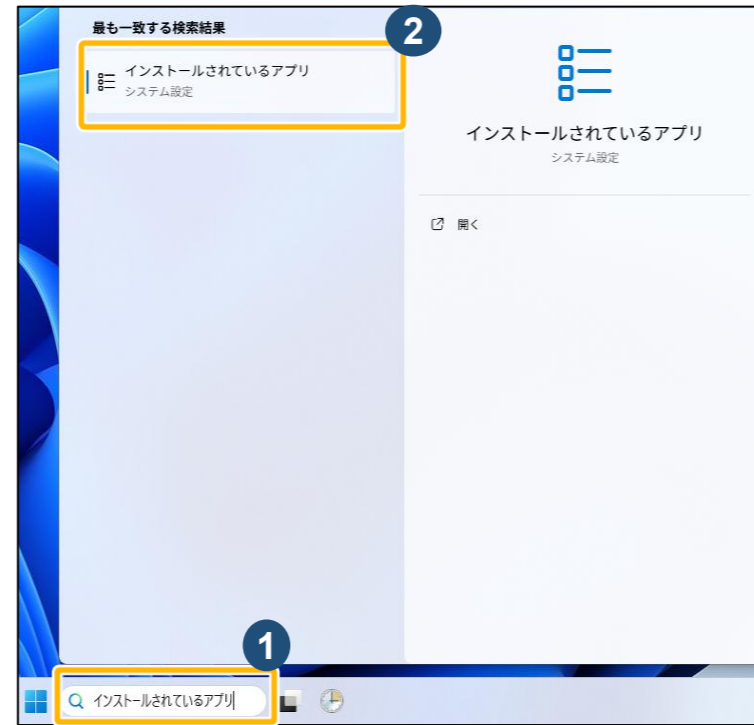
- 1 タスクバーにある**検索ボックス**をクリックし、検索ボックスに**インストールされているアプリ**と入力します。

💡 こんなときは！

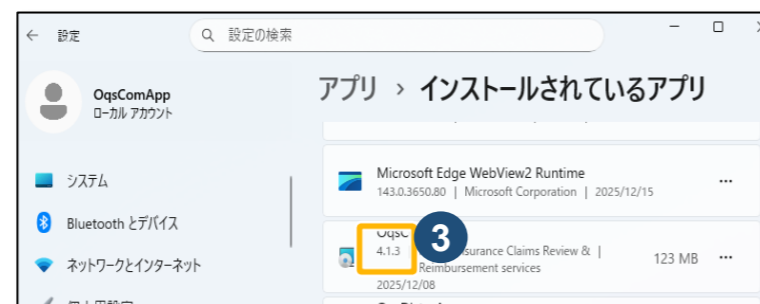
Window10の場合

「インストールされているアプリ」を「アプリと機能」に読み替えて以降の手順を実施してください。

- 2 検索結果から、**インストールされているアプリ**をクリックします。



- 3 **OqsComApp** のバージョンを確認します。



ファイル格納ディレクトリのパスにアクセスできない

下記の場合、レセコン等や連携アプリケーションがフォルダーにアクセスできていない可能性があります。設定の見直しを行ってください。連携アプリケーションの設定は、連携アプリケーション導入手順書を参照ください。

- ・要求ファイルが要求ファイル格納ディレクトリに格納されない
- ・要求ファイルが残存し続けている
- ・結果ファイルが結果ファイル格納ディレクトリに返却されない
- ・結果ファイルが返却されたがレセコン等で取り込みできない

チェック観点

- 要求ファイル格納ディレクトリにアクセス権限が付与されていること。
- 要求ファイル格納ディレクトリに共有設定がされていること。
- 結果ファイル格納フォルダーとレセコン等の結果ファイル取得先ディレクトリが一致していること。
- 結果ファイル格納ディレクトリにアクセス権限が付与されていること。
- 結果ファイル格納ディレクトリに共有設定がされていること。

以下は、定義ファイルを変更された方が対象です。
定義ファイルについては、連携アプリケーション導入手順書を参照ください。

- 連携アプリケーションで指定した結果ファイル格納ディレクトリのパスに日本語を含む場合、定義ファイルが文字コードShift-JISで保存されていないこと。
- 各種定義ファイルがBOM付きで保存されていないこと。

参照先 ▶ 連携アプリケーション導入手順書

連携アプリケーションが処理を受け付けない

これまで正常に処理されていた連携アプリケーションが、コンピューター名やパスワードなどの変更を行っていないにも関わらず、要求データファイルが要求データファイル格納ディレクトリ（reqフォルダーなど）に残存し続ける場合や、要求データファイル格納ディレクトリ（reqフォルダーなど）からなくなるが結果データファイルが返却されない場合、連携アプリケーションが処理を受け付けできない状態になっている可能性があります。

資格確認端末を再起動して、事象解消されるかお試しください。

補17 配信アプリケーションが動作しない

配信アプリケーションが動作しない場合、以下の設定を見直すことで解決する可能性があります。

タスクの遅延起動が設定されていない

タスクスケジューラにて、“スタートアップ時”（システム起動時）のトリガーを登録しているタスクが複数登録されている場合、それらのタスクがランダムに実行失敗する場合があります。タスクの設定をご確認ください。

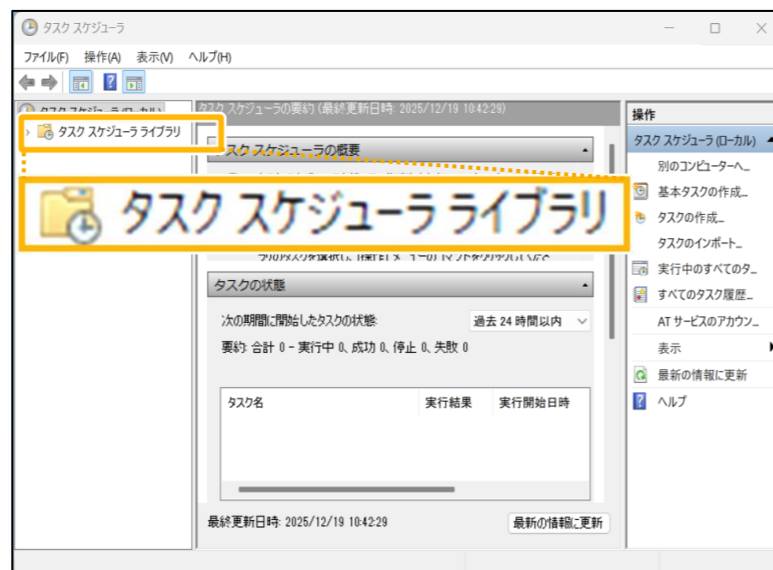
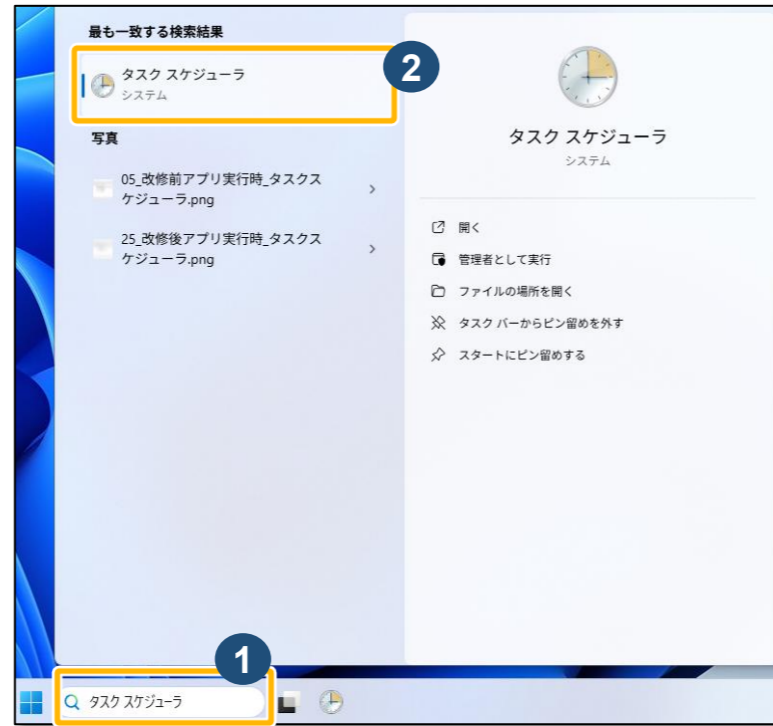
1 タスクバーにある**検索ボックス**をクリックし、検索ボックスに**タスクスケジューラ**と入力します。

▲ 半角又は全角スペースを入れてください。

2 検索結果から、**タスクスケジューラ**をクリックします。

3 タスクスケジューラが表示されます。

左側の領域から、**タスクスケジューラライブラリ**をクリックします。



4 配信アプリケーション起動タスクの**OQS_exec_distroappstart**をクリックします。

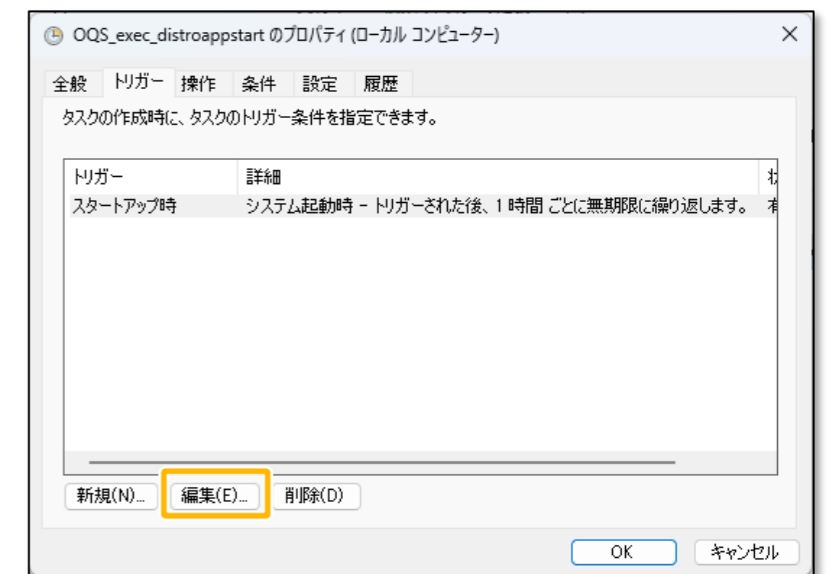
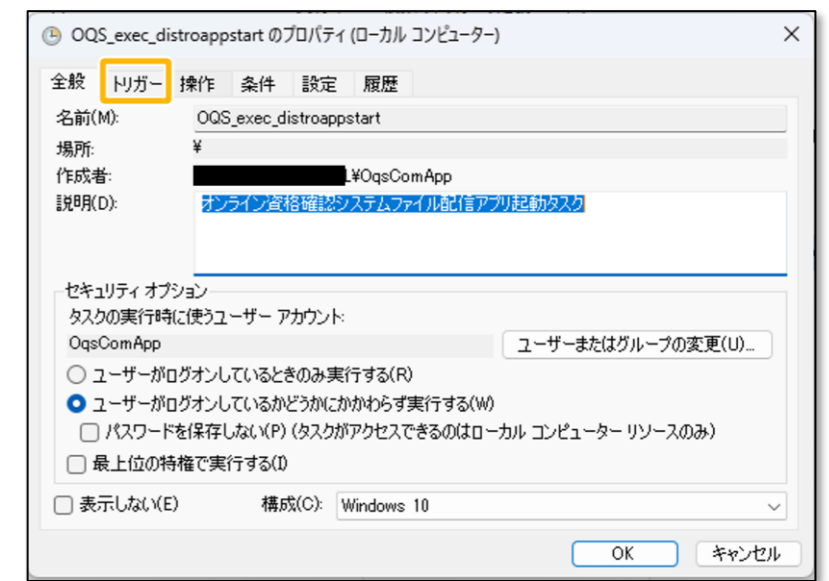
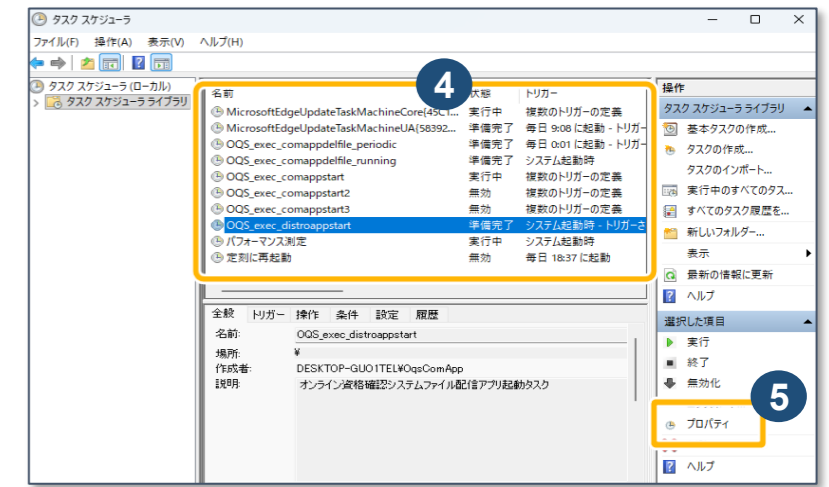
5 **プロパティ** をクリックします。

6 タスクのプロパティが表示されます。

トリガータブをクリックします。

7 **トリガー**が表示されます。

編集をクリックします。



8 へ進む

補17 配信アプリケーションが動作しない (つづき)

8 トリガーの編集が表示されます。

遅延時間を指定するにチェックが入っているか確認します。

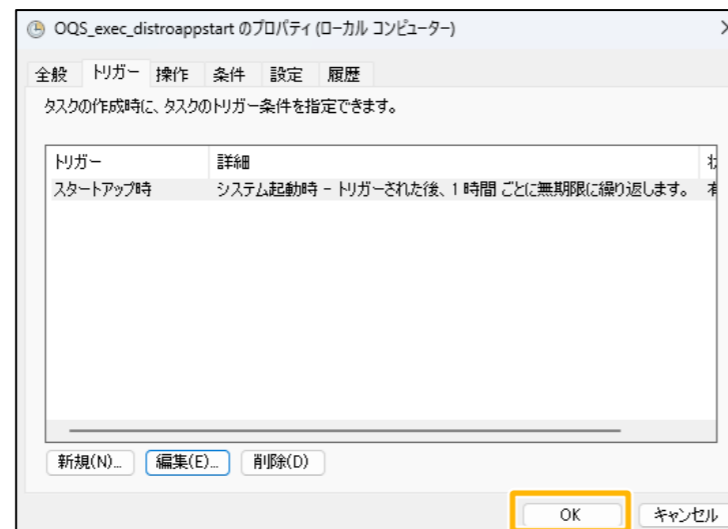
入っていない場合は**チェックを入れ、1分間**を選択します。



9 OKをクリックします。

10 トリガーが表示されます。

OKをクリックします。



11 タスクを実行する実行アカウントの入力が表示されます。

ユーザー名とパスワードを入力します。



12 OKをクリックします。

注意

設定後はPCの再起動を実施してください。
再起動後に本変更が正しく設定されているか再度ご確認ください。

配信アプリケーションのタスクが無効化されている

コンピューター名を変更した場合、配信アプリケーション関連のタスクスケジューラのタスクが無効化される場合があります。下記を参照ください。

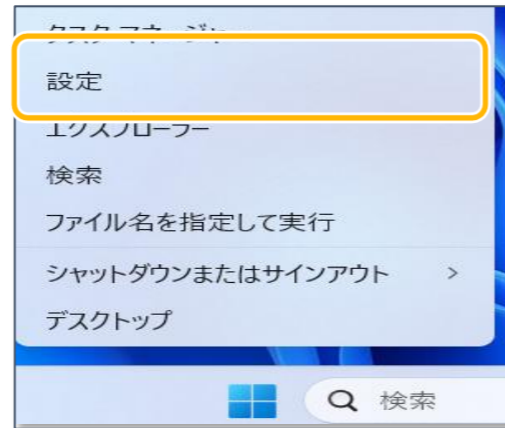
参照先 別紙 トラブルシューティング 補26 コンピューター名を変更したい

補17 配信アプリケーションが動作しない (つづき)

配信サーバーへの接続が安定しない

配信サーバーへの接続に成功と失敗を繰り返すなど、ネットワーク接続が安定しない場合、自動プロキシをオフにすることで安定する場合があります。

- 1 スタートボタンを右クリックし、表示されるメニューから**設定**をクリックします。



- 2 Windowsの設定が表示されます。

ネットワークとインターネットをクリックします。



- 3 状態が表示されます。
プロキシをクリックします。



- 4 プロキシが表示されます。

自動プロキシ セットアップの設定を自動的に検出するの設定を無効 (トグルボタンが左側にある) にします。



補18 顔認証付きカードリーダーアプリケーションが動作しない

顔認証付きカードリーダーアプリケーションが動作しない場合、以下の設定を見直すことで解決する可能性があります。

アカウントの設定が誤っている

顔認証付きカードリーダーアプリケーション専用のアカウントが必要です。
アカウントのユーザーIDはF0から始まります。
操作マニュアル(管理者編)を参照し、顔認証付きカードリーダーアプリケーション専用のアカウントが作成されているか確認してください。

- 参照先** 操作マニュアル(管理者編)
- 第2章 アカウントを管理する
 - 3 アカウントを更新する

顔認証付きカードリーダーアプリケーション専用のアカウントが作成されていない場合は作成し、アカウントの再設定を行ってください。

- 参照先** 利用している顔認証機器ベンダーのマニュアル

顔認証付きカードリーダーアプリケーションの接続先が誤っている

顔認証付きカードリーダーアプリケーションは本番環境と接続検証環境の2つの接続先があります。
資格確認端末環境切替え手順書を参照し、接続先の確認と切替えを行ってください。

- 参照先** 資格確認端末環境切替え手順書
- 接続先の確認
 - 顔認証機器の環境切替え

ネットワークが正しく設定されていない

以下の設定をご確認ください。

- LANが抜けていないか
- 医療機関等向け総合ポータルサイト上のお知らせを確認いただき、オンライン資格確認等システムに障害が発生していないか

資格情報マネージャーに設定する値が誤っている

顔認証付きカードリーダーアプリケーションが利用する証明書は1つの想定です。

証明書が複数ある場合、以下のWindowsの資格情報マネージャーに設定した医療機関コードを持つ証明書が使用されます。

| 設定内容 | インターネットまたはネットワークのアドレス | ユーザー名 | パスワード |
|---------|------------------------------|-----------|----------------|
| 医療機関コード | OQS_MEDICAL_INSTITUTION_CODE | OQS_Admin | 変更後の医療機関コード10桁 |

上記設定値が誤っている場合、又は未設定の場合、登録されている証明書の中で最も終了日が遠いものが選択されます。

また、上記設定値の変更は以下を参照してください。

- 参照先** 補8 医療機関コードが変更になった場合

PC起動時に顔認証付きカードリーダーアプリケーションでエラーが発生している**01 タスク スケジューラによる自動の再起動でエラーとなる場合**

顔認証付きカードリーダーアプリケーションはPC起動時にログイン処理を行います。
ログイン処理においてエラーが発生している場合、PCの再起動タスクの時間帯の見直しを行ってください。

- 参照先** 医療機関等向けセットアップ手順書（資格確認端末編）
- 手順3 Windowsの設定を変更する（配信アプリケーション準備等）
 - 再起動スケジュールを追加します

補18 顔認証付きカードリーダーアプリケーションが動作しない (つづき)

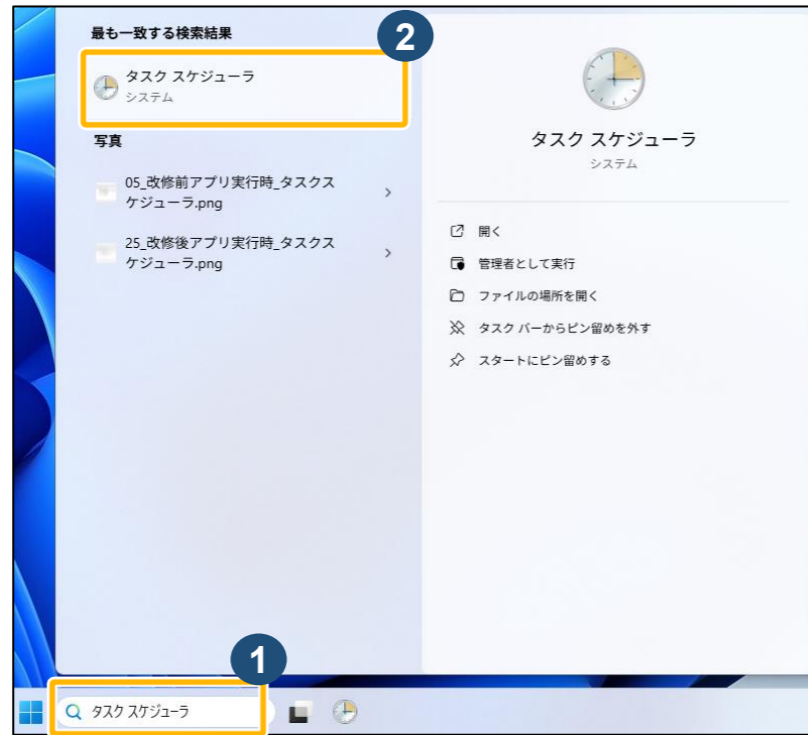
02 アプリケーションのタスクが重なりエラーとなる場合

顔認証付きカードリーダーアプリケーションの起動タスクと連携アプリケーションのタスクの起動タイミングが重なり、顔認証付きカードリーダーアプリケーションの起動タスクが実行失敗する場合があります。
連携アプリケーションのタスクの遅延設定を変更します。

1 タスクバーにある**検索ボックス**をクリックし、検索ボックスに**タスクスケジューラ**と入力します。

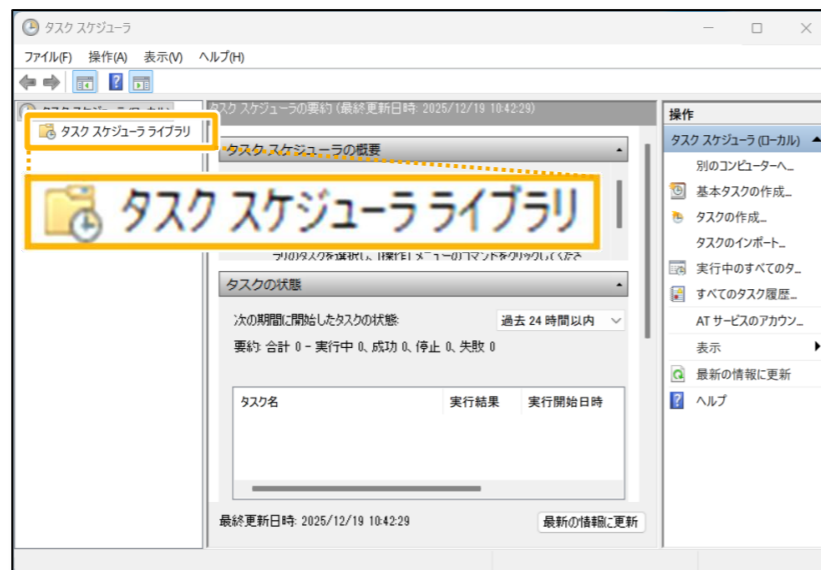
▲ 半角又は全角スペースを入れてください。

2 検索結果から、**タスクスケジューラ**をクリックします。



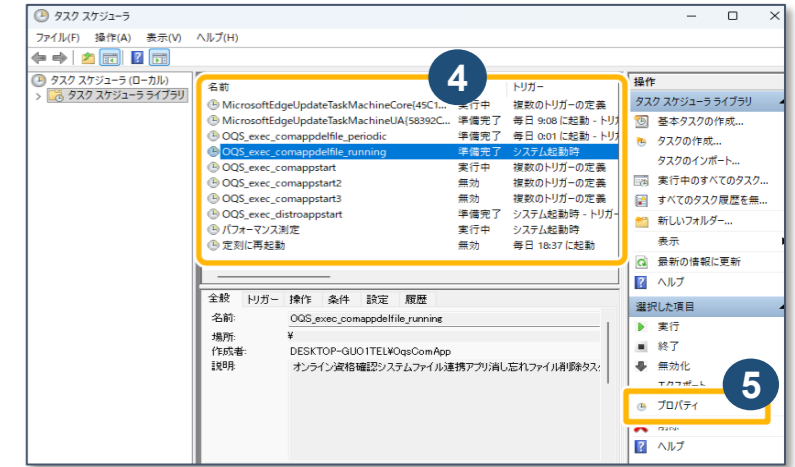
3 タスクスケジューラが表示されます。

左側の領域から、**タスクスケジューラライブラリ**をクリックします。



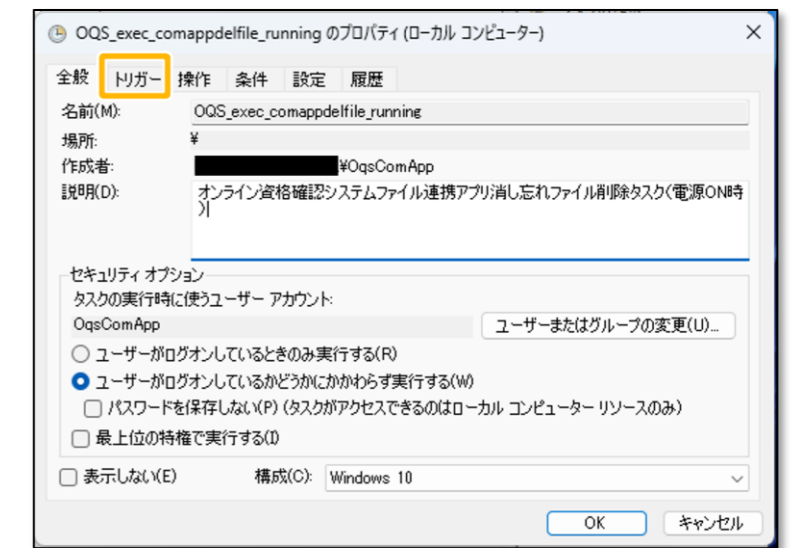
4 PC起動時の消し忘れファイル機能起動タスクの**OQS_exec_comappdefile_running**をクリックします。

5 **プロパティ** をクリックします。



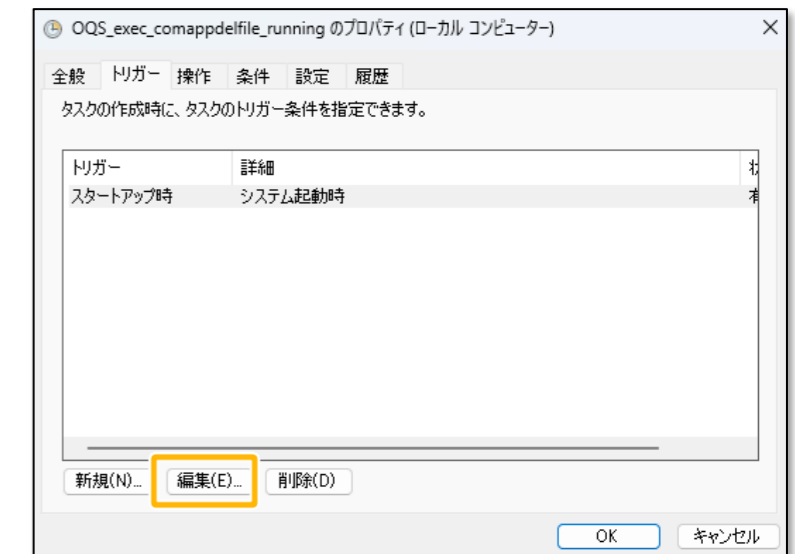
6 タスクのプロパティが表示されます。

トリガータブをクリックします。



7 **トリガー**が表示されます。

編集をクリックします。



8へ進む

補18 顔認証付きカードリーダーアプリケーションが動作しない (つづき)

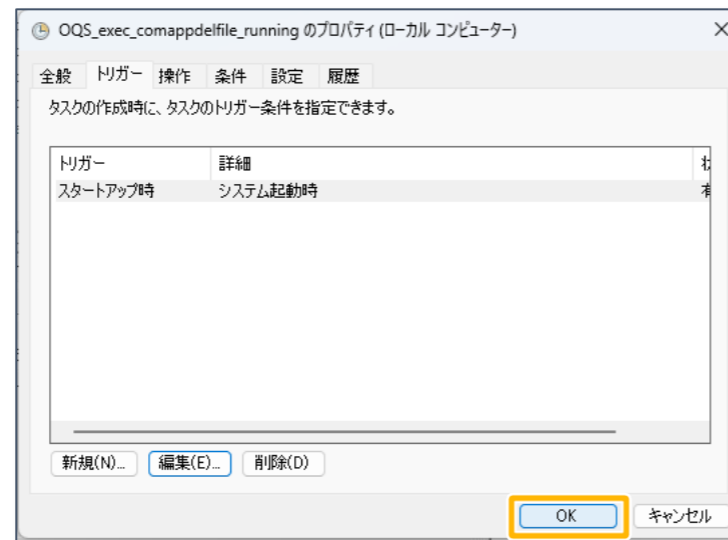
- 8 トリガーの編集が表示されま
す。

遅延時間を指定するにチェッ
クが入っているか確認します。

入っていない場合は**チェック**
を入れ、「40 秒間」を入力
します。

- 9 OKをクリックします。

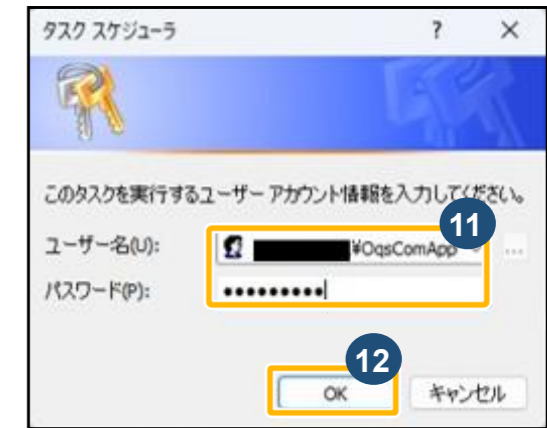
- 10 トリガーが表示されます。
OKをクリックします。



- 11 タスクを実行する実行アカウ
ントの入力が表示されます。

ユーザー名とパスワードを入
力します。

- 12 OKをクリックします。

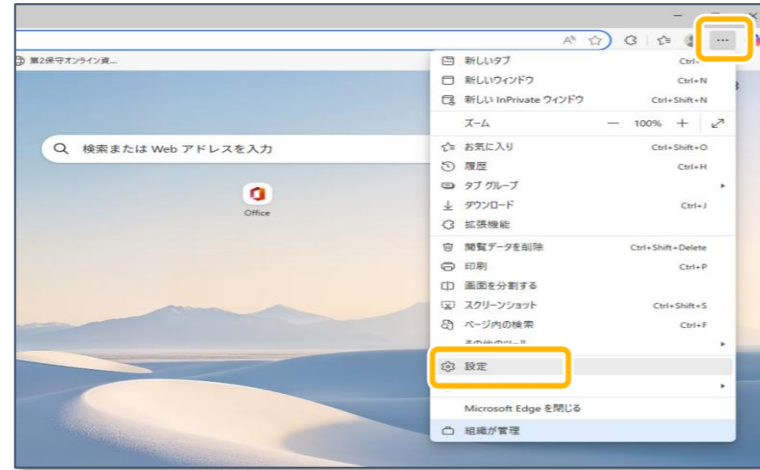


補18 顔認証付きカードリーダーアプリケーションが動作しない (つづき)

電子証明書の有効期限が切れている

顔認証付きカードリーダーアプリケーションを利用するに当たり、電子証明書が有効である必要があります。期限が切れていないかご確認ください。

1 Microsoft Edgeを起動し、**設定** (設定など) から**設定**をクリックします。



2 設定が表示されます。

プライバシー、検索、サービスから**セキュリティ**をクリックします。



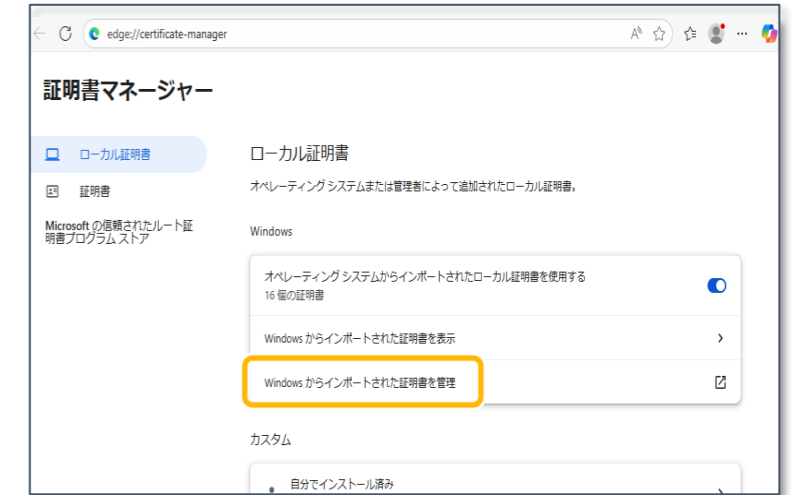
3 セキュリティが表示されます。

証明書の管理をクリックします。



4 証明書マネージャーが表示されます。

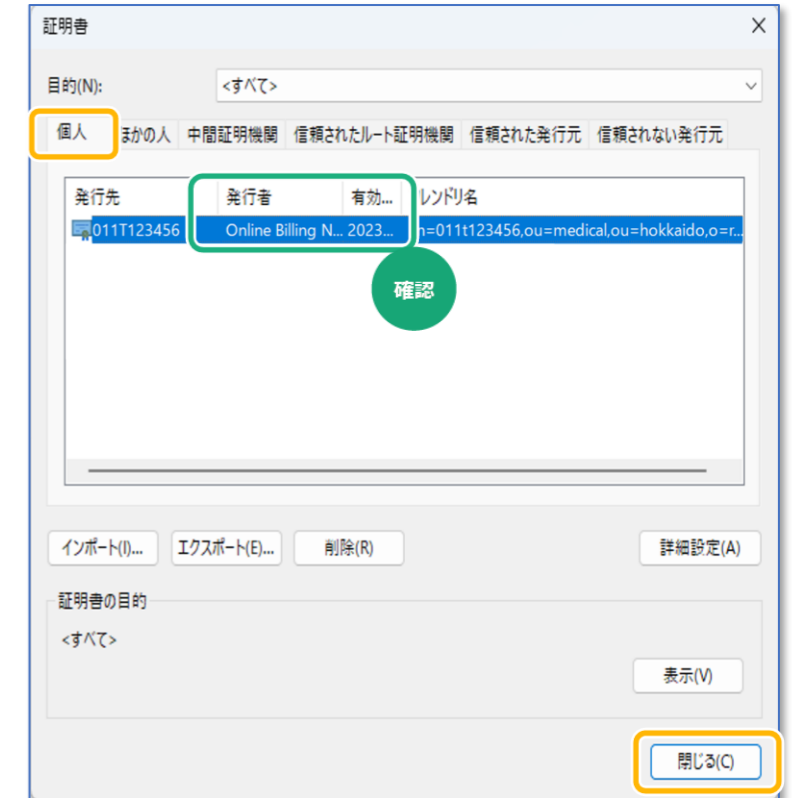
ローカル証明書から**Windows からインポートされた証明書を管理**をクリックします。



5 証明書が表示されます。

個人タブに、発行者が**Online Billing NW Common Root CA**と表示されている証明書が登録されており、**有効期限**が切れていることを確認します。

確認後、**閉じる** をクリックします。



証明書が存在しない場合、期限が切れている場合は、医療機関等向けセットアップ手順書 (資格確認端末編) を参照し設定してください。

参照先 医療機関等向けセットアップ手順書 (資格確認端末編) - 操作6 認証局の電子証明書をインストールする

補18 顔認証付きカードリーダーアプリケーションが動作しない (つづき)

配信アプリケーションを利用したバージョンアップ後に顔認証がエラーとなる

顔認証付きカードリーダーアプリケーションが起動中に配信でバージョンアップされた際、顔認証の処理が失敗する場合があります。
配信でバージョンアップが行われているか確認し、資格確認端末の再起動を行ってください。

- 1 タスクバーにある**検索ボックス**をクリックし、検索ボックスに**コントロールパネル**と入力します。

▲ 半角又は全角スペースを入れてください。

- 2 検索結果から、**コントロールパネル**をクリックします。



- 3 コントロールパネルが表示されます。

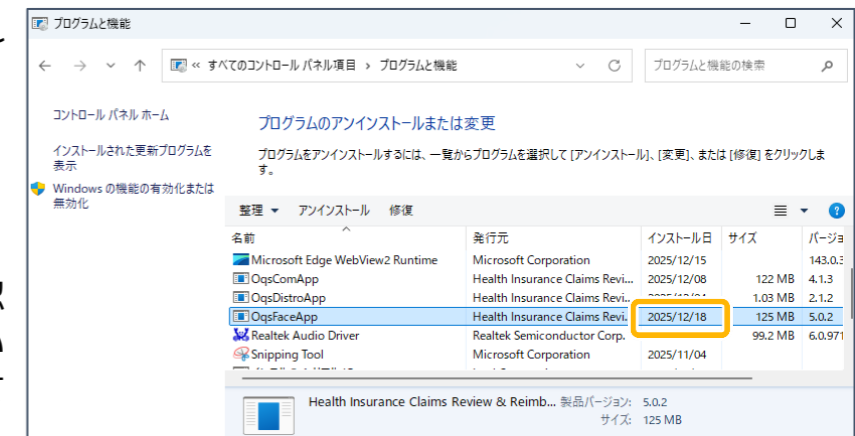
プログラムのアンインストールをクリックします。



- 4 プログラムと機能が表示されます。

OqsFaceAppのインストール日を確認します。

インストール日から資格確認端末の再起動を行っていない場合、再起動を行ってください。



結果ファイル格納ディレクトリへの出力エラーになる

顔認証付きカードリーダーアプリケーションにて、結果ファイルの書き込みが行えておりません。以下の設定の見直しを行ってください。顔認証DLLの設定は、顔認証DLL定義説明書を参照してください。

- 顔認証付きカードリーダーアプリケーションが指定した結果ファイル格納フォルダーとレセコン等の結果ファイル取得先ディレクトリが一致していること。
- 結果ファイル格納ディレクトリにアクセス権限が付与されていること。
- 結果ファイル格納ディレクトリに共有設定がされていること。

以下は、定義ファイルを変更された方が対象です。
定義ファイルについては、顔認証DLL定義説明書を参照してください。

- 顔認証付きカードリーダーアプリケーションで指定した結果ファイル格納ディレクトリのパスに日本語が含まれる場合、定義ファイルが文字コードShift-JISで保存されていないこと。
- 各種定義ファイルがBOM付きで保存されていないこと。

参照先 → 顔認証DLL定義説明書

補19 1つの資格確認端末にて複数のアカウントを使用したい

1台の資格確認端末を複数の職員で共有する場合で、職員ごとにWindowsのログインIDを切り替えて使用するとき (マルチアカウント) は、以下の操作を職員数分実施してください。

1. 医療機関等向けセットアップ手順書 (資格確認端末編) の「操作1 Windows11にユーザーアカウントを追加する」～「操作7 オンライン資格確認等システムに接続する」の実施

ただし、以下については、OqsComAppアカウントで実行済みのため必要ありません。

- ・ブラウザ拡張ツールを実行します
- ・連携アプリケーションのインストール

参照先

医療機関等向けセットアップ手順書 (資格確認端末編)

2. ブラウザー設定ツール (InternetPropertySetting.zip) の実施

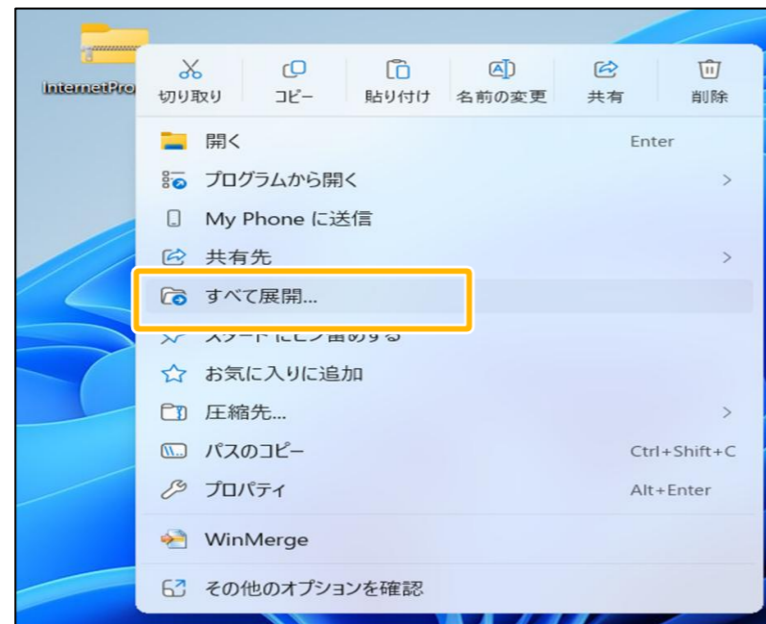
医療機関等ベンダーよりブラウザ設定ツール (InternetPropertySetting.zip) を入手の上、OqsComAppのアカウント以外の全てのアカウントで当手順に従って対応してください。

※ OqsComAppアカウントでは、資格確認端末のセットアップ手順書の操作2 ブラウザー拡張ツール (OqsFaceApp) 実行時にブラウザ設定ツール実行と同様の設定が行われます。

ブラウザ設定ツールを実行します

医療機関等ベンダーよりブラウザ設定ツール (InternetPropertySetting.zip) を入手、実行し、ブラウザ設定を行います。

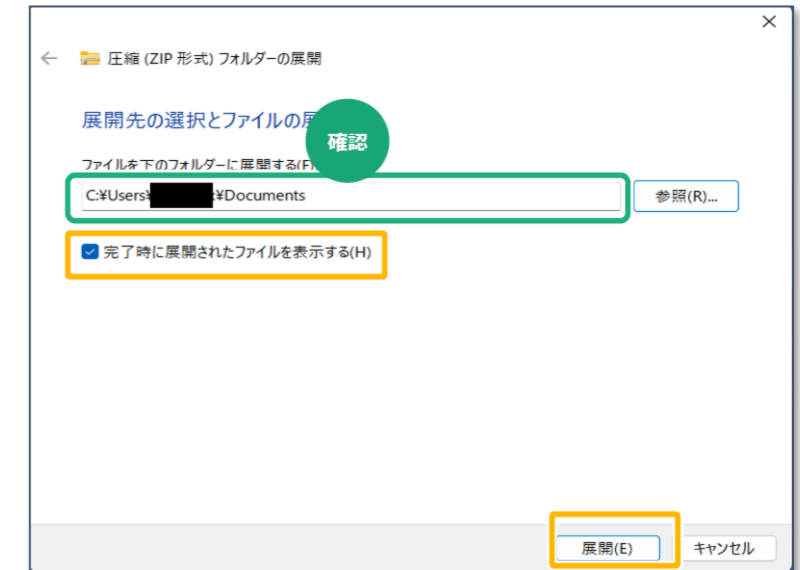
- 1 医療機関等ベンダーより入手したブラウザ設定ツール (InternetPropertySetting.zip) をデスクトップにコピーし、右クリックして、**すべて展開**を選択します。



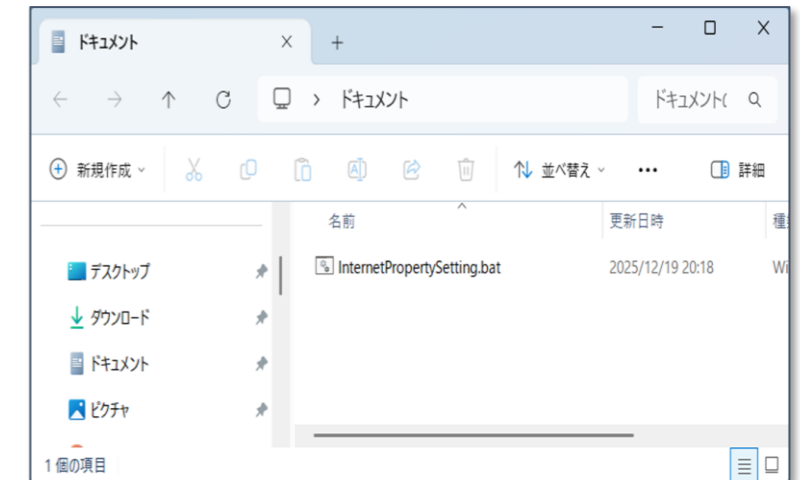
- 2 展開先の選択画面が表示されます。任意の展開先を選択します。

完了時に展開されたファイルを表示するにチェックを入れます。

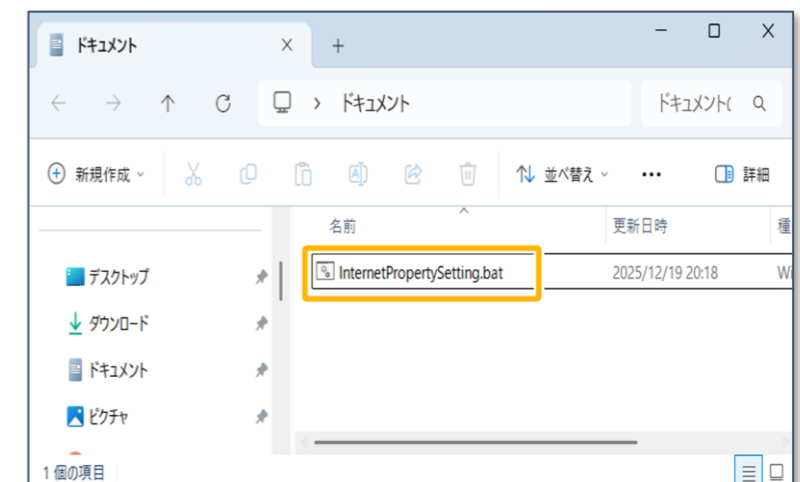
展開をクリックします。



- 3 展開が完了すると、フォルダが表示されます。



- 4 InternetPropertySetting.batが表示されます。



5 へ進む

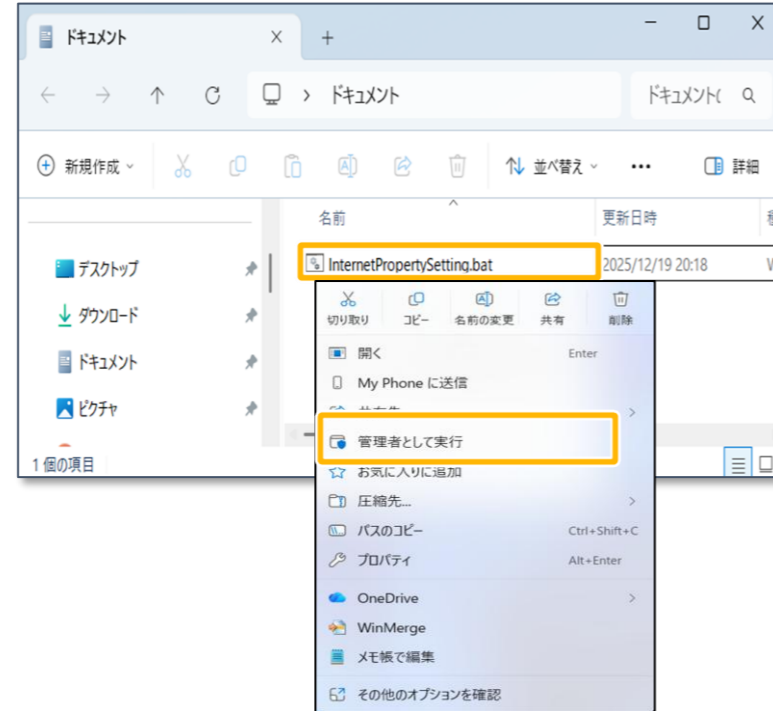
補19 1つの資格確認端末にて複数のアカウントを使用したい (つづき)

- 5 InternetPropertySetting.bat を右クリックし、表示されるメニューから**管理者として実行**をクリックします。

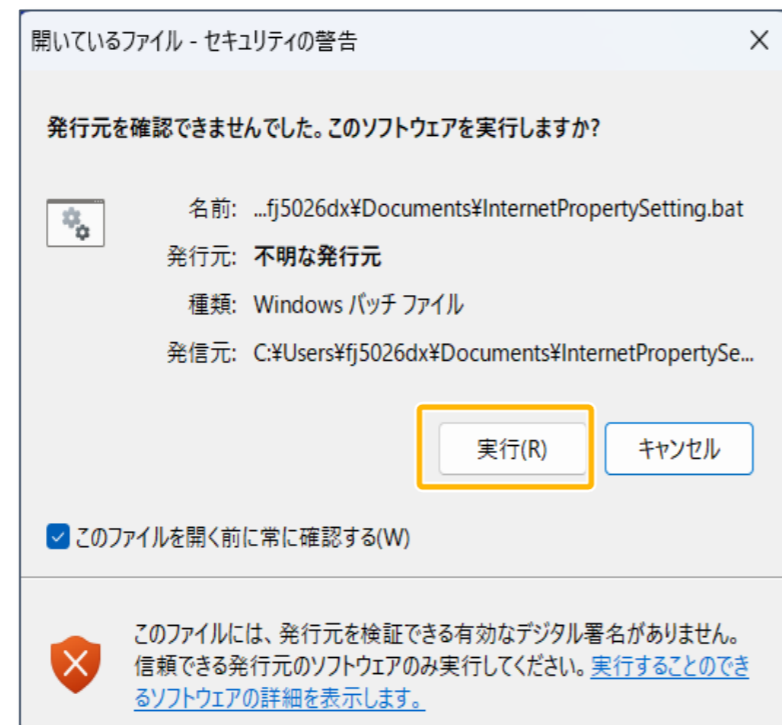
💡 こんなときは!

メッセージ画面が表示された場合

このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか? というメッセージ画面が表示された場合は、**はい** をクリックしてインストールを続行します。



- 6 開いているファイル-セキュリティの報告が表示されます。
実行 をクリックします。



- 7 ファイルが実行され、処理完了です。

補20 顔認証にて出力された結果ファイルを削除したい

結果ファイルを削除するためには、連携アプリケーション（OqsComApp）のインストールが必要です。

以下のマニュアルを参照してください。

参照先

医療機関等向けセットアップ手順書（資格確認端末編）
操作5 連携アプリケーションをインストールする

連携アプリケーション導入手順書

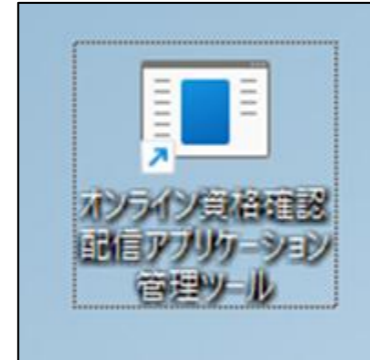
- 4.1 資格情報マネージャーの設定（NAS等を利用の場合）
- 5. 連携アプリケーションの定期起動の設定

補21 導入アプリケーションの最新バージョン情報について

オンライン資格確認等システムで利用するアプリケーションについて、配信リリースしている最新のバージョンは医療機関等向け総合ポータルサイトから確認可能です。

なお、資格確認端末にインストールしているアプリケーションのバージョンは、以下の手順で確認できます。

- 1 スタートメニュー又はショートカットから**オンライン資格確認配信アプリケーション管理ツール**を起動します。

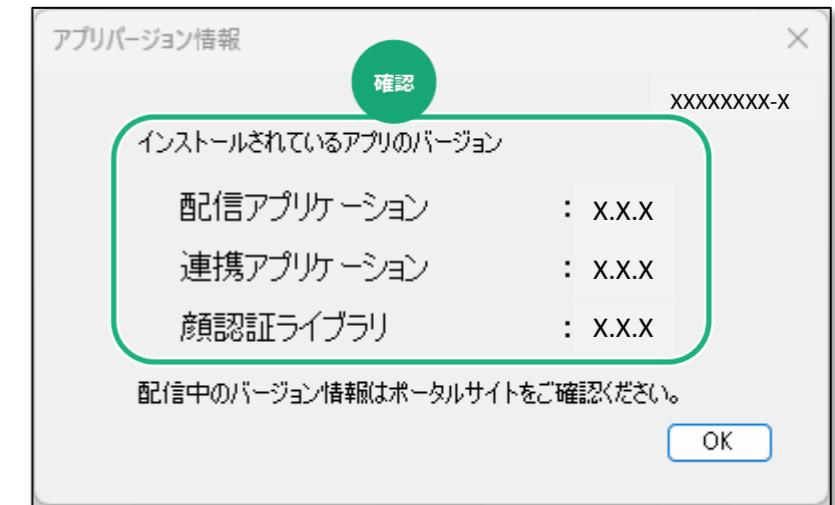


- 2 オンライン資格確認配信アプリケーション管理ツールが表示されます。

アプリバージョン情報をクリックします。



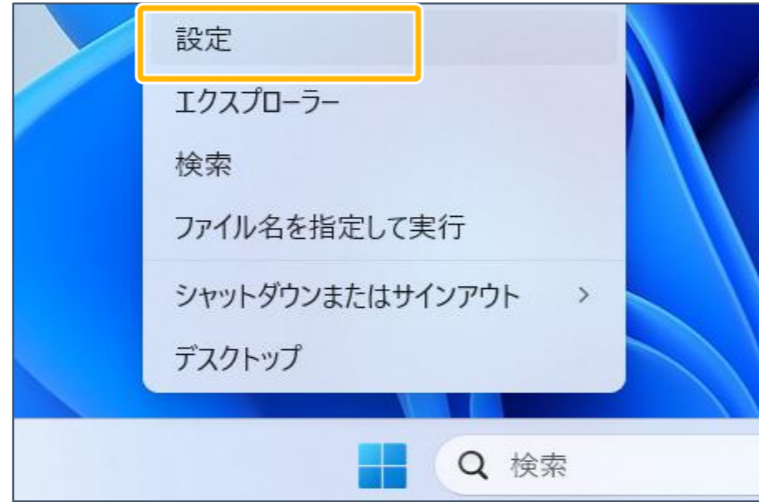
- 3 各アプリのバージョンが表示されます。



補22 Windows Updateが実施可能であるか確認したい

Windows Updateが実施可能であるか以下の手順で確認できます。

- 1 スタートボタンを右クリックし、表示されるメニューから**設定**をクリックします。



- 2 Windowsの設定が表示されます。

Windows Update をクリックします。



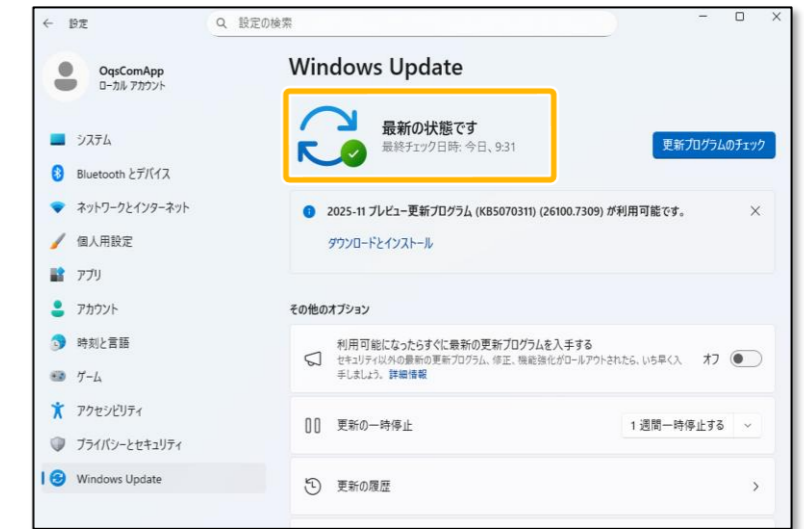
- 3 Windows Updateが表示されます。

更新プログラムのチェックをクリックします。



- 4 利用可能な更新プログラムがなく、最新の場合

「**最新の状態で**」と「**最終チェック時刻**」が更新プログラムのチェックボタンをクリックした時間以降であれば最新のWindows Updateが適用されています。



利用可能な更新プログラムがある場合

「**利用可能な更新プログラム**」の一覧が表示され、ダウンロードが始まり、一定時間後にWindows Updateが適用されます。



こんなときは!

Window10の場合
更新とセキュリティ をクリックします。

補22 Windows Updateが実施可能であるか確認したい（つづき）

エラーが発生した場合



上記のようにエラーが発生した場合、使用する回線に応じて対処方法が異なります。
構成の分類は、医療機関等向けセットアップ手順書（資格確認端末編）を参照してください。

参照先

医療機関等向けセットアップ手順書（資格確認端末編）
操作3 Windowsの設定を変更する（配信アプリケーション準備等）

配信拠点起点の場合

医療機関等向けセットアップ手順書（資格確認端末編）をご参照いただき、
プロキシの設定に誤りがないかご確認ください。

参照先

医療機関等向けセットアップ手順書（資格確認端末編）
操作3 Windowsの設定を変更する（配信アプリケーション準備等）

ネットワーク事業者起点の場合

提供するネットワーク事業者にお問い合わせください。

医療機関等起点の場合

医療機関システム管理者、もしくはシステムベンダーへお問い合わせください。

ネットワークの設定に問題がない場合、マイクロソフト社へお問い合わせください。

補23 ネットワーク接続確認ツールでエラーが表示される

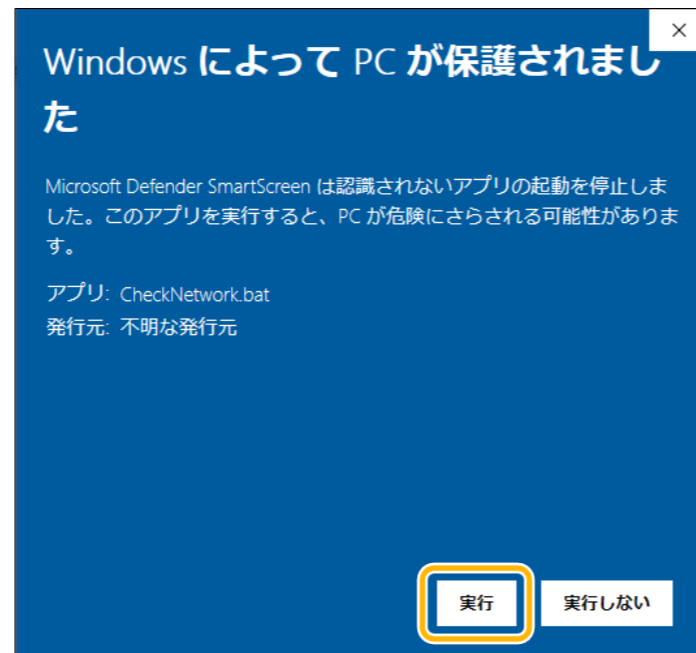
ネットワーク接続確認ツールを利用するに当たり、以下の事象が発生した場合の対処法を示します。

ツール起動時に「WindowsによってPCが保護されました」と表示される

- 1 詳細情報 をクリックします。



- 2 実行 をクリックします。



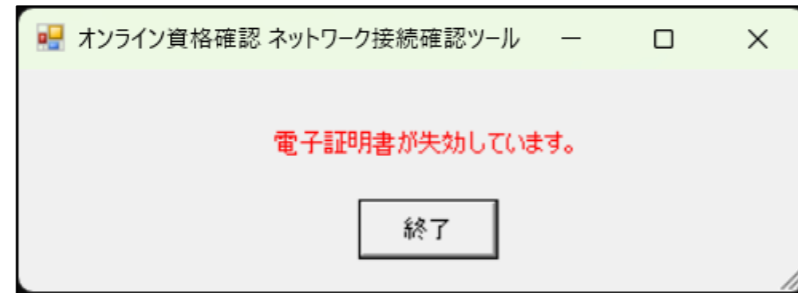
ツール起動時に「現在、SmartScreenを使用できません」と表示される

- 1 実行 をクリックします



補23 ネットワーク接続確認ツールでエラーが表示される（つづき）

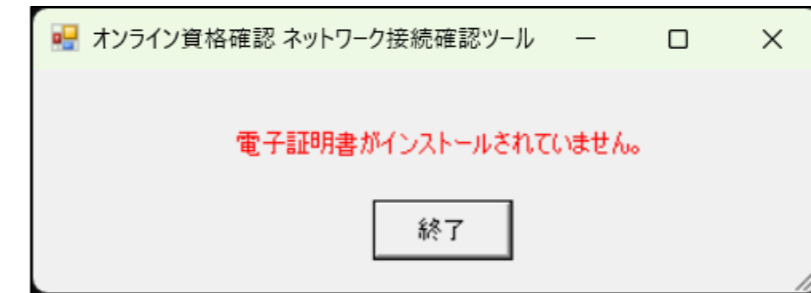
ツール起動時に「電子証明書が失効しています。」が表示される



ツールの実行には有効なオンライン請求ネットワーク関連システム共通認証局電子証明書が必要となります。
電子証明書の取得、更新等の手順については、「**オンライン請求ネットワーク関連システム共通ユーザーマニュアル**」を参照してください。

参照先 ▶ オンライン請求ネットワーク関連システム共通ユーザーマニュアル

ツール起動時に「電子証明書がインストールされていません。」が表示される



ツールの実行にはオンライン請求ネットワーク関連システム共通認証局電子証明書が必要となります。
本メッセージが出力される場合は以下の原因が考えられます。

- **ログインユーザーが医療機関等向けセットアップにて作成した管理者ユーザーではない**
医療機関等向けセットアップにて作成した管理者ユーザー（OqsComApp）にてログインしていることを確認してください。
- **電子証明書がインストールされていない**
「医療機関等向けセットアップ手順書（資格確認端末編）」の「認証局の電子証明書をインストールする」を参照の上、電子証明書が正常にインストールされていることを確認してください。

補24

DNSラウンドロビン未対応機器のNTP設定について

配信拠点のNTPサーバー（ntp.base.oqs-pdl.org）はDNSラウンドロビンにより、複数のIPアドレスを応答します。

ネットワーク機器等の時刻設定に際し、ご使用の機器がDNSラウンドロビンに対応していない場合は、以下を指定してください。

● IP-VPN接続方式をご利用の場合

- ntp1.base.oqs-pdl.org
- ntp2.base.oqs-pdl.org

● IPsec + IKEサービス提供事業者をご利用の場合

- ntp1v4.base.oqs-pdl.org
- ntp2v4.base.oqs-pdl.org

NTPサーバーの設定方法については、医療機関等向けセットアップ手順書をご確認ください。

参照先

医療機関等向けセットアップ手順書（資格確認端末編）
操作3 Windowsの設定を変更する（配信アプリケーション準備等）
時刻の設定を変更します

補25

各種アプリケーションのバージョンを今すぐ最新化したい

配信アプリケーションの「今すぐダウンロード」機能を使用することで、任意のタイミングで配信アプリケーション、顔認証ライブラリ、連携アプリケーション・顔認証付きカードリーダーアプリケーションを最新バージョンにアップデートをすることが可能です。

ただし、配信アプリケーションの自動更新を停止している方は、「今すぐダウンロード」機能は使用できません。アップデートは手動にて行ってください。

注意

手動でアップデートを行った場合、配信アプリケーションの配信実績は更新されません。

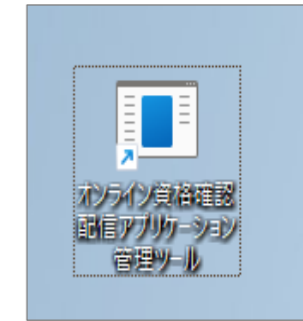
「今すぐダウンロード」は、配信アプリケーション、顔認証ライブラリ、連携アプリケーション・顔認証付きカードリーダーアプリケーションの順でアップデートを行っていきます。ただし、すでに最新バージョンになっている場合、該当のアプリケーションのアップデート作業は行いません。また、ダウンロードしたものはPC再起動後に最新化されます。

アプリケーションのダウンロード順

各種アプリケーションは以下の優先度でダウンロードされます。また、1つずつダウンロードされるため、全て最新化する場合は、複数回再起動を行う必要があります。



- 1 スタートメニュー又はショートカットから**オンライン資格確認配信アプリケーション管理ツール**を起動します。



注意

オンライン資格確認配信アプリケーション管理ツールはOqsComAppユーザーでのみ実行してください。

- 2 オンライン資格確認配信アプリケーション管理ツールが表示されます。

今すぐダウンロードをクリックします。

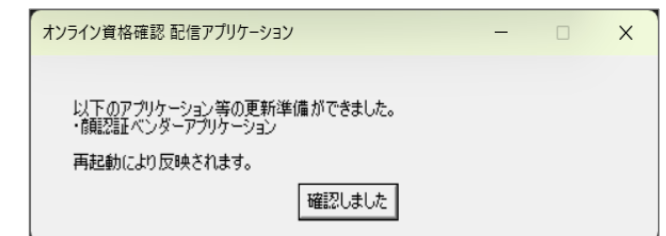
注意

今すぐダウンロードを再度クリックする場合は、前回のクリックから1分以上間をおいてから実施してください。



- 3 再起動通知が表示されます。

再起動通知が表示され次第、資格確認端末を再起動していただいて問題ありません。



注意

再起動通知は、配信アプリケーションのバージョンが1.0.9以降の場合、表示されます。1.0.8以前の場合は、1回のアップデートには、ダウンロード及びインストールに20分程度要するため、時間をおいてから再起動を行ってください。バージョンアップできていない場合、再度時間をおいて再起動してください。

補26 コンピューター名を変更したい

コンピューター名を変更した場合、タスクスケジューラを再設定する必要があります。
他タスクスケジューラより下記、対象のタスクを削除した後、改めてタスクの登録を行ってください。

| ファイル名 | 用途 |
|-------------------------------------|-----------------------------|
| OQS_exec_comappdelfile_periodic.xml | 消し忘れファイル機能定期実行用タスクファイル |
| OQS_exec_comappdelfile_running.xml | 消し忘れファイル機能 PC 起動時実行用タスクファイル |
| OQS_exec_comappstart.xml | 連携アプリケーション定期実行用タスクファイル |
| OQS_exec_distroappstart.xml | 配信アプリケーションの起動タスクファイル |

タスクの登録については、各手順書を参照してください。

連携アプリケーションについて

参照先 ▶ 連携アプリケーション導入手順書
5. 連携アプリケーションの定期起動の設定

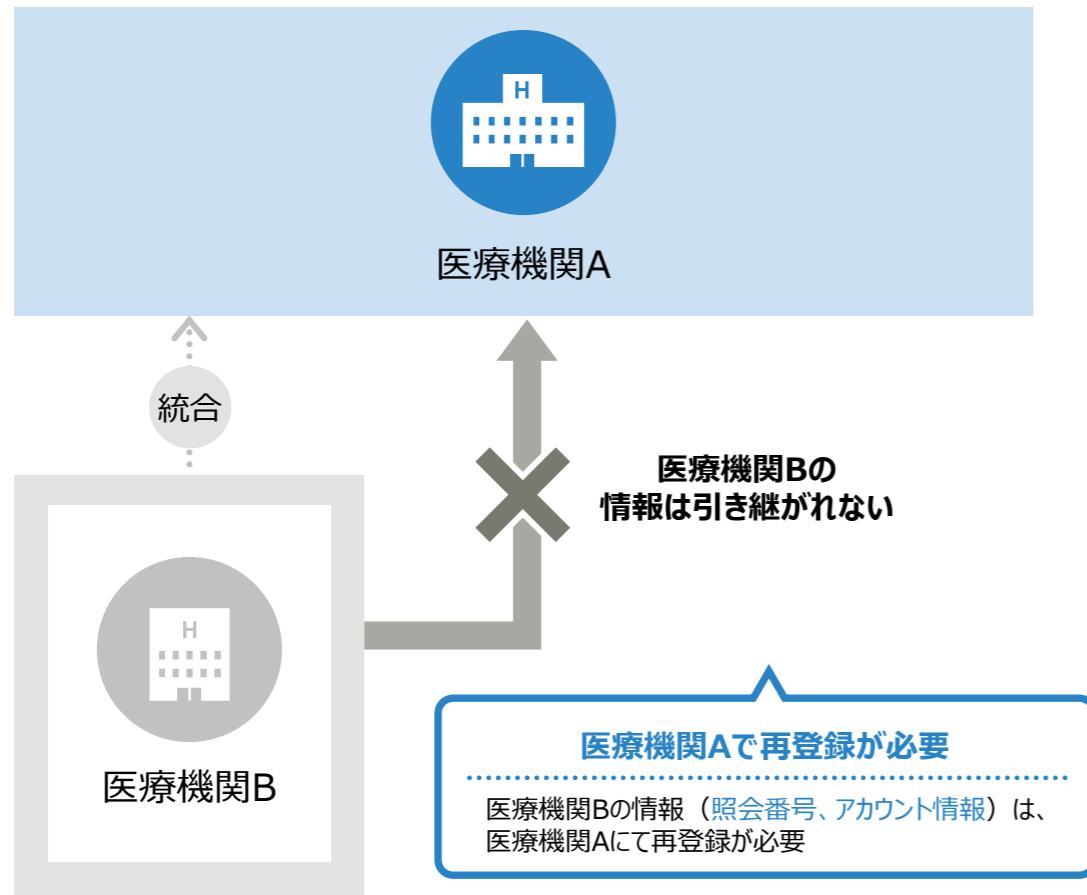
配信アプリケーションについて

参照先 ▶ 医療機関等向けセットアップ手順書（資格確認端末編）
操作11 配信アプリケーションをインストールする
- 02 タスクの登録

補27 医療機関等が統合した場合

医療機関等が統合する場合、統合の種類によって引き継がれる情報が異なります。以下に例を記載いたします。

医療機関Bが医療機関Aに統合される場合



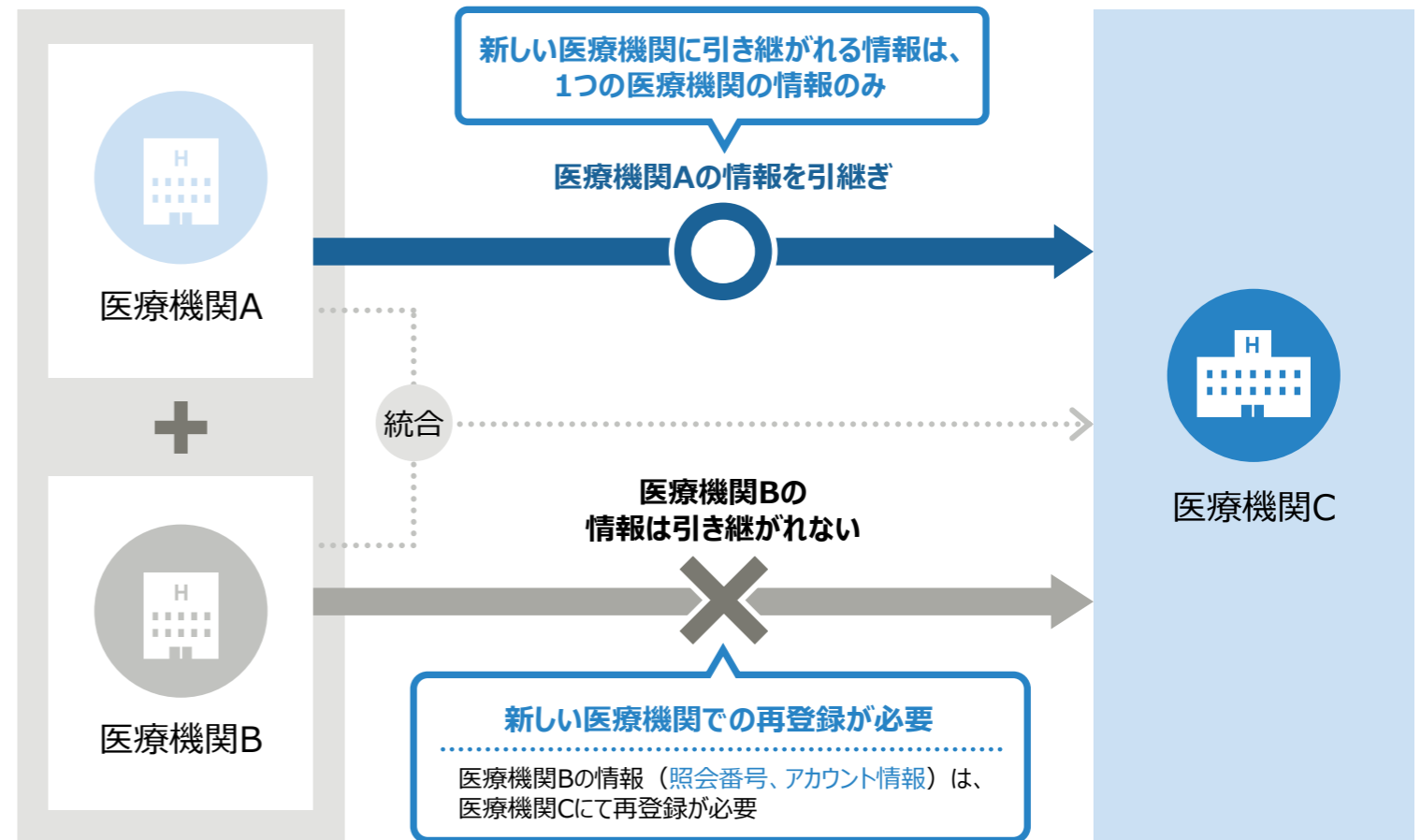
医療機関Bの以下の情報は引き継がれませんので、再登録をお願いします。

- 照会番号
- アカウント情報
- 資格確認履歴情報

また、医療機関Bで使用していた資格確認端末に関しては、以下の章を参照し、対応してください。

参照先 別紙 トラブルシューティング 補8 医療機関コードが変更になった場合

医療機関Aと医療機関Bが統合して医療機関Cとなる場合



2つ以上の医療機関等が統合され、新しい医療機関となる場合、引き継がれる情報は1つの医療機関の情報のみです。

医療機関AとBが統合し、医療機関Aの情報を引き継ぐ場合、医療機関Bの以下の情報は引き継がれないため、再登録をしてください。

- 照会番号
- アカウント情報
- 資格確認履歴情報

また、統合に当たり医療機関コードが変更になった場合は、以下の章を参照し、対応してください。

参照先 別紙 トラブルシューティング 補8 医療機関コードが変更になった場合

補28 アプリケーションのインストールに失敗した場合

最新のバージョンが適用されない等、アプリケーションのインストールに失敗した場合、以下の内容をご確認ください。

対象のアプリケーション

- OqsFaceApp (拡張プラグインインストーラー)
- OqsComApp (連携アプリケーションインストーラー)
- OqsDistroApp (配信アプリケーションインストーラー)

確認事項

インストールが実行できないパスについて

実行ディレクトリのパスに以下の文字を含む場合、インストーラーを実行できません。

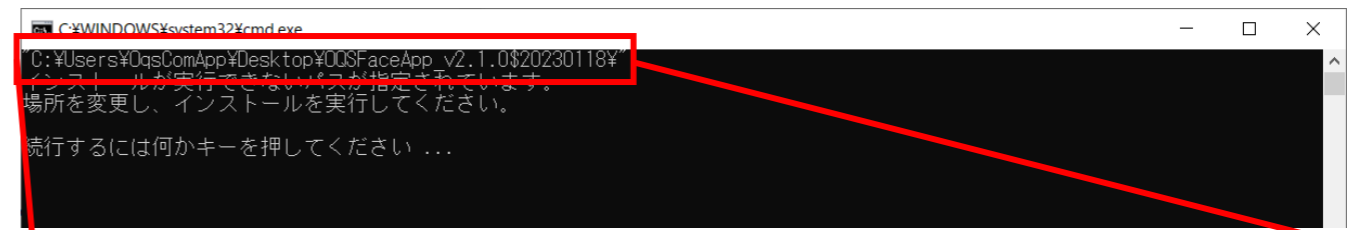
●使用できない文字の代表例

| | | | |
|-----------------|----------------|----------------|-----------------|
| ! | \$ | & | (|
|) | = | ^ | [|
| { | } | ; | スペース
(全角、半角) |
| '
(シングルクォート) | "
(ダブルクォート) | `
(バッククォート) | '
(カンマ) |

※上記以外にも、記号や環境依存文字を含む場合、エラーが発生することがあります。

●エラー発生例

install.batを実行した場合、以下の画面が表示されます。

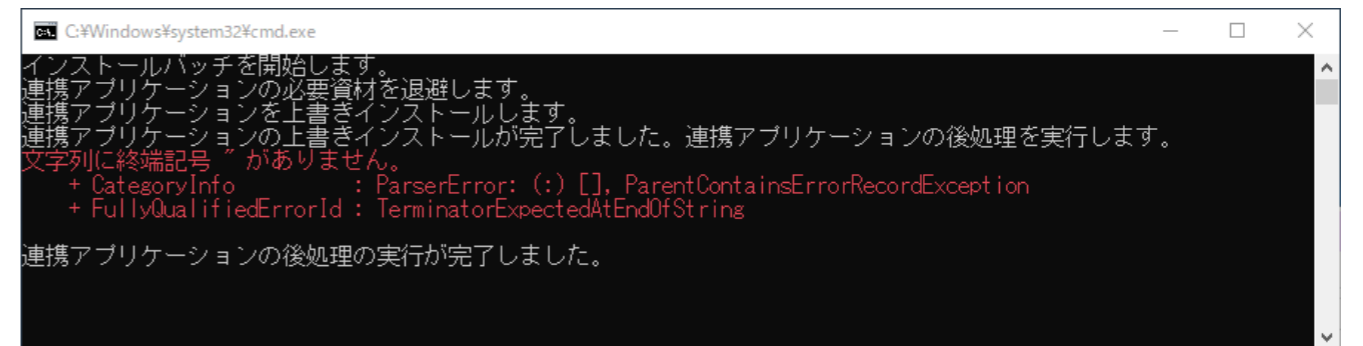


使用できない文字を含む実行ディレクトリのパス例

“C:¥Users¥OqsComApp¥Desktop¥OQSFaceApp_v2.1.0\$20230118¥”

使用できない文字である \$ が含まれているためインストールは実行できない

※使用できない文字の代表例以外の記号や環境依存文字等でエラーが発生した場合は、以下のように赤文字でエラーが表示されます。

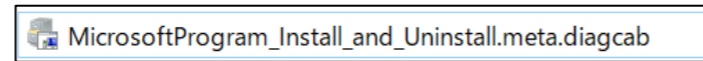


上記のようなエラーが発生した場合は、使用できない文字を含まない実行ディレクトリに、インストーラーを展開して実行してください。

インストール中に問題が発生した場合

- 1 トラブルシューティングツール (MicrosoftProgram_Install_and_Uninstall.meta.diagcab) は医療機関等ベンダーにてダウンロードしていただき、入手してください。

- 2 アイコンをクリックします。

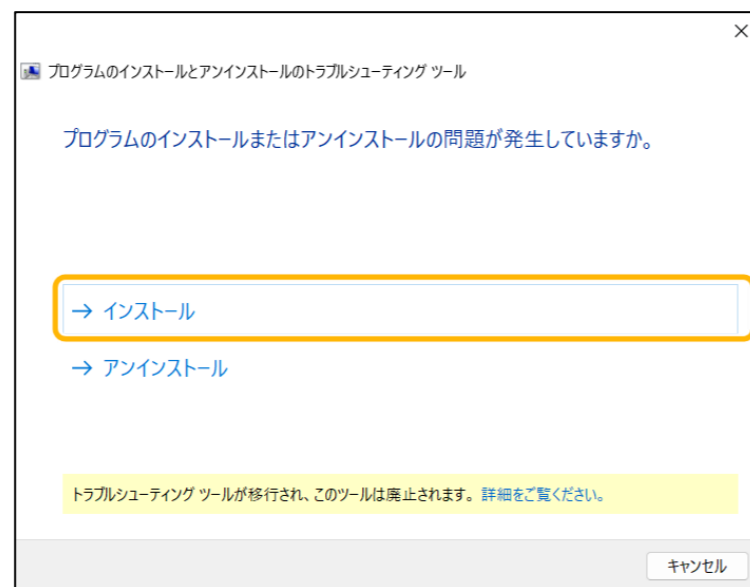


- 3 プログラムのインストールとアンインストールのトラブルシューティングツールが表示されます。

次へをクリックします。



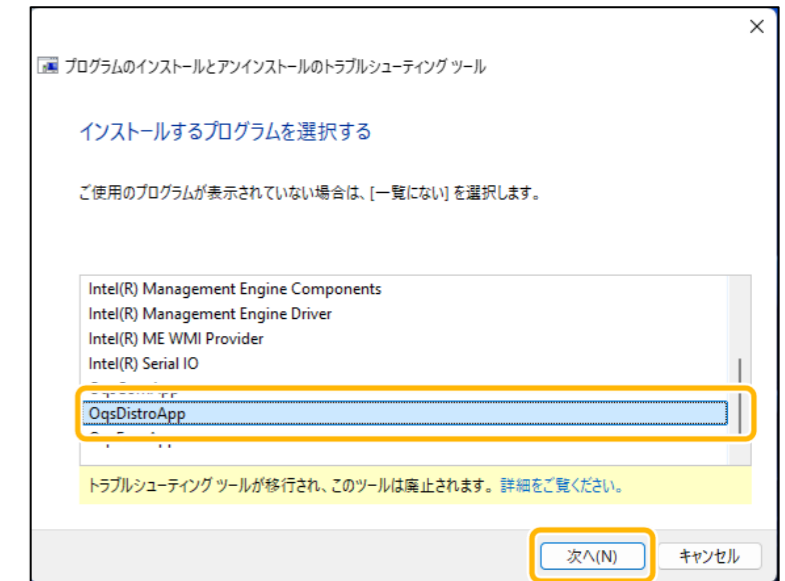
- 4 インストールをクリックします。



- 5 プログラム一覧で対象アプリケーションの名前を選択します。

例としてOqsDistroAppを選択

次へをクリックします。



- 6 はい、アンインストールを試行するをクリックします。



- 7 いいえ をクリックします。

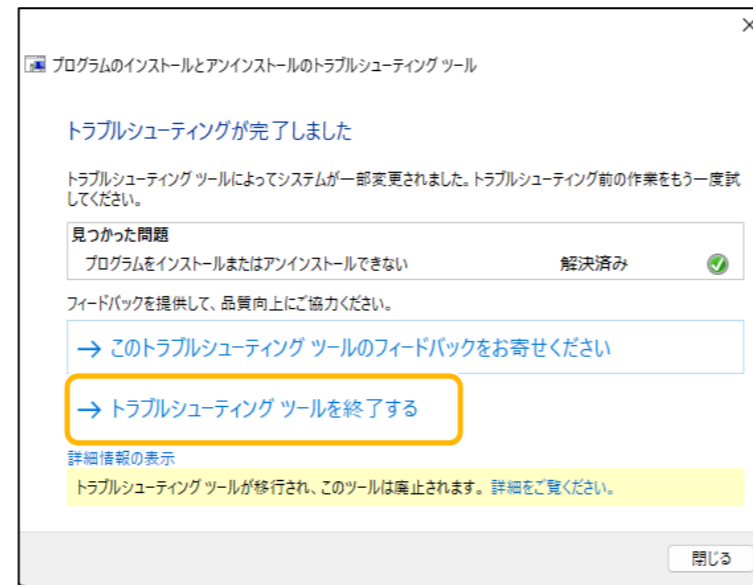


補28

アプリケーションのインストールに失敗した場合 (つづき)

- 8 **トラブルシューティングツールを終了する**をクリックします。

再度、対象のアプリケーションのインストールを実施してください。



補29 連携アプリケーション等で利用するJavaについて

連携アプリケーションで利用するJavaについては、以下の版よりインストーラーに同梱しています。

| インストーラー | バージョン |
|-----------|---------|
| OqsComApp | 1.1.0以降 |

※OqsFaceAppについては、リリース当初より同梱済みです。

補30

診療情報・手術情報が閲覧できない

診療情報・手術情報を閲覧する場合は、各医療情報を閲覧する設定となっているか確認してください。

- 1 オンライン資格確認等システムにアクセスします。



- 2 認証用の証明書の選択が表示されます。

認証用の証明書をクリックし、OK をクリックします。

💡 こんなときは！

認証用の証明書の選択画面が表示されない
証明書が正しくインストールされている
ことを確認してください。



- 3 システムの利用を始め→をクリックします。



- 4 ログイン画面が表示されます。

以下のユーザIDとパスワードを入力し、ログインをクリックします。

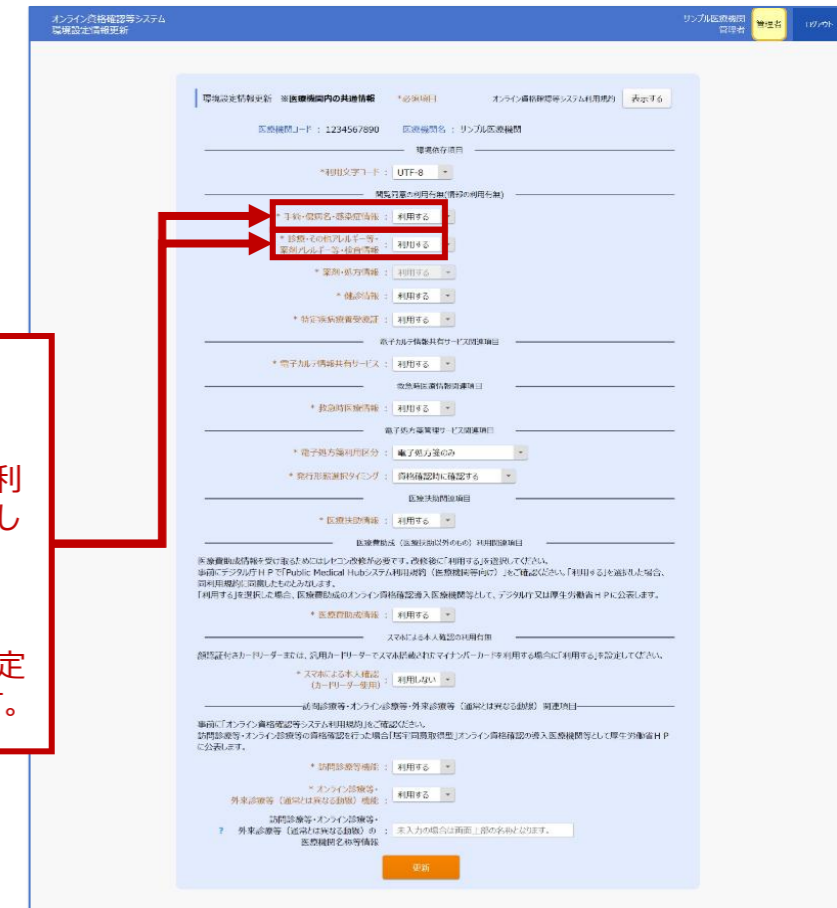
- 管理者



- 5 環境設定情報更新メニューを選択し、診療情報・手術情報の設定を確認してください。

手術情報・診療情報の設定が「利用する」になっていることを確認してください。
「利用しない」になっている場合は、「利用する」を選択し、「更新」をクリックしてください。

手術情報・診療情報については、初期設定として「利用しない」が設定されています。



補31 電子処方箋管理サービスが利用できない

電子処方箋管理サービスを利用する場合は、連携アプリケーション及び顔認証ライブラリ、顔認証付きカードリーダーアプリケーションを下記の対応バージョンにする必要があります。

| クライアントアプリケーション | バージョン |
|----------------------|----------------|
| 配信アプリケーション | 2.0.0以降 |
| 顔認証ライブラリ | 2.0.0以降 |
| 連携アプリケーション | 2.0.0以降 |
| 顔認証付きカードリーダーアプリケーション | ※各社にお問い合わせください |

こんなときは！ 顔認証で電子処方箋管理サービスを利用する
連携アプリケーションのインストールが必要です。

また、電子処方箋を利用する設定となっているか確認してください。

- 1 オンライン資格確認等システムにアクセスします。

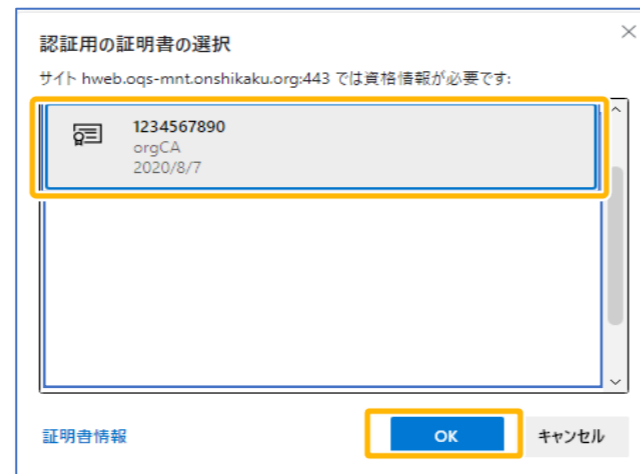


- 2 認証用の証明書の選択が表示されます。

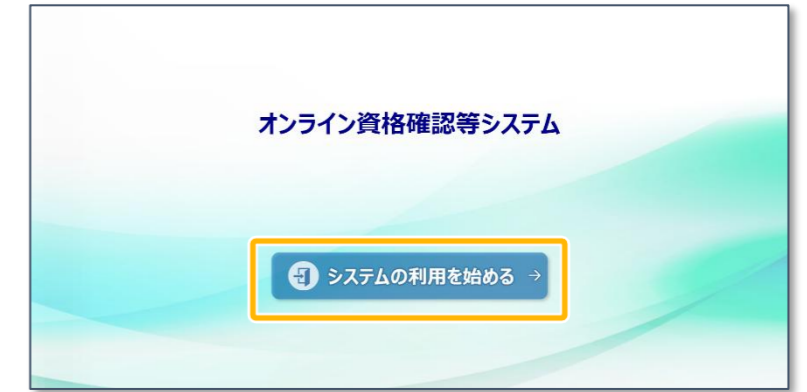
認証用の証明書をクリックし、OKをクリックします。

こんなときは！

認証用の証明書の選択画面が表示されない
証明書が正しくインストールされていることを確認してください。



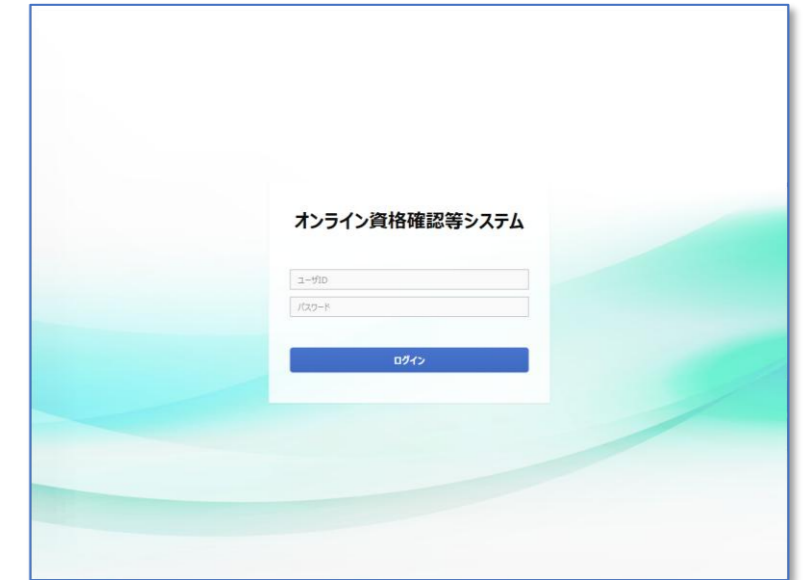
- 3 システムの利用を始める→をクリックします。



- 4 ログイン画面が表示されます。

以下のユーザIDとパスワードを入力し、ログインをクリックします。

- 管理者



医科、歯科の場合

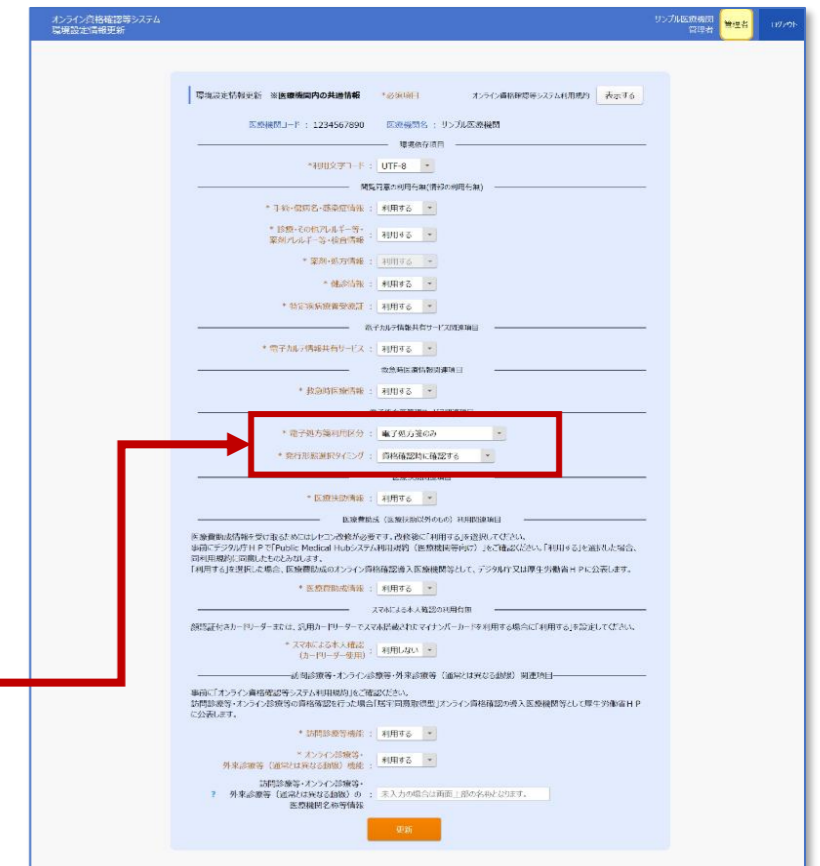
- 5 環境設定情報更新メニューを選択し、電子処方箋利用区分、発行形態選択タイミングの設定を確認してください。

電子処方箋利用区分の設定が下記のいずれかが選択されていることを確認してください。

- 電子処方箋のみ
- 電子処方箋+紙の処方箋併用
- 紙の処方箋のみ

「利用しない」になっている場合は、運用に合わせた区分を選択し、「更新」をクリックしてください。

電子処方箋利用区分については、初期設定として「利用しない」が設定されています。



補31 電子処方箋管理サービスが利用できない (つづき)

薬局の場合

6 環境設定情報更新メニューを選択し、電子処方箋の設定を確認してください。

電子処方箋の設定が「 利用する 」になっていることを確認してください。
 「 利用しない 」になっている場合は、「 利用する 」を選択し、「 更新 」をクリックしてください。
 電子処方箋については、初期設定として「 利用しない 」が設定されています。



補32 Webアプリケーションで資格確認した結果をレセコンに取り込みたい場合

Webアプリケーションで資格確認した結果をレセコンに取り込みたい場合は、以下のいずれかの方法で取り込むことができます。

（方法1）

Webアプリケーションで資格確認した結果をレセコンに手入力する。

（方法2）

Webアプリケーションで資格確認した結果（XMLファイル）をダウンロードし、レセコンがファイル監視しているフォルダーに取り込む。※詳細な手順は、レセコンベンダーにご確認ください。

補33

Windows11 Proがインストールされた端末を資格確認端末としてセットアップする場合

Windows11 Proがインストールされた端末を資格確認端末としてセットアップする場合、Windows10 IoT Enterpriseがインストールされた端末をセットアップする場合とで以下の点
が異なるため、ご注意ください。

セットアップ手順は、「Windows11 資格確認端末のセットアップ手順書」を参照してください。

主な変更点について

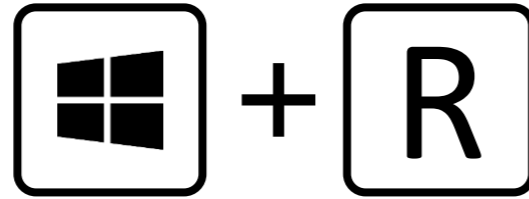
- (1) Windowsの操作や設定画面の表示方法
Windows11 Proではスタートボタンの位置やスタートメニュー、各種設定画面の
表示方法などが異なるため、記載を変更しました。
- (2) .NET Frameworkのインストール記載を削除
Windows11 Proに含まれているため、記載を削除しました。

補34

資格確認端末のWindows Updateを停止し、自動更新しないようにする

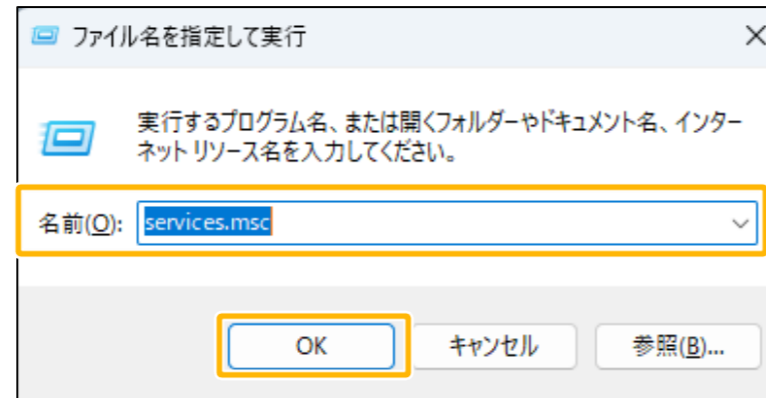
資格確認端末のWindows Updateを停止し、自動更新しないようにします。

- 1 キーボードの [Windows] キーを押しながら [R] キーを押します。



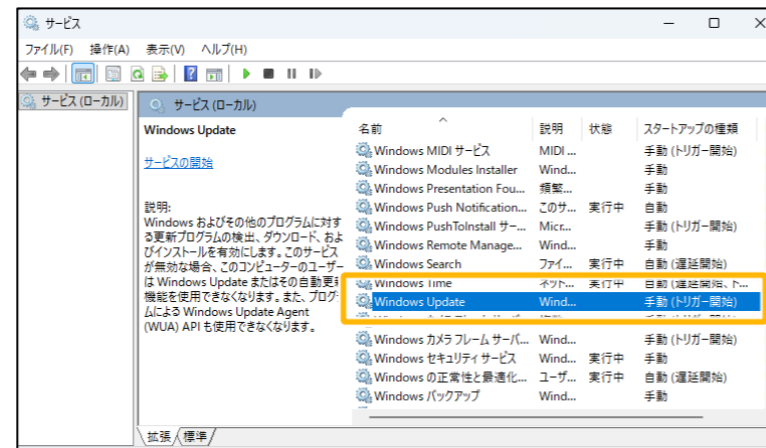
- 2 ファイル名を指定して実行が表示されます。

名前に、**services.msc** と入力し、**OK** をクリックします。



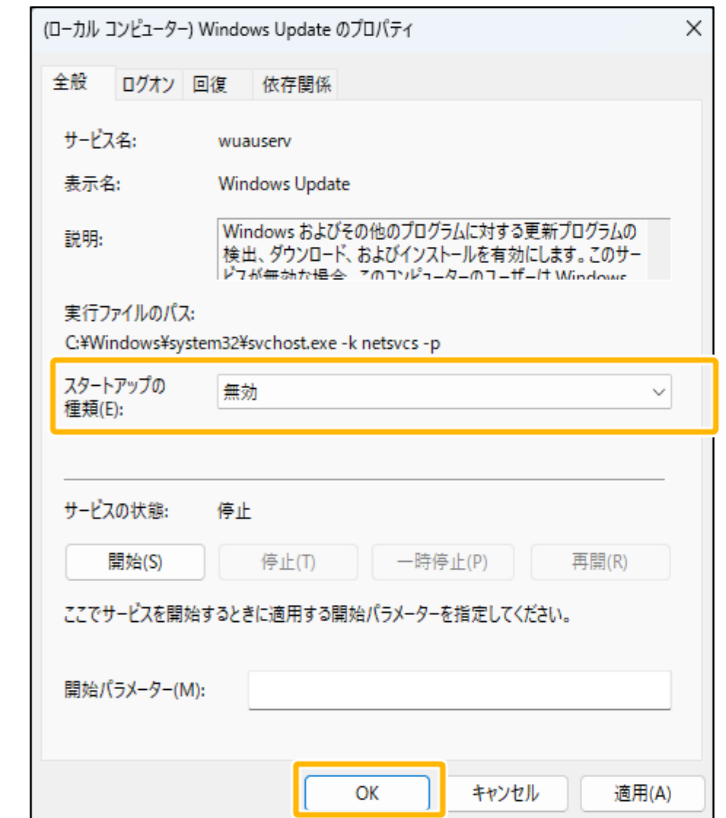
- 3 サービスが表示されます。

一覧から**Windows Update**をダブルクリックします。



- 4 Windows Updateのプロパティが表示されます。

全般タブのスタートアップの種類から **無効** を選択し、**OK** をクリックします。

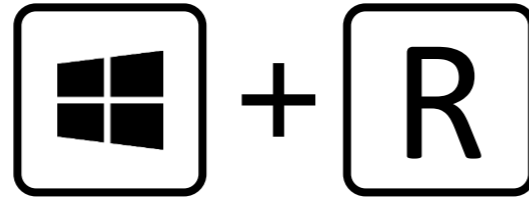


補35

ネットワークアダプターでIPv6のみを利用する場合

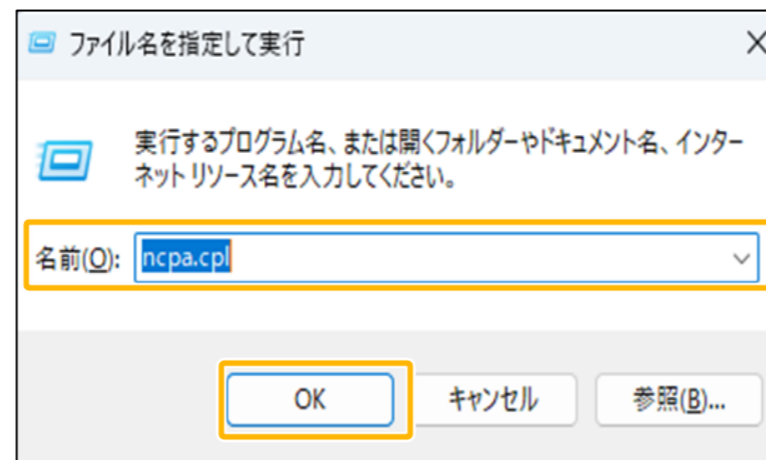
Windows11のIPv4を無効にし、IPv6のみ使用する設定を行います。

- 1 キーボードの [Windows] キーを押しながら [R] キーを押します。



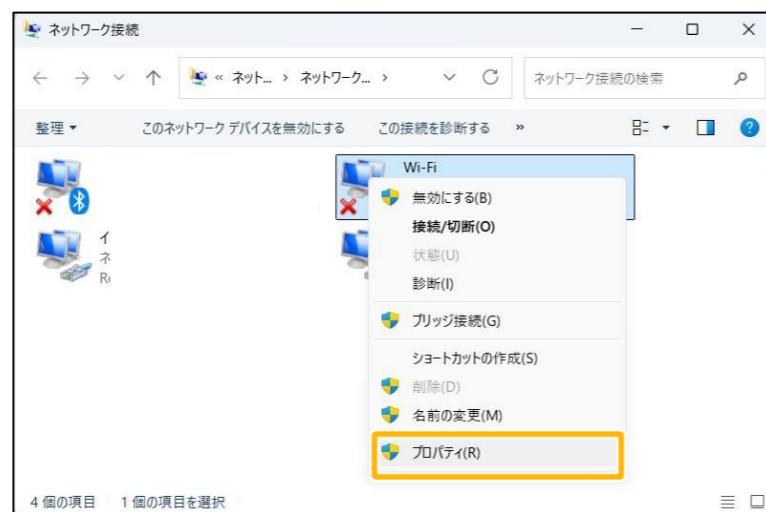
- 2 ファイル名を指定して実行が表示されます。

名前に、**ncpa.cpl** と入力し、**OK** をクリックします。



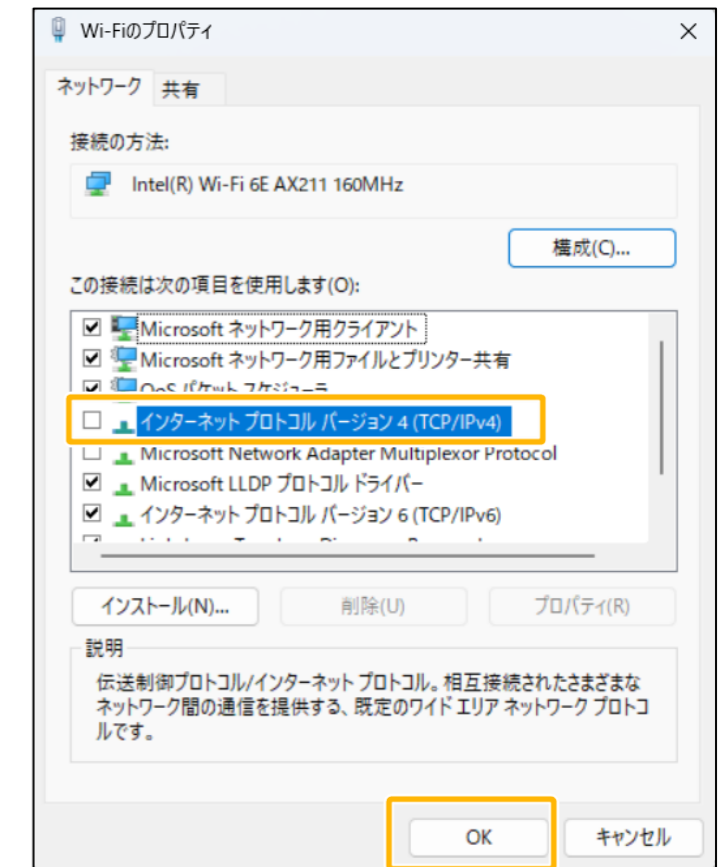
- 3 ネットワーク接続が表示されます。

対象のネットワークアダプターを右クリックし、プロパティをクリックします。



- 4 (ネットワークアダプター)のプロパティが表示されます。

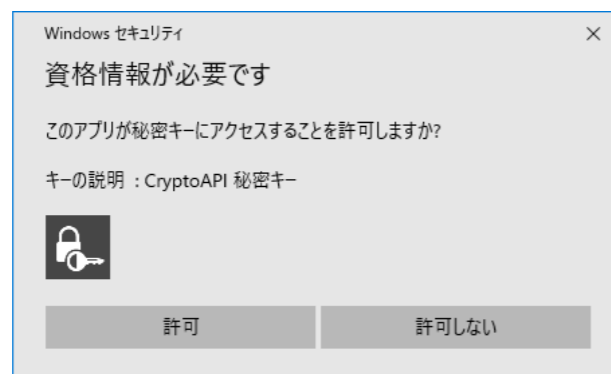
インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4) のチェックを外し、**OK** をクリックします。



補36

オンライン資格確認等システムへログイン時に資格情報を求めるメッセージが表示される場合

オンライン資格確認等システムへログイン時に、資格情報を求める以下のメッセージが表示されることがあります。



許可をクリックするとログインできますが、端末を再起動すると、再度メッセージが表示されます。メッセージを表示しないようにするには、証明書の再インストールが必要です。

- 1 認証局の電子証明書をアンインストールします。

参照先

オンライン請求ネットワーク関連システム共通認証局ユーザーマニュアル
5 電子証明書の削除

- 2 再度、電子証明書をインストールします。

参照先

医療機関等向けセットアップ手順書（資格確認端末編）
操作6 認証局の電子証明書をインストールする

※手順に漏れがある場合、メッセージが表示され続けるため、ご注意ください。

補37 ブラウザ拡張プラグイン (顔認証ライブラリ含む) のインストール手順について

ブラウザ拡張プラグイン (顔認証ライブラリ含む) はバージョン2.3.0以降、インストール手順を変更しております。
やむを得ず過去のバージョンのインストーラーからインストールする場合は、変更前のインストール手順にてインストールを行ってください。

注意

やむを得ず、2.3.0より前のバージョンでインストールを行った場合は、以降の手順でインストールする配信アプリケーションで、アップデートを必ず実施し、最新にしてください。最新にアップデート後、以下の手順書に従ってブラウザ拡張プラグインを入れ替えてください。

(参照先) 医療機関等向けブラウザ拡張機能入替手順

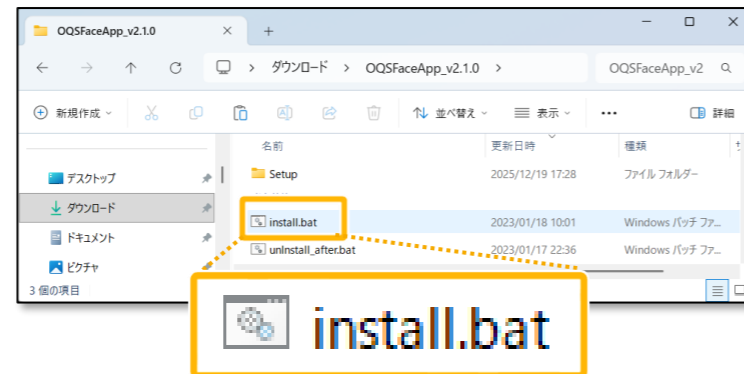
● 2.1.0以降～2.3.0より前のバージョンのアプリケーションをインストールする場合

1 install.batをダブルクリックします。

💡 こんなときは！

メッセージ画面が表示された場合

WindowsによってPCが保護されましたというメッセージ画面が表示された場合は、実行ボタンをクリックしてインストールを続行します。



💡 こんなときは！

インストール処理が実行できない場合

実行ディレクトリのパスに使用できない文字が含まれる場合、インストーラーを実行できません。

参照先 ▶ 別紙 トラブルシューティング 補28 アプリケーションのインストールに失敗した場合

以降は、下記手順書の ② 以降と同じです。

参照先

医療機関等向けセットアップ手順書
操作2 ブラウザー (Microsoft Edge) を設定する
<ブラウザ拡張プラグインを実行します>

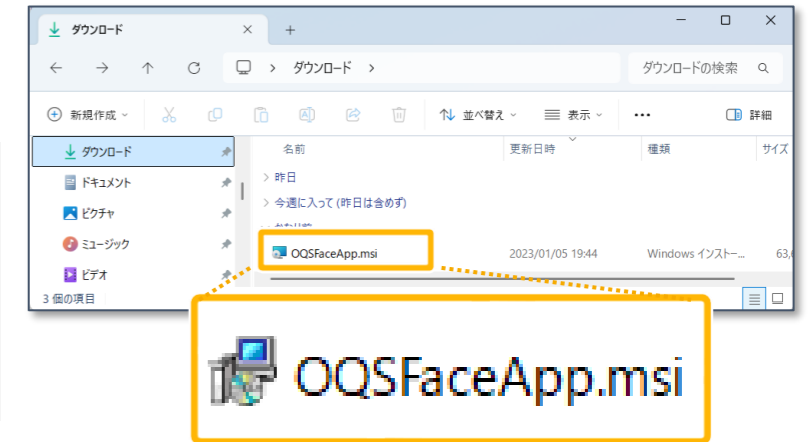
● 2.1.0より前のバージョンのアプリケーションをインストールする場合

1 OQSFaceApp.msiをダブルクリックします。

💡 こんなときは！

メッセージ画面が表示された場合

WindowsによってPCが保護されましたというメッセージ画面が表示された場合は、実行ボタンをクリックしてインストールを続行します。



以降は、下記手順書の ② 以降と同じです。

参照先

医療機関等向けセットアップ手順書
操作2 ブラウザー (Microsoft Edge) を設定する
<ブラウザ拡張プラグインを実行します>

補38 連携アプリケーションのインストール手順について

連携アプリケーションはバージョン2.2.0以降、インストール手順を変更しております。
過去のバージョンのインストーラーからインストールする場合は、変更前のインストール手順にてインストールを行ってください。

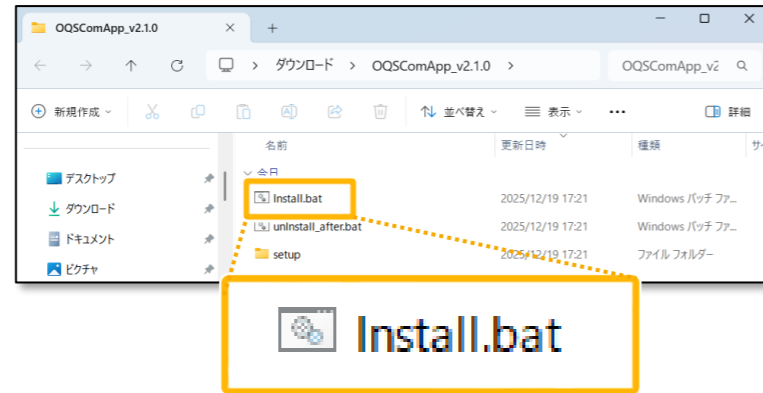
● 2.1.0以降～2.2.0より前のバージョンのアプリケーションをインストールする場合

1 Install.batをダブルクリックします。

💡 こんなときは！

メッセージ画面が表示された場合

WindowsによってPCが保護されましたというメッセージ画面が表示された場合は、**実行ボタン**をクリックしてインストールを続行します。



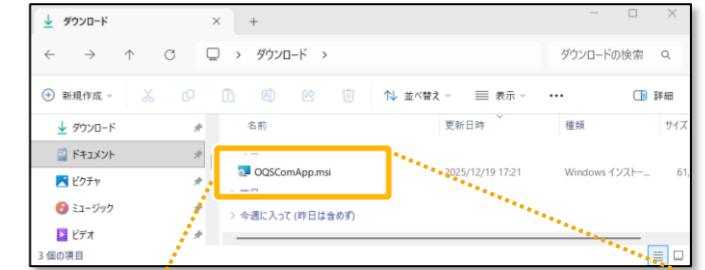
● 2.1.0より前のバージョンのアプリケーションをインストールする場合

1 OQSCComApp.msiをダブルクリックします。

💡 こんなときは！

メッセージ画面が表示された場合

WindowsによってPCが保護されましたというメッセージ画面が表示された場合は、**実行ボタン**をクリックしてインストールを続行します。



OQSCComApp.msi

以降は、下記手順書の 2 以降と同じです。

参照先

医療機関等向けセットアップ手順書

操作5 連携アプリケーションをインストールする
<01 連携アプリケーションインストーラーの実行>

💡 こんなときは！

インストール処理が実行できない場合

実行ディレクトリのパスに使用できない文字が含まれる場合、インストーラーを実行できません。

参照先 別紙 トラブルシューティング 補28 アプリケーションのインストールに失敗した場合

以降は、下記手順書の 2 以降と同じです。

参照先

医療機関等向けセットアップ手順書

操作5 連携アプリケーションをインストールする
<01 連携アプリケーションインストーラーの実行>

補39

各種アプリケーションのインストール・バージョンアップが正しく行われない

インストールしたバージョンが0.0.0になっている

ブラウザ拡張プラグイン（顔認証ライブラリ含む）と連携アプリケーションにおいて、インストールが正しく実行されておりません。アプリケーションを最新までアップデートいただくことで、事象解消されます。

- ・配信アプリケーションの自動更新を有効にしている場合、次回、配信アプリケーションが起動したタイミングで自動更新が行われます。今すぐダウンロード機能での更新も可能です。

- ・手動で再インストールする場合、最新バージョンのインストーラで上書きインストールを行ってください。

配信アプリケーションの配信実績が更新されていない

配信アプリケーションの「配信実績の確認」機能の配信実績情報は、下記のタイミングで更新されます。手動でバージョンアップを行った場合、配信実績は更新されません。

- ・配信アプリケーションの初回起動時に各種アプリケーションのバージョン情報を取得
- ・配信アプリケーションを使用した、「自動更新」及び「今すぐダウンロード」機能にてバージョンアップした際、バージョン情報を更新

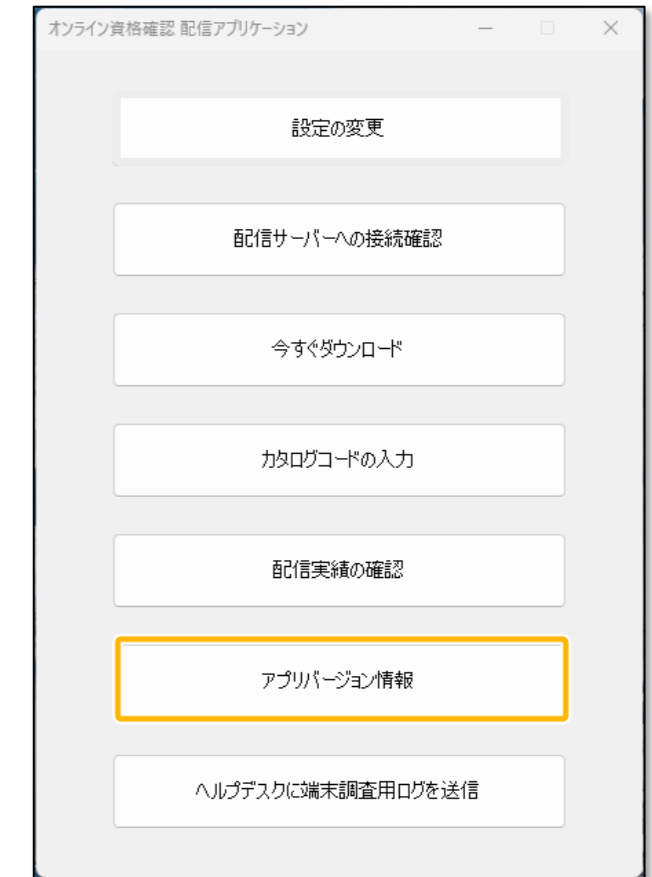
各種アプリケーションのインストールしているバージョンは以下の手順で確認できます。

- 1 スタートメニュー又はショートカットから**オンライン資格確認配信アプリケーション管理ツール**を起動します。

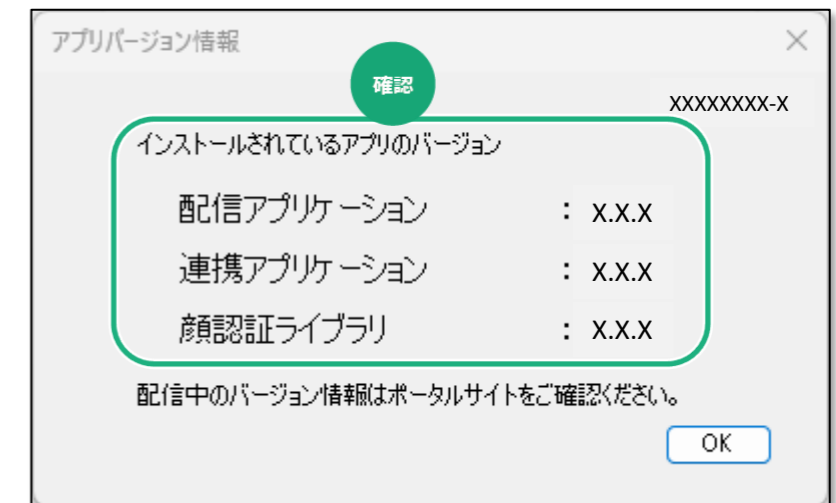


- 2 オンライン資格確認配信アプリケーション管理ツールが表示されます。

アプリバージョン情報をクリックします。



- 3 各アプリのバージョンが表示されます。



補40 医療扶助を受けている被保護者の資格情報を閲覧できない

医療扶助を受けている被保護者の資格情報、医療券・調剤券情報を閲覧する場合は、同情報を閲覧する設定となっているか確認してください。

- 1 オンライン資格確認等システムにアクセスします。



- 2 認証用の証明書の選択が表示されます。

認証用の証明書をクリックし、OKをクリックします。

💡 こんなときは！

認証用の証明書の選択画面が表示されない
証明書が正しくインストールされている
ことを確認してください。



- 3 システムの利用を始め→をクリックします。



- 4 ログイン画面が表示されます。

以下のユーザIDとパスワードを入力し、ログインをクリックします。

- 管理者

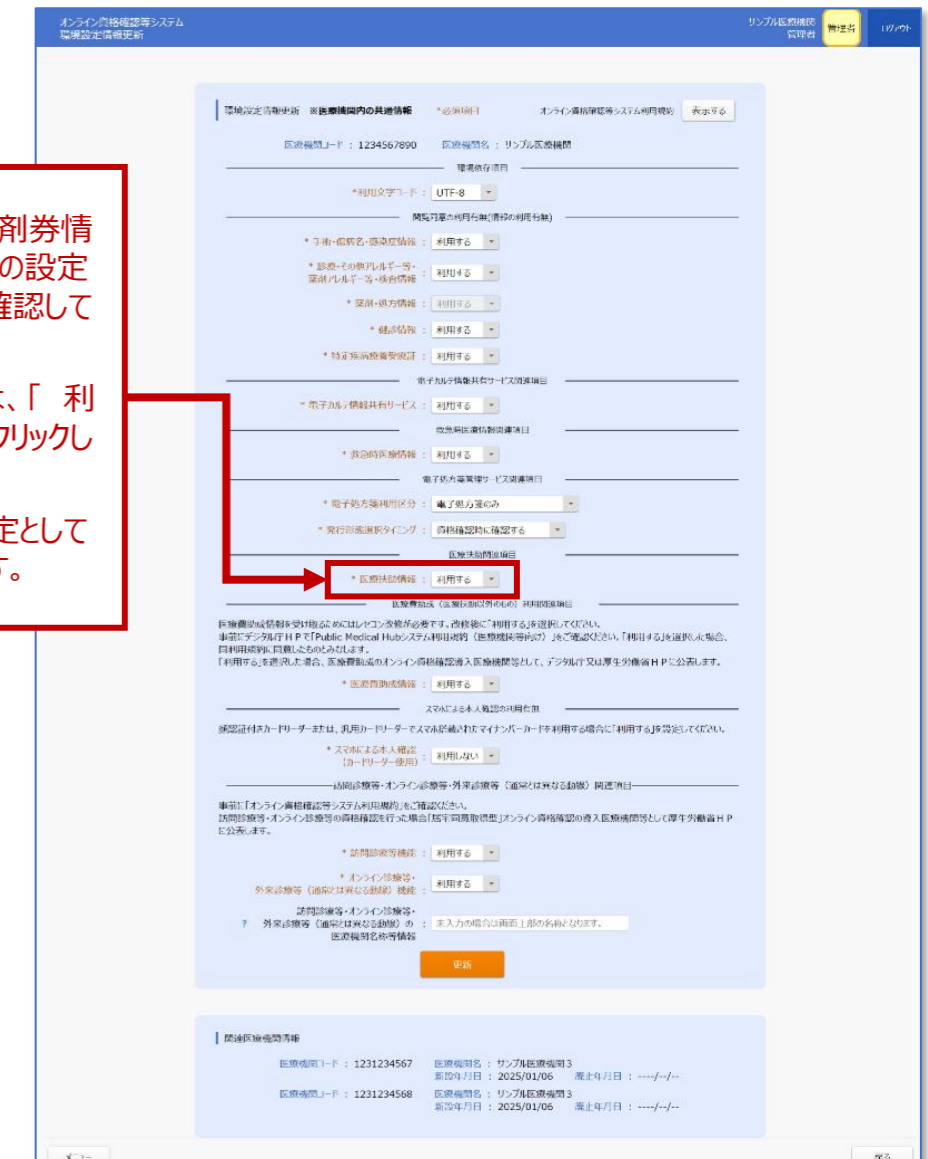


- 5 環境設定情報更新メニューを選択し、医療扶助情報の設定を確認してください。

医療扶助の資格情報、医療券・調剤券情報を閲覧する場合、医療扶助情報の設定が「利用する」になっていることを確認してください。

「利用しない」になっている場合は、「利用する」を選択し、「更新」をクリックしてください。

医療扶助情報については、初期設定として「利用しない」が設定されています。



補41 救急時医療情報が閲覧できない

救急時医療情報を閲覧する場合は、同情報を閲覧する設定となっているか確認してください。

1 オンライン資格確認等システムにアクセスします。



2 認証用の証明書の選択が表示されます。

認証用の証明書をクリックし、OK をクリックします。

こんなときは！

認証用の証明書の選択画面が表示されない
証明書が正しくインストールされている
ことを確認してください。



3 システムの利用を始め→をクリックします。



4 ログイン画面が表示されます。

以下のユーザIDとパスワードを入力し、ログインをクリックします。

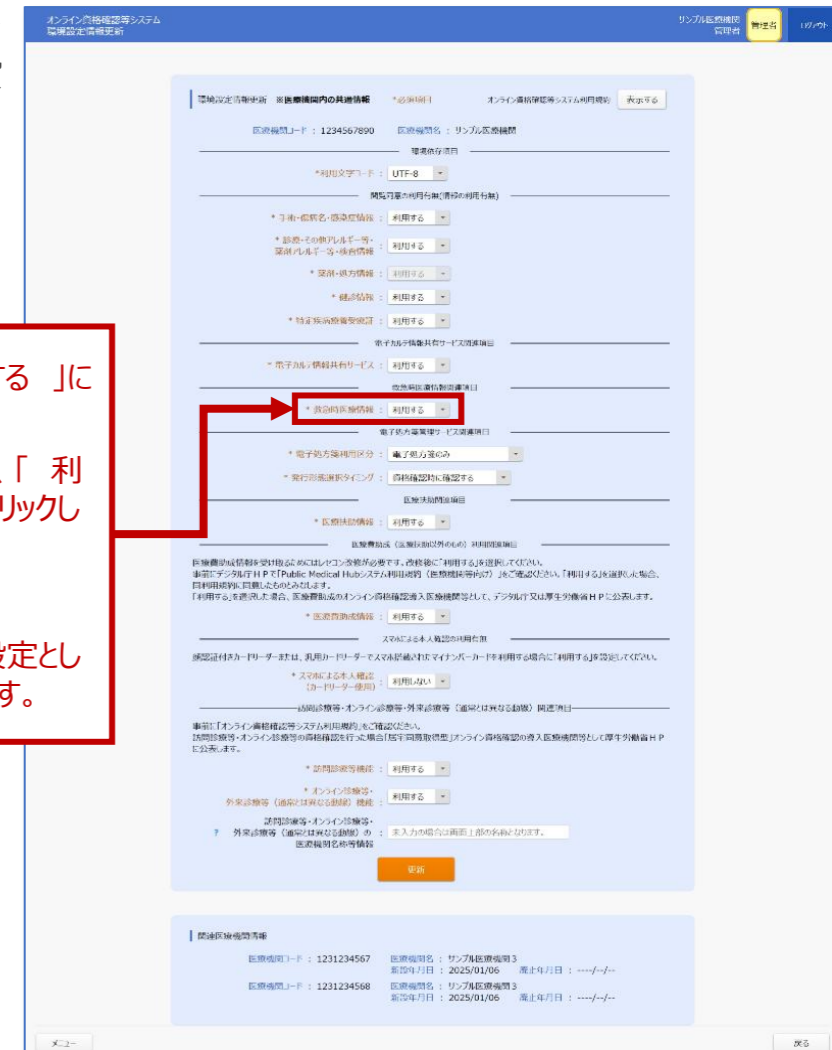
- 管理者



5 環境設定情報更新メニューを選択し、救急時医療情報の設定を確認してください。

救急時医療情報の設定が「利用する」になっていることを確認してください。
「利用しない」になっている場合は、「利用する」を選択し、「更新」をクリックしてください。

救急時医療情報については、初期設定として「利用しない」が設定されています。



注意

環境設定情報更新で閲覧設定を変更できるのは、実施機関から救急時医療情報閲覧の権限を付与された「病院」である医療機関のみです。権限が付与されていない医療機関については、救急時医療情報関連項目が表示されません。

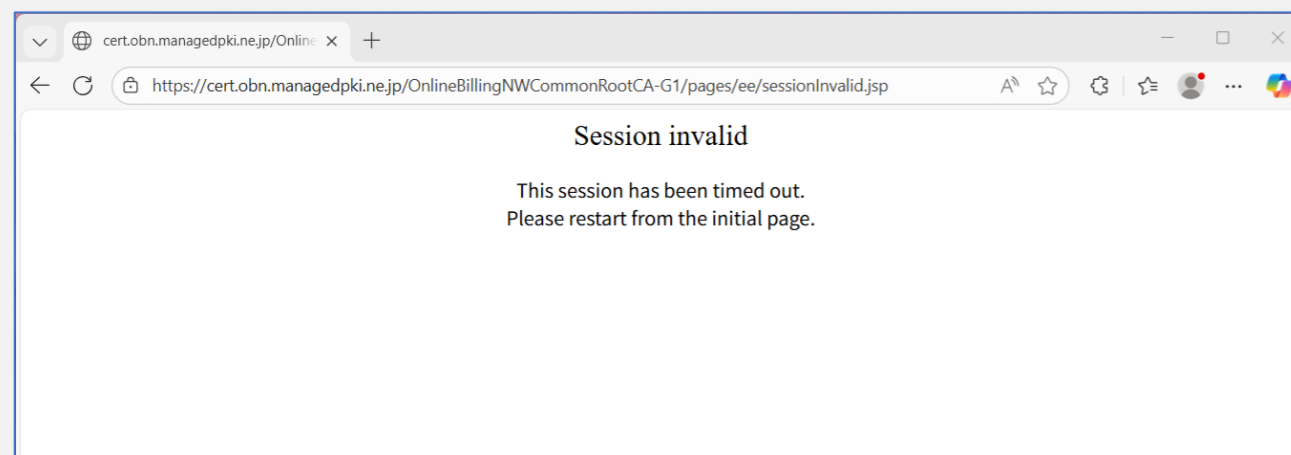
補42 電子証明書の取得サイトURLにアクセスするとエラーとなり、電子証明書がダウンロードできない

電子証明書の申請又は取得サイトURLへアクセスする際にエラーが発生する場合、Microsoft Edgeブラウザの言語の設定が「日本語」以外になっている可能性があります。以下の手順により言語の設定をご確認ください。

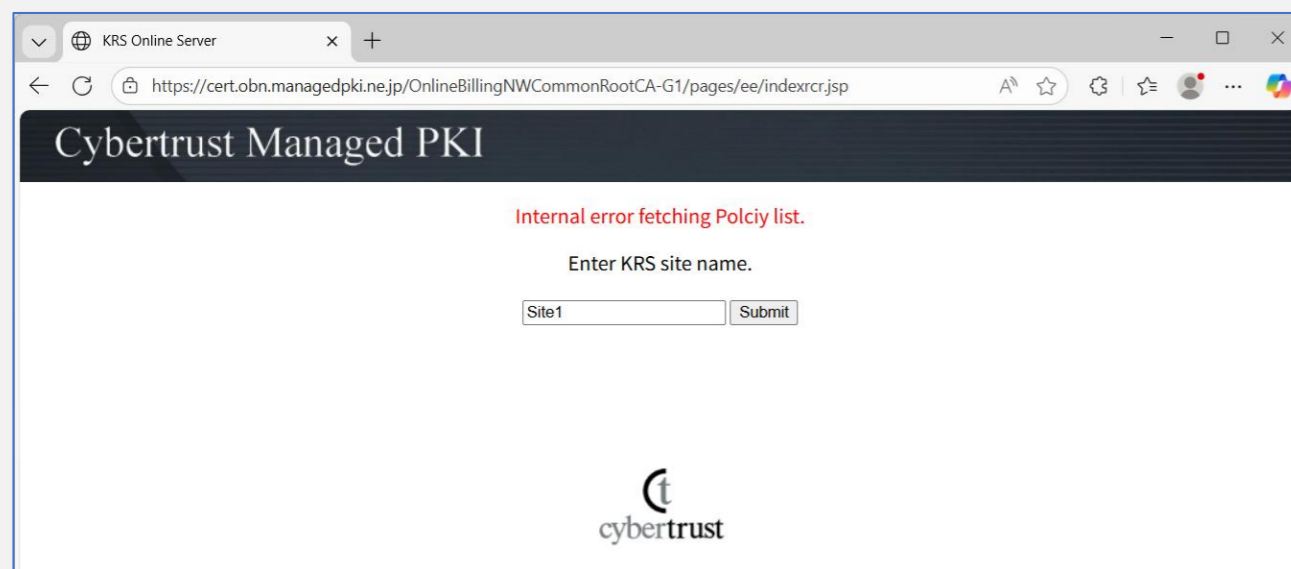
- 電子証明書発行申請サイトURL : <https://cert.obn.managedpki.ne.jp/p/rcr>
- 電子証明書の取得サイトURL : <https://cert.obn.managedpki.ne.jp/p/rcd>

💡 こんなときは！

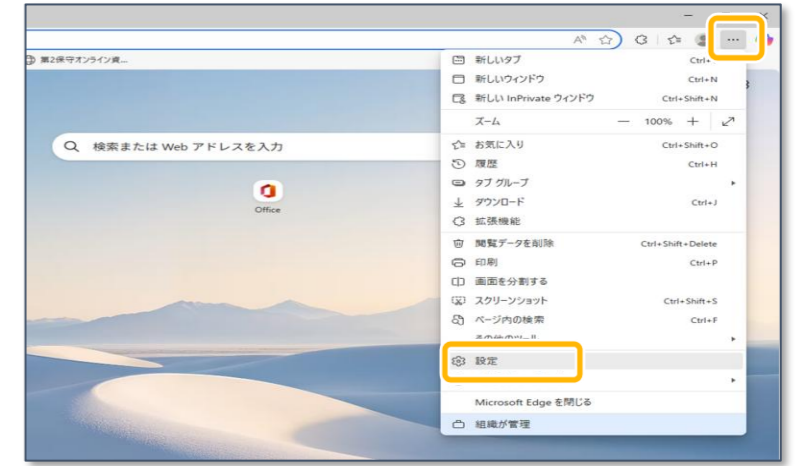
電子証明書の申請又は取得サイトURLへアクセスした場合、以下のエラー画面が表示される



又は



- 1 Microsoft Edgeを起動し、
⋮ (設定など) から**設定**をクリックします。



- 2 設定が表示されます。
言語をクリックします。



- 3 **日本語**が一番上になっていることを確認します。

日本語になっているが、左記のエラー画面が表示される場合は、オンライン資格確認等コールセンターにお問い合わせください。



- 4 **日本語**が一番上になっていない場合、⋮ をクリックし、**一番上へ移動**をクリックします。

Microsoft Edgeを一度閉じていただき、改めてサイトにアクセスしてください。



補43 電子カルテ情報共有サービスが利用できない

電子カルテ情報共有サービス利用する場合は、連携アプリケーション及び顔認証ライブラリ、顔認証付きカードリーダーアプリケーションを下記の対応バージョンにする必要があります。

| クライアントアプリケーション | バージョン |
|----------------------|----------------|
| 配信アプリケーション | 2.0.5以降 |
| 顔認証ライブラリ | 4.0.2以降 |
| 連携アプリケーション | 4.0.0以降 |
| 顔認証付きカードリーダーアプリケーション | ※各社にお問い合わせください |

こんなときは！ 顔認証で電子カルテ情報共有サービスを利用する
連携アプリケーションのインストールが必要です。

また、電子カルテ情報共有サービスを利用する設定となっているか確認してください。

1 オンライン資格確認等システムにアクセスします。



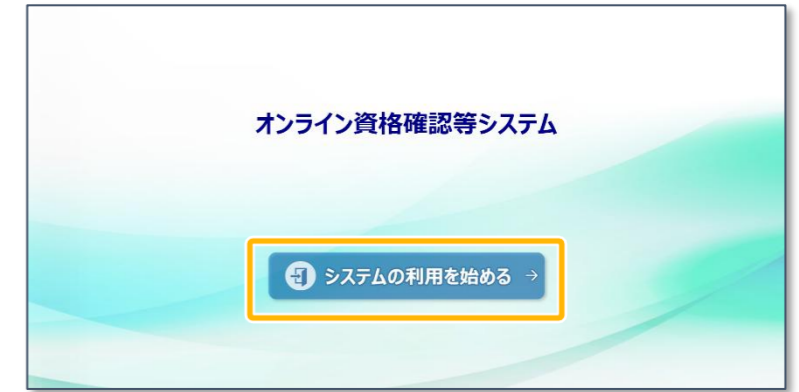
2 認証用の証明書の選択が表示されます。

認証用の証明書をクリックし、OK をクリックします。

こんなときは！ 認証用の証明書の選択画面が表示されない
証明書が正しくインストールされていることを確認してください。



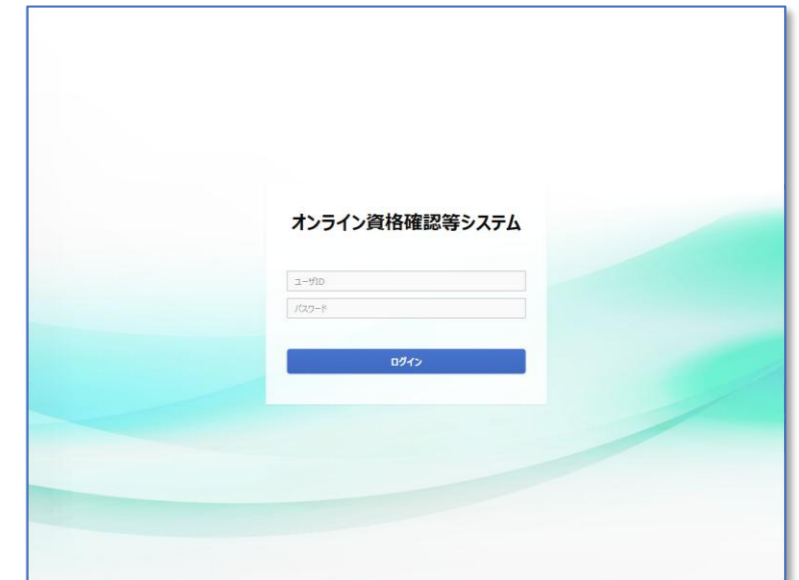
3 システムの利用を始める→をクリックします。



4 ログイン画面が表示されます。

以下のユーザIDとパスワードを入力し、ログインをクリックします。

- 管理者

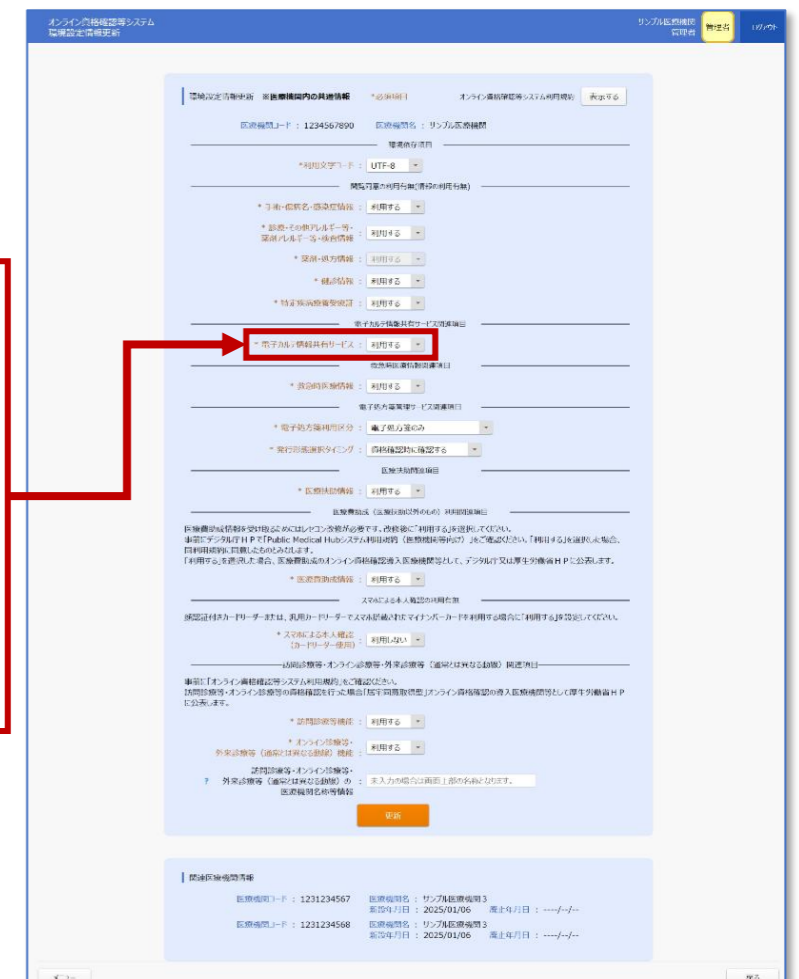


5 環境設定情報更新メニューを選択し、電子カルテ情報共有サービスの設定を確認してください。

電子カルテ情報共有サービスの設定が「利用する」になっていることを確認してください。

「利用しない」になっている場合は、「利用する」を選択し、「更新」をクリックしてください。

電子カルテ情報共有サービスについては、初期設定として「利用しない」が設定されています。



補44 臨床情報の閲覧又は同意ができない

臨床情報の閲覧ができない、又は資格確認時に各臨床情報の閲覧同意を行えない場合は、各臨床情報の閲覧同意する設定となっているか確認してください。

- 1 オンライン資格確認等システムにアクセスします。



- 2 認証用の証明書の選択が表示されます。

認証用の証明書をクリックし、OK をクリックします。

💡 こんなときは！

認証用の証明書の選択画面が表示されない
証明書が正しくインストールされている
ことを確認してください。



- 3 システムの利用を始め→をクリックします。



- 4 ログイン画面が表示されます。

以下のユーザIDとパスワードを入力し、ログインをクリックします。

- 管理者



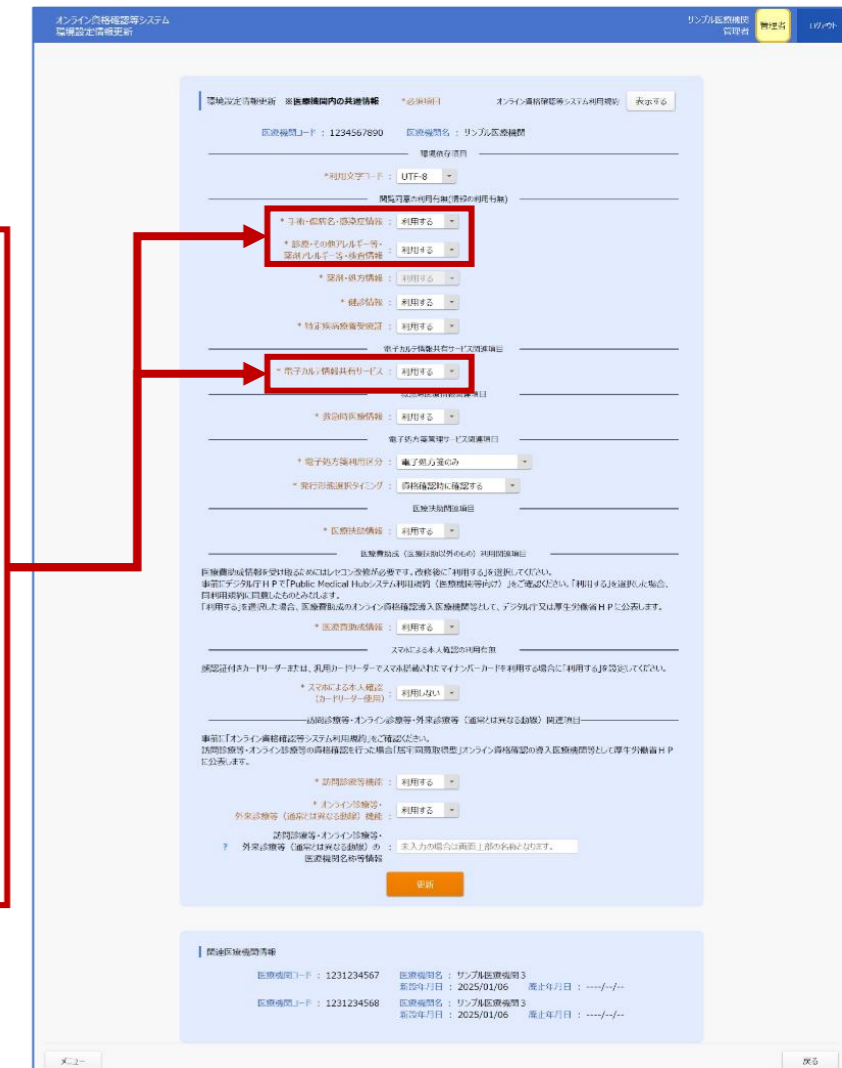
- 5 環境設定情報更新メニューを選択し、臨床情報と電子カルテ情報共有サービスの設定を確認してください。

臨床情報のうちのどれか（傷病名、感染症、
その他アレルギー、薬剤アレルギー、処方）
と電子カルテ情報共有サービスの設定が
「利用する」になっていることを確認してく
ださい。

※臨床情報は電子カルテ情報共有サービス
が「利用する」の場合のみ設定可能です。

「利用しない」になっている場合は、「利
用する」を選択し、《更新》をクリックし
てください。

臨床情報、電子カルテ情報共有サービスに
ついては、初期設定として「利用しない」
が設定されています。



補45 顔認証カードリーダー又は、資格情報照会 (マイナンバーカード) 画面においてスマートフォンのボタンが表示されない

- ・顔認証カードリーダーでスマートフォンにマイナンバーカードを搭載した患者の資格確認が行えない場合は、下記の①、②をご確認ください。
 - ・資格情報照会 (マイナンバーカード) 画面でスマートフォンにマイナンバーカードを搭載した患者の資格確認が行えない場合は、下記の①をご確認ください。
 - ①環境設定画面の**スマホによる本人確認 (カードリーダー使用)** の利用区分を確認してください。
 - ②顔認証カードリーダーと汎用カードリーダーのペアリング登録がされているか確認してください。
- なお、設定に当たっては、各社の取扱説明書、操作マニュアル等を参照してください。

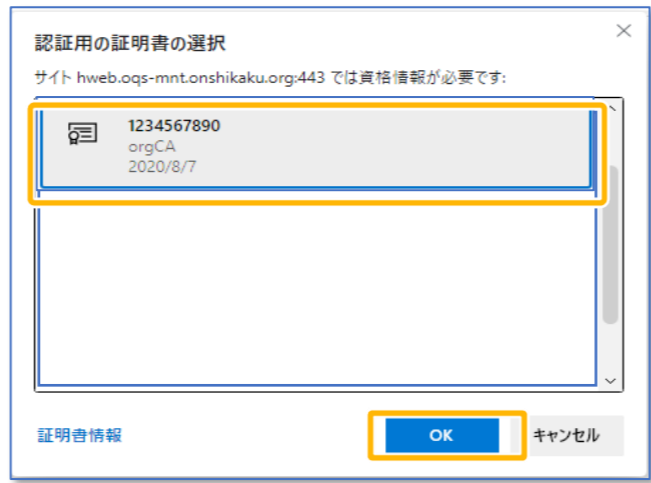
▶▶ 富士通Japan社製：インストールマニュアル、スタートアップガイド
 アルメックス社製：設置マニュアル
 パナソニックコネク社製：取扱説明書 (準備編、本体編)
 キヤノンマーケティングジャパン社製：顔認証付きカードリーダーHi-CARA セットアップマニュアル
 アトラス情報サービス社製：EXC-9000 取扱説明書

1 オンライン資格確認等システムにアクセスします。



2 認証用の証明書の選択が表示されます。

認証用の証明書をクリックし、OK をクリックします。



こんなときは！
 認証用の証明書の選択画面が表示されない
 証明書が正しくインストールされていることを確認してください。

3 システムの利用を始める→をクリックします。



4 ログイン画面が表示されます。

以下の**ユーザID**と**パスワード**を入力し、**ログイン**をクリックします。

- ・ 管理者



5 環境設定情報更新メニューを選択し、スマホによる本人確認 (カードリーダー使用) の設定を確認してください。

スマホによる本人確認 (カードリーダー使用) の設定が「**利用する**」になっていることを確認してください。

「**利用しない**」になっている場合は、「**利用する**」を選択し、「**更新**」をクリックしてください。

スマホによる本人確認 (カードリーダー使用) については、初期設定として「**利用しない**」が設定されています。

